

## 目 次

## 広島大学大学院医歯薬学総合研究科，歯学部及び広島大学病院（歯科領域）

○創生医科学専攻・探索医科学講座	
・ <a href="#">生体材料学研究室</a>	1 頁
・ <a href="#">口腔生化学研究室</a>	4 頁
・ <a href="#">口腔細胞生物学研究室</a>	9 頁
・ <a href="#">細菌学研究室</a>	11 頁
○創生医科学専攻・病態探究医科学講座	
・ <a href="#">口腔生理学研究室</a>	14 頁
・ <a href="#">歯科薬理学研究室</a>	16 頁
○創生医科学専攻・先進医療開発科学講座	
・ <a href="#">口腔顎顔面病理病態学研究室</a>	20 頁
・ <a href="#">歯周病態学研究室及び口腔維持修復歯科（歯周診療科）</a>	28 頁
○展開医科学専攻・病態情報医科学講座	
・ <a href="#">粘膜免疫学・予防歯科学研究室</a>	33 頁
・ <a href="#">歯科放射線学研究室及び口腔再建外科（歯科放射線科）</a>	36 頁
○展開医科学専攻・病態制御医科学講座	
・ <a href="#">口腔成長・発達生物学研究室</a>	40 頁
・ <a href="#">歯科麻酔学研究室及び口腔再建外科（歯科麻酔科）</a>	42 頁
○展開医科学専攻・顎口腔頸部医科学講座	
・ <a href="#">健康増進歯学研究室及び口腔維持修復歯科（むし歯・変色歯診療室）</a>	45 頁
・ <a href="#">口腔外科学研究室及び口腔再建外科（口腔顎顔面再建外科）</a>	50 頁
・ <a href="#">先端歯科補綴学研究室及び口腔維持修復歯科（口腔インプラント診療科）</a>	57 頁
・ <a href="#">歯科補綴学研究室及び口腔維持修復歯科（咬合・義歯診療科）</a>	62 頁
・ <a href="#">歯科矯正学研究室及び口腔健康発育歯科（矯正歯科）</a>	67 頁
・ <a href="#">小児歯科学研究室及び口腔健康発育歯科（小児歯科）</a>	78 頁
○口腔保健学科・口腔保健衛生学講座	
・ <a href="#">社会歯科保健学分野</a>	83 頁
・ <a href="#">チーム歯科医療学分野</a>	86 頁
・ <a href="#">口腔保健管理学分野</a>	90 頁

○口腔保健学科・口腔保健工学講座	
・ <a href="#">基礎口腔科学分野</a>	94 頁
・ <a href="#">生体材料工学分野</a>	96 頁
・ <a href="#">口腔機能修復学分野</a>	99 頁
○ <a href="#">中央研究室</a>	103 頁
○ <a href="#">歯系総合診療科（口腔総合診療科）</a>	105 頁
○ <a href="#">口腔健康発育歯科（予防歯科）</a>	109 頁
○ <a href="#">口腔健康発育歯科（障害者歯科）</a>	112 頁
○ <a href="#">特殊歯科総合治療部</a>	115 頁
○ <a href="#">口腔検査センター</a>	116 頁
○ <a href="#">歯科技工室</a>	121 頁
○ <a href="#">歯科衛生室</a>	123 頁
○ <a href="#">歯科診療所</a>	125 頁
○ <a href="#">医療情報室</a>	127 頁

# 創生医科学専攻・探索医科学講座（生体材料学研究室）

## （１）職員並びに学生

教授        : 岡崎正之  
准教授      : 若狭邦男  
助教        : 野村雄二, 平田伊佐雄  
大学院生   : 錦織良, 増木恒平, 園田喜子, 林田知美

## （２）主な研究活動

- 1: 生体接着分子を付与した機能性生体材料の開発に関する研究
- 2: アパタイト・コラーゲン複合体の生体親和性に関する研究
- 3: 自己組織化単分子膜をモデルとした生体と材料の間の相互作用の研究
- 4: 象牙質接着界面の力学特性および接着理論
- 5: 光重合レジンフィラーの力学特性
- 6: 内分泌攪乱物質のバイオアッセイに関する研究
- 7: 分子レベルにおける歯質接着機構の解明に関する研究
- 8: インプラントの表面改質に関する研究
- 9: 多官能性モノマーの合成および重合特性に関する研究
- 10: キャスタブルガラスセラミックスに関する研究

## （３）研究業績

### A) 原著（症例報告を含む）

- 1: Van Landuyt K.L., Yoshida, Y., Hirata I., Snauwaert J., De Munck J., Okazaki M., Suzuki K., Lambrechts P., and Van Meerbeek B.: Influence of the chemical structure of functional monomers on their adhesive performance. *J Dent Res* 87: 757-761, 2008.
- 2: Hirata I., Okazaki M.: Higher Concentrations of Fluoride Ions Dramatically Inhibit the Survival of Osteoblasts. *J Oral Tissue Engin* 6: 3-8, 2008.
- 3: Nishikiori R., Nomura Y., Sawajiri M., Masuki K., Hirata I., Okazaki M.: Influence of chlorine dioxide on cell death and cell cycle of human gingival fibroblasts. *J Dent* 36: 993-998, 2008.
- 4: Bhawal UK., Sugiyama M., Nomura Y., Kuniyasu H., Tsukinoki K.: Loss of 14-3-3 Sigma Protein Expression and Presence of Human Papillomavirus Type 16 E6 in Oral Squamous Cell Carcinoma. *Arch Otolaryngol Head Neck Surg* 134: 1055-1059, 2008.
- 5: Toda M., Kitazawa T., Hirata I., Hirano Y., Iwata.: Complement activation on surfaces carrying amino groups. *Biomaterials* 29(4): 407-17, 2008.

## B) 総説

- 1: アパタイト合成法の確立と生体材料への応用：岡崎正之：バイオマテリアル 26(2), 101-110, 2008.
- 2: 特集 デンタルセラミックス 歯科領域のセラミックス概説, 特に医歯用材料としてのアパタイト：岡崎正之：セラミックス 43(4), 283-285, 2008.
- 3: 骨様炭酸アパタイトスカフォールドの創製と生体材料への応用：岡崎正之：DE 166, 27-29, 2008.

## C) 著書

- 1: 第2章 歯科生体材料に望まれる特性 I. 生物学的安全性. コア歯科理工学 (小倉英夫他編)：岡崎正之：医歯薬出版 (東京), pp. 23-29, 2008.

## D) その他の出版物

## E) 学会発表

- 1: シンポジウム S1「バイオセラミックス研究の最前線」(基調講演) 歯科用セラミックスの新展開：岡崎正之：日本金属学会 2008 年春期大会 (東京), 2008
- 2: 重粒子線の骨代謝におよぼす影響：澤尻昌彦、野村雄二、滝波修一、谷本啓二：HIMAC 共同利用研究成果発表会 (千葉), 2008
- 3: 新世代「接着理論」の展開 — 破壊強さのマイクロメカニクス—：若狭邦男, 宇野滋, 岡崎正之：第 51 回日本歯科理工学会 (横浜), 2008
- 4: Promoted Bone Formation in Frame-Reinforced CO<sub>3</sub>Ap-Collagen Composites with BMP2: Okazaki M., Hirata I.: The 8th World Biomaterials Congress (Amsterdam), 2008
- 5: Evaluation of Waveform-like Pattern of Cell Proliferations on Self-Assembled Monolayers with a Series of Surface Composition Changes: Hirata I. Okazaki M.: ISNT2008 (Sapporo), 2008
- 6: Application of Nano-crystal CO<sub>3</sub>Ap as Hard Tissue Scaffold Biomaterials: Okazaki M., Hirata I.: ISNT2008 (Sapporo), 2008
- 7: Nano-analysis Model of Adhesive Strength in Dental Bonding Biomaterials (Invited talk): Wakasa K.: ICCE-16 (Kunming Yunnan Province), 2008
- 8: Bone Formation Ability of CO<sub>3</sub>Ap-collagen Sponge Scaffolds with Cytokine: Okazaki M., Hirata I.: ISACB2008 (Manila), 2008
- 9: 新世代「接着理論」の展開 —象牙質接着試験片モデルのmorphology—：若狭邦男, 宇野滋, 岡崎正之：第52回日本歯科理工学会 (大阪), 2008
- 10: 自己組織化単分子膜上でのリン酸カルシウムの表面沈着：平田伊佐雄, 藤井絵里, 長井宏樹, 赤松麻衣, 野村雄二, 岡崎正之：第52回日本歯科理工学会 (大阪), 2008
- 11: 抗感染薬の細胞障害性とアポトーシスに関する研究：錦織良, 野村雄二, 増木恒平, 園田喜子, 平田伊佐雄, 岡崎正之：第52回日本歯科理工学会 (大阪), 2008
- 12: シンポジウム8 バイオマテリアルとしての新規材料：アパタイトに秘められた可能性を探る：岡崎正之：日本バイオマテリアルシンポジウム2008 (東京), 2008
- 13: 表面プラズモン解析装置を用いたリン酸カルシウム沈殿の観察：平田伊佐雄, 野村雄二,

- 岡崎正之：日本バイオマテリアルシンポジウム2008（東京），2008
- 14: Expression of MMP13 in chondroblast cells and rat tibiae after exposure to accelerated carbon ions: Banik S., Sawajiri M., Nomura Y., Takinami S., Mizoe J., Tanimoto: K. The 7th Asian Congress of Oral and Maxillo-Facial Radiology (Nara), 2008
- 15: 2006Grant経過報告 「人工骨髄用スcaffoldsを目指した生体材料の創製」：平田伊佐雄，岡崎正之：第46回日本人工臓器学会大会（東京），2008

#### （4）科学研究費補助金等の受領状況

- 1: 科学研究費補助金（基盤研究（B））継続：岡崎正之：炭酸アパタイト・コラーゲン複合体 scaffoldsへのアフィニティー化学修飾と機能制御.（課題番号 18390515）. 1,900 千円
- 2: 科学研究費補助金（基盤研究（C））継続：野村雄二：両生類試験法による歯科材料の内分泌攪乱作用評価に関する研究.（課題番号 19592239）. 800 千円
- 3: 科学研究費補助金（若手研究（B））新規：平田伊佐雄：サイトカインを固定化した機能性チタンインプラントの開発.（課題番号 20791467）. 1,800 千円

#### （5）学会賞等の受賞状況

- 1: 平田伊佐雄，野村雄二，伊東学，島津篤，岡崎正之：第46回日本人工臓器学会大会：日本人工臓器学会論文賞：2008

#### （6）特許

- 1: 藤田耕之輔，野村雄二，グエン チャン グエン，ハニー エル シェミー：腫瘍を処置するための組成物およびその製造方法（特願 2008-206084）.

[目次へ戻る](#)

## 創生医科学専攻・探索医科学講座（口腔生化学研究室）

### （１）職員並びに学生

教授 : 加藤幸夫  
准教授 : 能城光秀  
助教 : 河本健、藤本勝巳  
大学院生 : 上嶋太一  
留学生 : Tania Saskianti  
事務補佐員 : 倉本美佐乃

### （２）主な研究活動

- 1: 間葉系幹細胞の基礎と臨床
- 2: 軟骨細胞の分化機構
- 3: 分子時計系の解明

### （３）研究業績

#### A) 原著（症例報告を含む）

- 1: Intravenous administration of bone marrow stromal cells increases survivin and Bcl-2 protein expression and improves sensorimotor function following ischemia in rats. : Okazaki T, Magaki T, Takeda M, Kajiwara Y, Hanaya R, Sugiyama K, Arita K, Nishimura M, Kato Y, Kurisu K. : *Neurosci Lett*. 2008 Jan 10;430(2):109-14.
- 2: Basic-helix-loop-helix (bHLH) transcription factor DEC2 negatively regulates vascular endothelial growth factor expression.: Sato F, Bhawal UK, Kawamoto T, Fujimoto K, Imaizumi T, Imanaka T, Kondo J, Koyanagi S, Noshiro M, Yoshida H, Kusumi T, Kato Y, Kijima H.: *Genes Cells*. 2008 Feb;13(2):131-44.
- 3: Period is involved in the proliferation of human pancreatic MIA-PaCa2 cancer cells by TNF-alpha.: Suzuki T, Sato F, Kondo J, Liu Y, Kusumi T, Fujimoto K, Kato Y, Sato T, Kijima H. : *Biomedical Research*, 2008 Apr;29(2):99-103.
- 4: DEC1 modulates the circadian phase of clock gene expression.: Nakashima A, Kawamoto T, Honda KK, Ueshima T, Noshiro M, Iwata T, Fujimoto K, Kubo H, Honma S, Yorioka N, Kohno N, Kato Y. : *Mol Cell Biol*. 2008 Jun;28(12):4080-92.
- 5: Human mismatch repair gene, MLH1, is transcriptionally repressed by the hypoxia-inducible transcription factors, DEC1 and DEC2.: Nakamura H, Tanimoto K, Hiyama K, Yunokawa M, Kawamoto T, Kato Y, Yoshiga K, Poellinger L, Hiyama E, Nishiyama M.: *Oncogene*. 2008 Jul 10;27(30):4200-9.

- 6: Enhancement of Osteogenesis by Concanavalin A in Human Bone Marrow Mesenchymal Stem Cell Cultures.: Sekiya K, Nishimura M, Suehiro F, Nishimura H, Hamada T, Kato Y.: International Journal of Artificial Organs, 2008 Aug;31(8):708-15.
- 7: Activation of TGF- $\beta$ /activin signaling resets circadian clock through rapid induction of Dec1 transcripts.: Kon N., Hirota T., Kawamoto T., Kato Y., Tsubota T., and Fukada Y.: Nature Cell Biology, 2008 Dec;10(12):1463-9.

## B) 総説

- 1: 酸素分圧と分子時計系(DEC1/DEC2)のクロストーク: 河本健、加藤幸夫: 医学のあゆみ, 225(13), 1297-1302, 2008.6.28.
- 2: DEC と生物時計: 河本健、加藤幸夫: 広島大学歯学雑誌第 40 巻、第 1 号、66-69,2008.
- 3: ラット正中矢状縫合部骨欠損へ移植した骨髄由来間葉系幹細胞の骨再生誘導能: 天井薫、加来真人、河田俊嗣、當麻愉依子、山中克之、辻紘一郎、加藤幸夫、丹根一夫: 広島大学歯学雑誌第 40 巻、第 2 号、106-111,2008.
- 4: 論文英語ライティング—第 1 回—主語さえ決まればあとは簡単!: 河本健: 実験医学 26, 2261-2266,2008.
- 5: 論文英語ライティング—第 2 回—主語の選び方: 河本健: 実験医学 26, 2637-22642,2008.
- 6: 論文英語ライティング—第 3 回—主語-動詞の骨格の作り方: 河本健: 実験医学 26, 2637-22642,2008.
- 7: 論文英語ライティング—第 4 回—主語-動詞/動詞-目的語の組み合わせ: 河本健: 実験医学 26, 2975-2980,2008.
- 8: 論文英語ライティング—第 5 回—受動態の使い方: 河本健: 実験医学 26, 3080-3084,2008.
- 9: Collocational Analysis of Life Science English (5) – Lists of common collocates of act, action, activate, activation, active, activity –.: Ohtake H, Fujita N. Kaneko S, Morren B, Kawamoto T. : Studia Humana et Naturalia 42, 26-69,2008.

## C) 著書

- 1: 「遺伝子医学 MOOK 別冊 進み続ける細胞移植治療の実際 下巻」第 3 章 細胞移植のための周辺環境 7 間葉系幹細胞の性質、能力の評価: 五十嵐晃、加藤幸夫: 編集 田畑泰彦 (株) メディカルドゥ 総ページ数 278,262-266,2008 年 5 月 31 日発行

## D) その他の出版物

- 1: 無血清の幹細胞培養液 採血不要、再生医療に活用 広大発 VB 「ツーセル」 大日本住友製薬と契約: 辻紘一郎、加藤幸夫: 日本経済新聞 2008 年 4 月 8 日
- 2: 「体内時計」の全容解明 広島大研究グループ 遺伝子の作用証明 治療法開発に期待: 加藤幸夫: 中国新聞 2008 年 4 月 15 日
- 3: 広島大発ベンチャー①ツーセル バイオ特許企業に仲介 ニーズ探り有効活用導く: 辻

紘一郎、加藤幸夫：中国新聞 2008年11月19日

## E) 学会発表

### 1) 一般講演

- 1：新規無血清培地 STK2 におけるヒト間葉系幹細胞の増殖能評価：石川格、澤田留美、加藤幸夫、辻紘一郎、邵金昌、山田貴史、佐藤道夫、土屋利江：第7回日本再生医療学会総会 平成20年3月13-14日 名古屋市
- 2：明暗条件は永久軟骨の成長・代謝を制御する：本田清昌、河本健、中島歩、上嶋太一、藤本勝巳、西村正宏、能城光秀、加藤幸夫：第21回日本軟骨代謝学会 平成20年3月21-22日 京都市
- 3：軟骨細胞分化の概日リズムを制御する新規時間制御配列の探索と、そこに関与する転写因子の同定：上嶋太一、河本健、本田清昌、能城光秀、藤本勝巳、後藤修、加藤幸夫：第21回日本軟骨代謝学会 平成20年3月21-22日 京都市
- 4：ラット成長板軟骨における核内受容体の発現様式と機能の解析：尾崎徳継、能城光秀、本田清昌、林原久美子、河本健、藤本勝巳、丹根一夫、加藤幸夫：第21回日本軟骨代謝学会 平成20年3月21-22日 京都市（ポスター発表）
- 5：ライフサイエンス辞書：英語での研究論文作成を支援する辞書システム—第5報—：河本健、大武博、藤田信之、鶴川義弘、竹内浩昭、竹腰正隆、金子周司：第41回広島大学歯学会総会 平成20年6月15日 広島市
- 6：bHLH型転写因子 DEC1 は概日リズム遺伝子の位相を調節する：河本健、中島歩、本田清昌、上嶋太一、藤本勝巳、能城光秀、加藤幸夫：第18回中国・四国骨代謝研究会 平成20年7月12日 岡山市
- 7：間葉系幹細胞の骨分化初期に関与する転写調節関連遺伝子の探索：末廣史雄、西村正宏、鎌田浩一、坪井将洋、堀智治、河本健、加藤幸夫：第18回中国・四国骨代謝研究会 平成20年7月12日 岡山市
- 8：概日リズムにおける調節因子 DEC1 ノックアウトマウスにおける行動および遺伝子発現のリズム解析：河本健：第50回歯科基礎医学会 平成20年9月23-25日 広島市
- 9：bHLH型転写因子 DEC1 ノックアウトマウスにおける行動および遺伝子発現の概日リズム解析：河本健、中島歩、本田清昌、上嶋太一、藤本勝巳、加藤幸夫：第26回日本骨代謝学会学術集会 平成20年10月29-31日 大阪市（ポスター発表）
- 10：医学用語シソーラスに基づく効率的医療情報検索システムの開発：金子周司、鶴川義弘、大武博、河本健、竹内浩昭、竹腰正隆、天野博夫、藤田信之：第28回医療情報学連合大会 平成20年11月23-25日 横浜市
- 11：DECは核内受容体のコリプレッサーとして機能する：長克武、能城光秀、加藤幸夫、河本健、藤本勝巳、槇島誠：第31回日本分子生物学会年会 第81回日本生化学会合同大会 平成20年12月9-12日 神戸市
- 12：bHLH型転写因子 DEC は概日リズムの位相調節に関与する：河本健、中島歩、本田清昌、上嶋太一、能城光秀、藤本勝巳、本間さと、加藤幸夫：第31回日本分子生物学会年会 第81回日本生化学会合同大会 平成20年12月9-12日 神戸市

13: 細胞外 pH のアルカリ性化は Dec1 遺伝子の誘導を介して概日時計の位相をリセットする : 金尚宏、広田毅、河本健、加藤幸夫、坪田匡史、深田吉孝 : 第 31 回日本分子生物学会年会 第 81 回日本生化学会合同大会 平成 20 年 12 月 9~12 日 神戸市

## 2) 招待講演

- 1: 再生医療と時間医療の夜明け : 加藤幸夫 : 広島生命科学・バイオテクノロジーシンポジウム 平成 20 年 3 月 18 日 広島市
- 2: HYALURONAN-degrading Capability and Multipotency of Synovial Fibroblasts in Comparison with Bone Marrow Mesenchymal Stem Cells and Skin Fibroblasts. : Yukio Kato : 13TH CONGRESS OF THE ASIA PACIFIC LEAGUE OF ASSOCIATIONS FOR RHEUMATOLOGY 平成 20 年 9 月 23 -27 日 横浜市
- 3: Roles of DEC1 and DEC2 in the core loop of the molecular clock outputs to proliferation and differentiation. : Yukio Kato : The 6th Annual Meeting for the Japanese Association for Cancer and Hypoxia Research 平成 20 年 11 月 29-30 日 広島市

## (4) 科学研究費補助金等の受領状況

### 1) 科学研究費補助金

- 1: 基盤研究(A) : 加藤幸夫、能城光秀、河本健、藤本勝巳, 骨・軟骨の分子時計系の解明とその標的遺伝子の同定. 17209060. 7,400 千円
- 2: 基盤研究 (C) : 能城光秀, 時計遺伝子 DEC1 および DEC2 のコレステロール代謝酵素のリズム発現調節機構. 19590226. 1,000 千円
- 3: 基盤研究 (C) : 藤本勝巳, 心筋および神経分化における bHLH 型転写因子 DEC2 の機能解析. 19592147. 1,000 千円
- 4: 基盤研究 (C) : 大武博、鶴川義弘、河本健、竹内浩昭、竹腰正隆, 医学関連英語論文作成支援のための共起表現研究. 1959051701. 1,300 千円 (分担金 100 千円)

### 2) 受託研究費

- 1: (独) 科学技術振興機構 研究成果活用プラザ広島における実用化のための育成研究 : 加藤幸夫, 間葉系幹細胞 (MSC) の安全性判定法とそれを用いた細胞治療法の事業化. 27,000 千円
- 2: 中外製薬 (株) : 加藤幸夫, 関節組織別のヒアルロン酸代謝関連遺伝子発現解析. 4,000 千円
- 3: 理化学研究所バイオリソースプロジェクト : 加藤幸夫, 間葉系幹細胞の寄託. 4,000 千円 :
- 4: (株) ツーセル : 加藤幸夫, 骨・軟骨組織の再生療法. 3,534 千円

## (5) 学会賞等の受賞状況

## (6) 特許

- 1: 加藤幸夫、邵金昌、辻紘一郎 : 分化誘導培地用添加剤およびその利用, (出願番号 : 特願

2008-289146 号、2008) (出願人：科学技術振興機構、(株) ツーセル), 出願日：平成 20 年  
11 月 11 日

[目次へ戻る](#)

## 創生医科学専攻・探索医科学講座（口腔細胞生物学研究室）

### （2）職員並びに学生

教授 : 内田 隆

助教 : 樋山伸二、渡邊峰朗

### （2）主な研究活動

- 1 : エナメル質形成機構の形態学的・分子生物学的研究
- 2 : 骨代謝に関する形態学的・分子生物学的研究
- 3 : 顎顔面領域における関連痛と炎症性サイトカインとの関連性

### （3）研究業績

#### A) 原著（症例報告を含む）

- 1 : Spatiotemporal expression of ameloblastin isoforms during murine tooth development. Ravindranath RM, Devarajan A, Uchida T., *J. Biol. Chem.* 282:36370-36376, 2007. (2007年度の追加)
- 2 : 上下顎移動術と舌縮小術を用いた骨格性開咬の一治療例：西美香，渡邊峰朗，高橋拡史，末川洋平，谷本幸太郎，虎谷茂昭，福井康人，岡本哲治，丹根一夫：広島大学歯学会雑誌：40(2):136-144, 2008

#### B) 総説

#### C) 著書

#### D) その他の出版物

#### E) 学会発表

- 1 : IL-1beta in the trigeminal nucleus contributes to mechanical allodynia in rats with painful mononeuropathy induced by mental nerve transection. Takahashi, K., Watanabe,

M., Suekawa, Y., Ito, G., Nishi, M., Uchida, T., Tanne, K. Hiroshima Conference on Education and Science in Dentistry (Hiroshima) 2008.

2 : A role of trigeminal gap junctions in the potential involvement in pain induced by trigeminal nerve injury. Suekawa, Y., Watanabe, M., Takahashi, K., Ito, G., Nishi, M., Uchida, T., Tanne, K. Hiroshima Conference on Education and Science in Dentistry (Hiroshima) 2008.

3 : 爬虫類エナメル質のアメロゲニンの免疫組織化学：笹川一郎、横須賀広之、石山巳喜夫、三上正人、内田 隆：第 113 回日本解剖学会総会・全国学術集会（大分），2008.

4 : Trigeminal gap junctions: Potential involvement in pain induced by trigeminal nerve injury.: Suekawa, Y., Watanabe, M., Takahashi, K., Ito, G., Uchida, T., Tanne, K. 第 50 回歯科基礎医学会学術大会・総会（東京），2008.

5 : エストロゲン投与した雄ウズラの骨髄骨形成期における破骨細胞の出現：樋山伸二、渡邊峰朗、内田隆：第 50 回歯科基礎医学会学術大会・総会（東京），2008.

6 : 硬骨魚類のエナメル質の形態学および免疫組織学的観察：笹川一郎、横須賀広之、石山巳喜夫、内田 隆：第 50 回歯科基礎医学会学術大会・総会（東京），2008.

7 : エナメルリン遺伝子機能不全マウスを用いた歯胚の組織学的観察：織田進也、関口 浩、新谷誠康、澤田 隆、柳沢孝彰、内田 隆：第 50 回歯科基礎医学会学術大会・総会（東京），2008.

8 : 骨芽細胞における retinoic acid early gene inducible gene-1 の発現について：島津 篤、河原和子、内田 隆：第 50 回歯科基礎医学会学術大会・総会（東京），2008.

#### (4) 科学研究費補助金等の受領状況

1 : 平成 20 年度「広島大学研究支援金」(若手研究者支援型)：樋山伸二：骨代謝調節と幹細胞ニッチに果たすエストロゲンとその標的因子の役割の解明：1,000 千円

[目次へ戻る](#)

## 創生医科学専攻・探索医科学講座（細菌学研究室）

### （１）職員並びに学生

教授 : 菅井基行  
准教授 : 小松澤均（２月まで、３月から鹿児島大教授）  
助教 : 藤原環、加藤文紀  
特別研究員 : 應原一久（ボストン フォーサイス河井ラボ）、大貝悠一（２月まで）  
技術補佐員 : 貴田直美（５月末まで）、佐伯直美、藤原奈津美  
大学院生 : 森岡志摩 D3、Panida Thianiasrisung (D3)、Rika Rosida（３月末除籍）、藤原奈津美 M2、藤本浩章 M2、西本有紘 M2（６月から研究室を変更）、桑原隆一 M1

### （２）主な研究活動

- 1: ペプチドグリカン加水分解酵素に関する研究
- 2: MRSA の薬剤耐性メカニズムおよび分子疫学
- 3: シグナル伝達を修飾する細菌毒素に関する研究
- 4: 歯周病原性細菌の病原因子の機能解析
- 5: ブドウ球菌の比較ゲノム解析
- 6: 黄色ブドウ球菌の遺伝子発現解析

### （３）研究業績

#### A) 原著（症例報告を含む）

- 1: Increased resistance to cationic antimicrobial peptide LL-37 in methicillin-resistant strains of *Staphylococcus aureus*: K. Ouhara, H. Komatsuzawa, T. Kawai, H. Nishi, T. Fujiwara, Y. Fujiue, M. Kuwabara, K. Sayama, K. Hashimoto, M. Sugai: *Journal of Antimicrobial Chemotherapy* 61, 1266-1269, 2008.
- 2: Cytotoxic distending toxin induces caspase-dependent and -independent cell death in MOLT-4 and Jurkat cells: M. Ohara, T. Hayashi, Y. Kusunoki, K. Nakachi, T. Fujiwara, H. Komatsuzawa, M. Sugai: *Infection and Immunity* 76(10):4783-4791, 2008
- 3: Transcriptional promoter analysis on the *nlpI* gene expression in *Escherichia coli* K12: Masaru Ohara, Hiroshi Yoshino, Tetsuji Ogawa, Motoyuki Sugai: *Hiroshima University Dental Journal* 40 (1), 30-37, 2008.
- 4: NICU 内での水平感染が遺伝子解析で証明しえたブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群の 2 症例. 江頭昌典、田川正人、平瀉洋一、菅井基行、森内浩幸. *感染症学雑誌* 82, 34-37, 2008.
- 5: 広島大学病院（歯科）総合診療室歯科治療ユニット水系の緑膿菌、レジオネラ属、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌と一般検査. 小原勝、吉野宏、田口則宏、田中良治、田村裕子、小川郁

子、菅井基行、小川哲次. 広島大学歯学雑誌 40(2): 129-135, 2008.

### C) 著書

1:第10章 口腔細菌学」p. 319-324 医科細菌学 南江堂 2008年7月20日 改訂第4版 菅井 基行

### D) その他の出版物

### E) 学会発表

- 1: ペプチドグリカン加水分解酵素とその基質認識機構. : シンポジウム ペプチドグリカン研究のルネッサンス 特に自然免疫を廻って: 菅井基行: 第81回 日本細菌学会総会 3/24 京都
- 2: ファージ感染における宿主溶菌酵素の役割: シンポジウム 「Revival of Bacteriophage」: 藤原 環: 第81回 日本細菌学会総会 3/26 京都
- 3: 血清中における黄色ブドウ球菌の病原性因子発現解析: 大貝悠一、小松澤均、菅井基行: 第81回 日本細菌学会総会 3/24 京都
- 4: 多剤耐性緑膿菌から検出された新規アミノグリコシドアセチルトランスフェラーゼ遺伝子の解析: 小林加直、甲田俊太郎、加藤文紀、藤原環、板羽秀之、大毛宏喜、菅井基行: 第62回 日本細菌学会中国・四国支部総会 10/18 松山
- 5: In113 に由来する blaIMP-1 インテグロンカセットを含む mobile genetic element の解析: 甲田俊太郎、小原 勝、菅井 基行: 第78回日本感染症学会西日本地方会学術集会 12/6 広島
- 6: blaIMP-1 インテグロンカセットに存在する新規アミノグリコシドアセチルトランスフェラーゼ遺伝子の解析: 小林加直、甲田俊太郎、板羽秀之、大毛宏喜、菅井基行: 第78回日本感染症学会西日本地方会学術集会 12/6 広島
- 7: 黄色ブドウ球菌の系統解析: 菅井 基行: 第56回日本化学療法学会西日本支部総会 合同シンポジウム S1-4 「感染制御の新時代に向けて: 基礎・臨床・コメディカルのパートナーシップ」12/6 広島
- 8: 2007 年度広島地区における院内分離耐性緑膿菌に関する検討-多剤耐性緑膿菌を中心に- : 清水亘、小林加直、甲田俊太郎、大毛宏喜、菅井基行: 第56回日本化学療法学会西日本支部総会 12/7 広島
- 9: 黄色ブドウ球菌の病原性 —系統解析からのアプローチ: 菅井基行: 第4回岩手耐性菌研究会 12/20 盛岡

### F) 招待講演・シンポジスト・その他の講演

- 1: ペプチドグリカン加水分解酵素とその基質認識機構: シンポジウム ペプチドグリカン研究のルネッサンス 特に自然免疫を廻って: 菅井基行: 第81回日本細菌学会総会 3/24, 京都

- 2: ファージ感染における宿主溶菌酵素の役割: シンポジウム 「Revival of Bacteriophage」: 藤原環: 第81回日本細菌学会総会 3/26, 京都
- 3: 黄色ブドウ球菌の系統解析: 菅井基行: 第56回日本化学療法学会西日本支部総会 合同シンポジウム S1-4 「感染制御の新時代に向けて: 基礎・臨床・コメディカルのパートナーシップ」 12/6, 広島
- 4: 黄色ブドウ球菌の病原性 —系統解析からのアプローチ: 菅井基行: 第4回岩手耐性菌研究会 12/20, 盛岡

#### (4) 科学研究費補助金等の受領状況

- 1: 基盤研究 C: 菅井基行: 細胞周期特異的阻害因子 CDT の核内作用
- 2: 若手研究 B: 藤原: 口腔レンサ球菌の産生する自己溶解酵素 Aml に関する研究
- 3: 特定研究 計画班: 菅井: ゲノム解析に基づく院内感染原因菌の病原性評価のための情報基盤の確立
- 4: 基盤研究 B 分担 (継続): 早産予防を視野に入れた妊婦の口腔ケアの開発
- 5: 乳酸菌研究会奨学寄付金: 菅井基行

#### (5) 学会賞等の受賞状況

なし

#### (6) 特許

- 1: 出願国 US: 出願番号 10/583, 127, 発明の名称 Bactericide against Streptococcus mutans and Streptococcus sobrinus, 出願日 12/4/2008
- 2: 出願国 NZ: 出願番号 548511, 発明の名称 Bactericide against Streptococcus mutans and Streptococcus sobrinus, 出願日 12/4/2008

[目次へ戻る](#)

## 創生医科学専攻・病態探究医科学講座（口腔生理学研究室）

### （１） 職員並びに学生

教 授：柴芳樹

准 教 授：廣野力

講 師：杉田誠

助 教：岩佐佳子

大学院生：丸山たかね，井上麻知子

### （２） 主な研究活動

- 1: 味覚器・唾液腺等の機能と制御
- 2: 分泌制御とイオンチャネル・トランスポーター機能の分子生理学的解析
- 3: 味覚受容機構
- 4: 口腔粘膜増殖分化制御と細胞間相互作用
- 5: 咀嚼・嚥下と自律神経活動

### （３） 研究業績

#### A) 原著

- 1: Suppression of carbachol-induced oscillatory  $\text{Cl}^-$  secretion by forskolin in rat parotid and submandibular acinar cells: Shintani, T., Hirono, C., Sugita, M., Iwasa, Y., Shiba, Y.: *Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol.* 294, G738-G747, 2008.
- 2: Involvement of cytoskeletal integrity in the regulation of  $\text{Cl}^-$  and amylase secretion from rat parotid acinar cells: Kongo, H., Hirono, C., Sugita, M., Iwasa, Y., Shiba, Y.: *Biomed Res.* 29, 131-139, 2008.
- 3: Irsogladine maleate counters the interleukin-1 beta-induced suppression in gap-junctional intercellular communication but does not affect the interleukin-1 beta-induced zonula occludens protein-1 levels in human gingival epithelial cells: Fujita, T., Ashikaga, A., Shiba, H., Kajiya, M., Kishimoto, A., Hirata, R., Tsunekuni, N., Hirono, C., Kawaguchi, H., Shiba, Y., Kurihara, H.: *J Periodontal Res.* 43, 96-102. 2008.

#### B) 総説

#### C) 著書

- 1: 第1章II細胞の一般的機能；基礎歯科生理学 第5版（森本俊文，山田好秋編）：柴 芳樹：

医歯薬出版（東京），pp.10-19, 2008.

- 2: 第3章 体液；基礎歯科生理学 第5版（森本俊文，山田好秋編）：柴 芳樹：医歯薬出版（東京），pp.58-66, 2008.

#### D) その他の出版物

#### E) 学会発表

- 1: ラット耳下腺導管細胞のCa<sup>2+</sup>依存性陰イオン分泌の二相性制御：廣野 力，杉田 誠，岩佐 佳子，柴 芳樹：第50回歯科基礎医学会学術大会（東京），2008.
- 2: Characterization of the neurons in the nucleus of the solitary tract, labeled by the transsynaptic tracer originating from specific taste receptor cells: Sugita, M.: The 6th International Symposium on Molecular and Neural Mechanisms of Taste and Olfactory Perception (Fukuoka), 2008.

#### (4) 科学研究費補助金等の受領状況

- 1: 戦略的創造研究推進事業 個人型研究（さきがけ）：継続：杉田 誠，味覚により惹起される行動と情動の神経回路基盤. 7,000 千円

#### (5) 学会賞等の受賞状況

#### (6) 特許

[目次へ戻る](#)

## 創生医科学専攻・病態探究医科学講座（歯科薬理学研究室）

### （１）職員並びに学生

教授　　：土肥敏博  
准教授　：森田克也  
助教　　：北山友也，岡広子  
大学院生：貴船幸基

### （２）主な研究活動

- 1: 細胞機能発現の原点ともなるべき細胞内Ca<sup>2+</sup>動態について、特にcyclic ADP-riboseを中心に、神経伝達物質、ホルモン及び唾液の分泌ならびに好中球活性化における役割の解析
- 2: 細胞膜輸送蛋白、特に神経伝達物質トランスポーター、ヌクレオシドトランスポーターの神経疾患、脊髄痛覚伝導、薬物作用、薬物中毒、好中球活性化などにおける役割の解析
- 3: 中枢神経系における痛覚伝導機構、神経因性疼痛発症機序など疼痛とその制御に関する研究
- 4: 神経幹細胞を含む神経系前駆細胞の分化制御及び同細胞の口腔領域疾患への応用に関する研究

### （３）研究業績

#### A) 原著（症例報告を含む）

- 1: P2X(7) receptor stimulation in primary cultures of rat spinal microglia induces downregulation of the activity for glutamate transport: N. Morioka, M.J. Abdin, T. Kitayama, K. Morita, Y. Nakata and T. Dohi: *Glia*, 56, 528-538, 2008.
- 2: Cyclic ADP-ribose mediates formyl methionyl leucyl phenylalanine (fMLP)-induced intracellular Ca<sup>2+</sup> rise and migration of human neutrophils: K. Morita, M. Saida, N. Morioka, T. Kitayama, Y. Akagawa and T. Dohi: *J. Pharmacol. Sci.*, 106, 492-504, 2008.
- 3: Glycinergic mediation of tactile allodynia induced by platelet-activating factor (PAF) through glutamate-NO-cyclic GMP signalling in spinal cord in mice: K. Morita, T. Kitayama, N. Morioka and T. Dohi: *Pain*, 138, 525-536, 2008.
- 4: Spinal antiallodynia action of glycine transporter inhibitors in neuropathic pain models in mice: K. Morita, N. Motoyama, T. Kitayama, N. Morioka, K. Kifune and T. Dohi: *J. Pharmacol. Exp. Ther.*, 326, 633-645, 2008.
- 5: The regulation of glycine transporter GLYT1 is mainly mediated by protein kinase Calpha in C6 glioma cells: N. Morioka, M.J. Abdin, K. Morita, T. Kitayama, Y. Nakata and T. Dohi: *Neurochem. Int.*, 53, 248-254, 2008.

- 6: Group III metabotropic glutamate receptor activation suppresses self-replication of undifferentiated neocortical progenitor cells: N. Nakamichi, K. Yoshida, Y. Ishioka, JO. Makanga, M. Fukui, M. Yoneyama, T. Kitayama, N. Nakamura, H. Taniura and Y. Yoneda: *J. Neurochem.*, 105, 1996-2012, 2008.
- 7: Promotion of neuronal differentiation through activation of N-methyl-D-aspartate receptors transiently expressed by undifferentiated neural progenitor cells in fetal rat neocortex: M. Yoneyama, N. Nakamichi, M. Fukui, T. Kitayama, DD. Georgiev, JO. Makanga, N. Nakamura, H. Taniura and Y. Yoneda: *J. Neurosci. Res.*, 86, 2392-2402, 2008.
- 8: Up-regulation of ciliary neurotrophic factor receptor expression by GABAA receptors in undifferentiated neural progenitors of fetal mouse brain: M. Fukui, N. Nakamichi, M. Yoneyama, K. Yoshida, S. Ozawa, T. Kitayama, N. Nakamura, H. Taniura and Y. Yoneda: *J. Neurosci. Res.*, 86, 2615-2623, 2008.
- 9: Down-regulation of norepinephrine transporter expression on membrane surface induced by chronic administration of desipramine and the antagonism by co-administration of local anesthetics in mice: L. Song, T. Kitayama, K. Morita, N. Morioka and T. Dohi: *Neurochem. Int.*, 52, 826-833, 2008.
- 10: Cementoblast response to low- and high-intensity ultrasound: DA. Dalla-Bona, E. Tanaka, T. Inubushi, H. Oka, A. Ohta, H. Okada, M. Miyauchi, T. Takata and K. Tanne: *Arch. Oral Biol.*, 53, 318-323, 2008.
- 11: Prostaglandin E2 inhibits mineralization and enhances matrix metalloproteinase-13 in mature cementoblasts mainly via the EP4 pathway: H. Oka, M. Miyauchi, K. Sakamoto, M. Kitagawa, K. Noguchi, MJ. Somerman and T. Takata: *Arch. Oral Biol.*, 53, 243-249, 2008.

## B) 総説

- 1: 痛くない！？—無痛無汗症(CIPA)の症状と発症機構—：渡邊素子、大植香菜、神山長慶、嶋田陽介、柳麻紀、岡広子、森岡徳光、北山友也、土肥敏博：*広島大学歯学部雑誌*, 40, 1-9, 2008.
- 2: グリシントランスポーターと疾患・薬物作用：森田克也、北山友也、土肥敏博：*Clinical Neuroscience別冊* 26, 10, 1102-1103, 2008.

## C) 著書

## D) その他の出版物

## E) 学会発表

- 1: 神経因性疼痛形成および維持におけるグリシンシグナル関連蛋白質発現解析：北山友也、森田克也、本山直世、岡広子、土肥敏博：第81回日本薬理学会年会(横浜), 2008.
- 2: グルタミン酸誘発アロディニア応答におけるグリシン受容体 $\alpha 3$ の関与：森田克也、本山直世、北山友也、貴船幸基、土肥敏博：第81回日本薬理学会年会(横浜), 2008.

- 3: 選択的スプライシングによるカテコールアミントランスポーター発現・機能の調節: 十川千春, 熊谷圭, 光畑智恵子, 十川紀夫, 香西克之, 森田克也, 土肥敏博, 北山滋雄: 第81回日本薬理学会年会(横浜), 2008.
- 4: ストレプトゾトシン誘発有痛性糖尿病ニューロパチーモデルマウスにおけるグリシントランスポーター阻害薬の鎮痛作用: 本山直世, 森田克也, 北山友也, 西村英紀, 土肥敏博: 第128回日本歯科保存学会春季学術大会(新潟), 2008.
- 5: 脊髄ミクログリアにおけるATP受容体を介したグルタミン酸トランスポーター制御機構: 森岡徳光, 北山友也, 森田克也, 仲田義啓, 土肥敏博: 第3回トランスポーター研究会年会(京都), 2008.
- 6: 神経因性疼痛に対するグリシントランスポーターの役割—痛みの制御の可能性—: 北山友也, 森田克也, 本山直世, 岡広子, 土肥敏博: 第3回トランスポーター研究会年会(京都), 2008.
- 7: 血小板活性化因子(PAF)受容体阻害薬による神経因性疼痛寛解作用: 森田克也, 本山直世, 北山友也, 岡広子, 西村英紀, 土肥敏博: 第113回日本薬理学会近畿部会(岡山), 2008.
- 8: 血小板活性化因子(PAF)の脊髄内投与によるアロディニア発症におけるNO-cGMPカスケードを介したグリシン受容体 $\alpha 3$  (Gly $\alpha 3$ )の関与: 本山直世, 森田克也, 北山友也, 西村英紀, 土肥敏博: 第50回日本歯科基礎医学会学術大会ならびに総会(東京), 2008.
- 9: ヒトドパミントランスポーター遺伝子転写活性に対するニコチンの調節作用について: 十川紀夫, 大山和美, 十川千春, 平井幹士, 森田克也, 土肥敏博, 北山滋雄: 第50回日本歯科基礎医学会学術大会ならびに総会(東京), 2008.
- 10: 神経因性疼痛形成段階で認められるグリシンシグナル変調に関する薬理学的研究: 北山友也, 森田克也, 本山直世, 西村英紀, 土肥敏博: 第50回日本歯科基礎医学会学術大会ならびに総会(東京), 2008.
- 11: 神経因性疼痛で認められるグリシンシグナル賦活による疼痛抑制効果: 北山友也, 森田克也, 本山直世, 西村英紀, 土肥敏博: 第18回日本臨床精神神経薬理学会, 第38回日本神経精神薬理学会合同大会(東京), 2008.
- 12: 神経因性疼痛における発症と脳由来神経栄養因子(BDNF)の関与について: 本山直世, 森田克也, 北山友也, 西村英紀, 土肥敏博: 第47回広島県歯科医学会・第92回広島大学歯学会・日本歯科技工会中国・四国支部第3回学術大会併催(広島), 2008.
- 13: 神経損傷後疼痛モデルにおけるグリシン神経を介した鎮痛作用: 本山直世, 森田克也, 北山友也, 西村英紀, 土肥敏博: 第129回日本保存学会秋季学術大会(富山), 2008.
- 14: 神経因性疼痛発症時におけるCl<sup>-</sup>輸送体発現制御機構: 北山友也, 本山直世, 森田克也, 岡広子, 西村英紀, 土肥敏博: 第114回日本薬理学会近畿部会(神戸), 2008.

## F) シンポジウム

- 1: 末梢組織において発現するカテコラミントランスポーター選択的スプライシングバリエーションの発現・機能調節について: 十川千春, 熊谷圭, 光畑智恵子, 十川紀夫, 香西克之, 森田克也, 土肥敏博, 北山滋雄: 第3回トランスポーター研究会年会(京都), 2008.
- 2: 摂食障害から検討するパーキンソン病: 北山友也, 鬼塚悠里, 宋莉秋, 森岡徳光, 森田克也, 土肥敏博: 第18回日本臨床精神神経薬理学会, 第38回日本神経精神薬理学会合同大

会(東京), 2008.

#### (4) 科学研究費補助金等の受領状況

- 1: 科学研究費補助金(基盤研究(B)) 継続: 土肥敏博, アロディニア発症の分子機構とその治療薬の開発. 課題番号 18390491. 2,210 千円
- 2: 科学研究費補助金(基盤研究(C)) 継続: 光畑智恵子, 内分泌攪乱物質が発達期の脳ドパミン神経系に及ぼす影響. 課題番号 19592354. 1,950 千円
- 3: 科学研究費補助金(若手研究(B)) 継続: 北山友也, 神経因性疼痛発症機構におけるグリシンシグナルの役割と RNA 干渉による治療薬開発. 課題番号 19791365. 1,820 千円
- 4: 科学研究費補助金(若手研究(B)): 岡広子, 歯周組織特異的構成細胞による口腔顎顔面領域の疼痛制御機序の解明. 課題番号 20791352. 2,340 千円

#### (5) 学会賞等の受賞状況

- 1: 日本神経精神薬理学会 2008 年度非臨床系学術賞: 北山友也, 2008.

#### (6) 特許

[目次へ戻る](#)

# 創生医科学専攻・先進医療開発科学講座

## (口腔顎顔面病理病態学研究室)

### (1) 職員並びに学生

教授 : 高田隆  
准教授 : 宮内睦美  
講師 : 工藤保誠 (学内)  
助教 : 北島正二郎  
大学院生 : 飯塚新二, 坂本宜也子, B.S.M.Samadarani Siriwardena, 川添祐亮, Mohammad Reza Keikhaee, 斎広瑩, 吉田真希, Elsayed Deraz, 古庄寿子

### (2) 主な研究活動

- 1 : 口腔扁平上皮癌の増殖・進展に関する分子病理学的研究
- 2 : 歯周組織の再生機構に関する実験病理学的研究
- 3 : 歯周組織の破壊機構に関する実験病理学的研究
- 4 : 歯原性および唾液腺腫瘍の細胞分化と診断基準に関する研究

### (3) 研究業績

#### A) 原著 (症例報告を含む)

- 1 : Oncogenic role of nuclear accumulated Aurora-A. : Tatsuka M, Sato S, Kanda A, Miki T, Kamata N, Kitajima S, Kudo Y, Takata T. : Mol Carcinog.(印刷中)
- 2 : Aberrant beta-catenin expression and adenomatous polyposis coli gene mutation in ameloblastoma and odontogenic carcinoma. : Siriwardena BS, Kudo Y, Ogawa I, Tilakaratne WM, Takata T. : Oral Oncol. (印刷中)
- 3 : Effects of mechanical stimulation by a powered toothbrush on healing of periodontal tissue in rat model of periodontal disease. Ekuni D, Yamanaka R, Yamamoto T, Miyauchi M, Takata T, Watanabe T. : J Periodontol.(印刷中).
- 4 : Effects of ultrasound on the proliferation and differentiation of cementoblast lineage cells. : Inubushi T, Tanaka E, Rego EB, Kitagawa M, Kawazoe A, Ohta A, Okada H, Koolstra JH, Miyauchi M, Takata T, Tanne K. : J Periodontol.79(10),1984-90, 2008.
- 5 : Brain-derived neurotrophic factor stimulates bone/cementum-related protein gene expression in cementoblasts. : Kajiyama M, Shiba H, Fujita T, Ouhara K, Takeda K, Mizuno N, Kawaguchi H, Kitagawa M, Takata T, Tsuji K, Kurihara H. : J Biol Chem. 283(23), 16259-67, 2008.
- 6 : IFITM1 promotes the invasion at the early stage of head and neck cancer progression. : Hatano H,

- Kudo Y, Ogawa I, Tsunematsu T, Kikuchi A, Abiko Y, Takata T. : Clin Cancer Res. 14(19), 6097-105, 2008.
- 7 : Enamel Matrix Derivative Exhibits Anti-inflammation Properties in Monocytes. : Sato S, Kitagawa M, Sakamoto K, Iizuka S, Kudo Y, Ogawa I, Miyauchi M, Foster BL, Somerman MJ, Takata T. : J Periodontol. 79(3), 535-40, 2008.
- 8 : Cementoblast response to low- and high-intensity ultrasound. : Dalla-Bona DA, Tanaka E, Inubushi T, Oka H, Ohta A, Okada H, Miyauchi M, Takata T, Tanne K. : Arch Oral Biol. 53(4), 318-23, 2008.
- 9 : Prostaglandin E2 inhibits mineralization and enhances matrix metalloproteinase-13 in mature cementoblasts mainly via the EP4 pathway. : Oka H, Miyauchi M, Sakamoto K, Kitagawa M, Noguchi K, Somerman MJ, Takata T. : Arch Oral Biol. 53(3), 243-9, 2008.
- 10 : VEGF-C is associated with lymphatic status and invasion in oral cancer. : Siriwardena BSMS, Kudo Y, Ogawa I, Udagama MNGPK, Tilakaratne WM, Takata T. : J Clin Pathol. 61(1), 103-8, 2008.
- 11 : Biomechanical response of condylar cartilage-on-bone to dynamic shear. : Tanaka E, Rego EB, Iwabuchi Y, Inubushi T, Koolstra JH, van Eijden TMGJ, Kawai N, Kudo Y, Takata T, Tanne K. : J Biomed Mater Res A. 85(1), 127-32, 2008.
- 12 : 著明な脂肪化を伴った頬部血管平滑筋腫の1例：新谷智章，虎谷茂昭，宮内睦美，林堂安貴，越智康，岡本哲治：日本口腔外科学会誌，54（11），621-625，2008.
- 13 : 茅田義明，宮内睦美，小川郁子．嚢胞性疾患を思わせた低悪性度粘表皮癌の一例；肺癌との異時性重複癌症例．広島歯誌，36：43-47，2008.

## B) 総説

- 1 : ラクトフェリンと歯周病:宮内睦美, 山野栄三, 高田 隆:広島大学歯学会雑誌 40(1), 70-73, 2008.

## C) 著書

- 1 : 辺縁歯周組織の病変；新口腔病理学（下野正基，高田 隆編）：宮内睦美，高田 隆：医師薬出版株式会社，東京，84-103，2008.
- 2 : 歯周病学の視点からみた国民の健康増進：歯肉出血の発症機序と全身疾患との関係：宮内睦美，高田 隆：医師薬出版株式会社，116-119，2008.
- 3 : 唾液腺腫瘍；新口腔病理学（下野正基，高田 隆編）：小川郁子，高田 隆：医歯薬出版株式会社，東京，273-286，2008.
- 4 : Periostin, Encyclopedia of Cancer, Schwab M.(Ed.) : Yasusei Kudo, Takashi Takata: Springer, 2008.

## D) その他の出版物

- 1 : 歯周病とラクトフェリンー基礎研究から臨床応用まで- : リポポリサッカライド誘導歯周組織破壊に及ぼすリポソーム化ラクトフェリン経口投与の抑制効果:宮内睦美, 山野栄三, 田中栄二, 石角 篤, 牧野武利, 丹根一夫, 高田 隆 : 歯界展望 112(4), 728-730, 2008.
- 2 : 歯肉出血と全身疾患の関係 : 宮内睦美 : デンタルハイジーン 28(4), 338-352, 2008.
- 3 : 外科病理マニュアル 各論 2.歯・顎骨 : 小川郁子, 工藤保誠, 宮内睦美, 高田 隆 : 病理と臨床 臨時増刊号 26, 139-143, 2008.
- 4 : 口腔病変クローズアップ 舌下面に生じた粘液貯留嚢胞 : 安藤あずさ, 佐々木晶浩, 小川郁子, 高田 隆: DHstyle 2(14), 10-12, 2008.
- 5 : 口腔病変クローズアップ 左側上顎顎堤に生じた口腔がん : 安藤あずさ, 佐々木晶浩, 工藤保誠, 高田 隆: DHstyle 2(15), 10-12, 2008.
- 6 : 口腔病変クローズアップ 上顎口蓋の隆起 : 渡邊照代, 高橋正光, 工藤保誠, 高田 隆: DHstyle 2(16), 10-12, 2008.
- 7 : 口腔病変クローズアップ 口蓋と舌尖にみられたカンジダ症 : 一之瀬くにこ, 馬見塚賢一郎, 工藤保誠, 高田 隆: DHstyle 2(17), 10-12, 2008.
- 8 : 口腔病変クローズアップ 頬粘膜にみられたフォードイス顆粒 : 高木紀子, 高橋正光, 工藤保誠, 高田 隆: DHstyle 2(18), 10-12, 2008.
- 9 : 口腔病変クローズアップ 舌側縁にできた腫瘤: 渡邊照代, 高橋正光, 宮内睦美, 高田 隆: DHstyle 2(19), 10-12, 2008.
- 10 : 口腔病変クローズアップ ドライマウス (口腔乾燥症) : 高木紀子, 高橋正光, 北川雅恵, 小川郁子, 高田 隆: DHstyle 2(20), 10-12, 2008.
- 11 : 口腔病変クローズアップ 左口蓋部にできた多形腺腫: 高木和葉, 小野田紀生, 小川郁子, 高田 隆: DHstyle 2(21), 10-12, 2008.
- 12 : 口腔病変クローズアップ 歯肉剥離から始まった天疱瘡: 山越道代, 山上修令, 宮内睦美, 高田 隆: DHstyle 2(22), 10-13, 2008.
- 13 : 左上顎歯肉に発生した悪性黒色腫: 高木和葉, 野田紀生, 小川郁子, 高田 隆: DHstyle 2(24), 10-13, 2008.
- 14 : 口腔病変クローズアップ エナメル質の白斑 (初期う蝕病変) : 岸田麗子, 田中五郎, 宮内睦美, 高田 隆: DHstyle 2(25), 10-12, 2008.
- 15 : 口腔病変クローズアップ 右側頬粘膜に生じた血管腫: 高木和葉, 小野田紀生, 小川郁子, 高田 隆 : DHstyle 2(26), 10-12, 2008.
- 16 : 読んでなっとく Q & A 喫煙によるメラニンの沈着 : 宮内睦美 : デンタルハイジーン 28(12), 1176-1178, 2008.

## E) 学会発表

- 1 : 舌癌における PET-CT 診断評価と臨床病理学的評価との相関: 米田進吾, 宮内美和, 西 裕美, 重石英生, 小野重弘, 島末 洋, 二宮嘉昭, 太田耕司, 東川晃一郎, 武知正晃, 小川郁子, 高田 隆, 鎌田伸之 : 第 26 回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会 (別府市), 2008.
- 2 : 下顎骨病変 (Giant cell granuloma of bone) : 小川郁子, 谷 亮治, 小泉浩一, 中元 崇, 飯塚新二, 高田 隆 : 日本病理学会中国四国支部学術集会 (第 95 回スライドカンファレ

- ンス) (広島市), 2008.
- 3 : Abnormal regulation of Anaphase promoting complex dependent proteolysis by Emi1 disregulation in cancer: Kudo Y, Tsunematsu T, Kitajima S, Ogawa I, Takata T: 3<sup>rd</sup> International Workshop on Cell Regulations in Division and Arrest (沖縄) , 2008.
  - 4 : 舌腫瘍 (Myxoid lipoma) : 小川郁子, 飯塚新二, 三谷佳嗣, 高田 隆 : 第 51 回広島病理集談会 (広島), 2008.
  - 5 : 骨芽細胞による破骨細胞形成に及ぼすラクトフェリンの抑制効果について : 川添亜希, 山野栄三, 宮内睦美, 田中栄二, 石角 篤, 水道裕久, 今中宏真, 牧野武利, 丹根一夫, 高田 隆 : 第 51 回日本歯周病学会春季学術大会 ラクトフェリンフォーラム (さいたま市), 2008.
  - 6 : リポポリサッカライド誘導歯周組織破壊に及ぼすリポソーム化ラクトフェリン経口投与の抑制効果 第 3 報 : 骨芽細胞による破骨細胞形成に及ぼすラクトフェリンの抑制効果について : 山野 栄三, 宮内 睦美, 石角 篤, 田中 栄二, 水道 裕久, 今中 宏真, 牧野 武利, 丹根 一夫, 高田 隆 : 第 51 回日本歯周病学会春季学術大会 (さいたま市), 2008.
  - 7 : 口腔癌における Emi1 の過剰発現とその意義 : 工藤 保誠, 常松 貴明, 大林 真理子, 小川 郁子, 北島 正二郎, 高田 隆 : 第 97 回日本病理学会総会 (金沢), 2008.
  - 8 : 口腔癌における Runx3 の高発現とその役割 (学生ポスター) : 常松貴明, 工藤保誠, 小川郁子, 高田 隆 : 第 97 回日本病理学会総会 (金沢), 2008.
  - 9 : 耳下腺に発生した硬化性多嚢胞性腺症の(SPA)1 例 : 小川郁子, 高田晋一, 宮内睦美, 松浦博夫, 高田 隆 : 第 97 回日本病理学会総会 (金沢), 2008.
  - 10 : 舌癌における FDG-PET-CT 評価と病理組織学的評価との相関 : 宮内美和, 米田進吾, 藤本伸一, 瀧 雅行, 西 裕美, 重石 英生, 小野重弘, 武知正晃, 小川郁子, 高田 隆, 鎌田伸之 : 第 37 回日本口腔外科学会 中・四国地方会 (倉敷市), 2008.
  - 11 : 口腔癌における Survivin と Aurora-B の過剰発現とその意義 : 齊 広瑩, 工藤保誠, 小川郁子, サマダラニ・シリワルデナ, 吉田真希, 北島正二郎, 宮内睦美, 高田 隆 : 第 41 回広島大学歯学会 (広島市), 2008.
  - 12 : Periostin plays a role in invasion and metastasis in oral cancer : Siriwardena BSMS, Kudo Y, Ogawa I, Kitajima S, Miyauchi M, Takata T : 第 41 回広島大学歯学会 (広島市), 2008.
  - 13 :  $\gamma$ -グルタミルトランスペプチダーゼは、歯槽骨破壊のリスクファクターである : 川添祐亮, 宮内睦美, 田口 明, 古庄寿子, 飯塚新二, 北川雅恵, 田妻 進, 高田 隆 : 第 41 回広島大学歯学会 (広島市), 2008.
  - 14 : 低出力超音波の歯根吸収抑制効果 : 培養細胞レベルと動物実験モデルにおける検討 : 犬伏俊博, Rego EB, 山野栄三, 宮内睦美, 高田 隆, 丹根一夫 : 第 41 回広島大学歯学会 (広島市), 2008.
  - 15 : IFITM1 promotes invasion of oral cancer: Takata T, Kudo Y, Hatano H, Ogawa I, Miyauchi M: The 14th International Congress of Oral Pathology and Medicine (San Francisco) , 2008.
  - 16 : Abnormal regulation of Anaphase promoting complex dependent proteolysis by Emi1 disregulation in cancer : Kudo Y, Tsunematsu T, Kitajima S, Ogawa I, Takata T : The 14th International Congress of Oral Pathology and Medicine, (San Francisco) , 2008.
  - 17 : 耳下腺腫瘍 (Basal cell adenocarcinoma) : 小川郁子, 坂井田紀子, 大江千里, 植村芳子,

- 高田 隆：日本病理学会中国四国支部学術集会（第 95 回スライドカンファレンス）（出雲市），2008.
- 18：Degradation of Cdc25B by JNK-initiated and SCF/ $\beta$ -TrCP-dependent Ubiquitination: Uchida S, Kudo Y, Yoshioka K, Matsunaga T, Yamashita K: 第 60 回日本細胞生物学会大会（横浜市），2008.
- 19：PGE2 production in cementoblasts and PDL cells by ultrasound stimulation: Rego EB, Tanaka E, Inubushi T, Miyauchi M, Takata T, Ohta A, Okada H, Tanne K. 86th IADR（Toronto）, 2008.
- 20：下顎骨腫瘍（odontogenic myxoma）：宮内睦美, 古庄寿子, 飯塚新二, 重石英生, 藤田 實, 小川郁子, 高田 隆: 第 19 回日本臨床口腔病理学会総会・学術大会（東京），2008.
- 21：耳下腺腫瘍（basal cell adenocarcinoma）：小川郁子, 坂井田紀子, 大江千里, 植村芳子, 高田 隆：第 19 回日本臨床口腔病理学会総会・学術大会（東京），2008.
- 22：Periostin is involved in angiogenesis and lymphangiogenesis in oral cancer: Siriwardena BSMS, Kudo Y, Ogawa I, Yoshida M, Kitajima S, Udagama MNGPK, Tilakaratne WM, Takata T. 第 19 回日本臨床口腔病理学会総会・学術大会（東京），2008.
- 23：歯肉溝滲出液中  $\gamma$ -グルタミルトランスペプチダーゼ値を用いた歯周診断システムの構築の可能性について：川添祐亮, 宮内睦美, 田妻 進, 古庄寿子, 鈴木恵子, 新飯田俊平, 高田 隆：第 1 回日本口腔検査学会総会・学術大会（東京），2008.
- 24：広島大学病院歯科における歯科用金属アレルギー被疑患者を対象としたパッチテストおよび元素分析の過去 10 年間の集計：北川雅恵, 古庄寿子, 新谷智章, 牧平清超, 二川浩樹, 小川郁子, 栗原英見：第 1 回日本口腔検査学会（東京），2008.
- 25：「広島大学病院口腔検査センター」のご紹介：小川郁子, 新谷智章, 北川雅恵, 古庄寿子, 栗原英見：第 1 回日本口腔検査学会（東京），2008.
- 26：胆汁うっ滞性肝疾患に伴う高  $\gamma$ -glutamyl transpeptidase 血症が骨破壊に及ぼす影響について：川添祐亮, 宮内睦美, 田妻 進, 北川雅恵, 鈴木恵子, 新飯田俊平, 高田 隆：第 17 回硬組織再生生物学会・学術大会（徳島市），2008.
- 27：過度の力による実験的歯根吸収に対する低出力超音波の抑制効果：Effects of ultrasound on experimentally-induced root resorption by excessive force：犬伏俊博, レゴ エマヌエル ブラガ, 田中栄二, 山野栄三, 川添亜希, 宮内睦美, 高田 隆, 丹根一夫: 第 67 回日本矯正歯科学会（幕張），2008.
- 28：膜貫通タンパクである IFITM1 および CD81 の口腔癌細胞の浸潤に対する影響: 吉田真希, 工藤保誠, 小川郁子, 高田 隆：第 50 回歯科基礎医学会学術大会・総会（東京），2008.
- 29：口腔癌における CIP2A の高発現とその役割: 大林真理子, 工藤保誠, 小川郁子, 高田 隆：第 50 回歯科基礎医学会学術大会・総会（東京），2008.
- 30：口腔癌における Runx3 の癌遺伝子としての役割：常松貴明, 工藤保誠, 小川郁子, 高田隆：第 50 回歯科基礎医学会学術大会・総会（東京），2008.
- 31：脊髄後根神経節細胞からのサブスタンス P 放出に及ぼすエナメル蛋白の抑制効果: 宮内睦美, 川添祐亮, 古庄寿子, 井上敦子, 仲田義啓, 高田 隆：第 50 回歯科基礎医学会学術大会・総会（東京），2008.
- 32：細菌由来 GGT は骨破壊をもたらす: 森脇佐和子, 鈴木恵子, 宮内睦美, 高田 隆, 飯田俊平：第 50 回歯科基礎医学会学術大会・総会（東京），2008.

- 33 : リポソーム化ラクトフェリン経口投与がリポポリサッカライド誘導歯周組織破壊に及ぼす抑制効果 : 川添亜希, 山野栄三, 宮内睦美, 石角 篤, 牧野武利, 丹根一夫, 高田 隆 : 第 91 回広島大学歯学会, 第 46 回広島県歯科医学会併催 (広島市), 2008.
- 34 : Abnormal regulation of Anaphase promoting complex dependent proteolysis by Emi1 disregulation in cancer : Kudo Y, Tsunematsu T, Kitajima S, Ogawa I, Takata T: 第 67 回日本癌学会学術総会 (名古屋市), 2008.
- 35 : Degradation of Cdc25B by JNK-initiated and SCF/ $\beta$ -TrCP-dependent Ubiquitination: Uchida S, Kudo Y, Yoshioka K, Matsunaga T, Yamashita K: 第 67 回日本癌学会学術総会 (名古屋市), 2008.
- 36 : Runx3 has a oncogenic role in head and neck cancer: Tsunematsu T, Kudo Y, Ogawa I, Takata T: 第 67 回日本癌学会学術総会 (名古屋市), 2008.
- 37 : 胆汁うっ滞性肝疾患に伴う高  $\gamma$ -glutamyl transpeptidase 血漿が骨破壊に及ぼす影響について : 川添祐亮, 宮内睦美, 田口明, 田妻 進, 鈴木恵子, 新飯田俊平, 高田 隆 : 第 26 回日本骨代謝学会学術集会 (大阪市), 2008.
- 38 : アメロブラスチン合成ペプチドを用いた骨再生療法に関する研究 : 飯塚新二, 北川雅恵, 工藤保誠, 宮内睦美, 高田 隆 : 第 21 回日本歯科医学会総会(横浜), 2008.
- 39 : ヘパリン誘導体は骨組織再生を促進する : 今井遥香, 飯塚新二, 宮内睦美, 高田 隆 : 第 21 回日本歯科医学会総会(横浜), 2008.
- 40 : 歯肉腫瘍 (Peripheral giant cell granuloma) : 吉田真希, 工藤保誠, 谷 亮治, 岡本康正, 末井良和, 小川郁子, 高田 隆 : 日本病理学会中国四国支部学術集会 (第 97 回スライドカンファレンス) (広島市), 2008.
- 41 : 下顎歯肉に発生した inflammatory gingival hyperplasia with pseudomalignant change の一例 : 伊藤 翼, 吉岡幸男, 小川郁子, 北川雅恵, 谷 亮治, 林堂安貴, 虎谷茂昭, 高田 隆, 岡本哲治 : 第 56 回日本口腔科学会中四国地方部会 (米子市), 2008.
- 42 : 外科的治療を施行したビスフォスフォネート製剤関連顎骨壊死の 3 例 : 木村祐紀, 新谷智章, 伊藤 翼, 吉岡幸男, 谷 亮治, 林堂安貴, 虎谷茂昭, 北島正二郎, 岡本哲治 : 第 56 回 NPO 法人口腔科学会中四国地方部会 (米子市), 2008.
- 43 : 舌縁に生じた粘液脂肪腫 (Myxolipoma) の 1 例 : 奥井 岳, 小野重弘, 三谷佳嗣, 小川郁子, 宮内美和, 高田 隆, 鎌田伸之 : 第 56 回 NPO 法人口腔科学会中四国地方部会 (米子市), 2008.
- 44 : 大豆レシチンによるリポソーム化ラクトフェリン経口投与がリポポリサッカライド誘導歯周組織破壊に及ぼす抑制効果 : 川添亜希, 山野栄三, 宮内睦美, 石角 篤, 田中栄二, 牧野武利, 丹根一夫, 高田 隆 : 第 3 回ラクトフェリンフォーラム (東京), 2008.
- 45 : リポポリサッカライド誘導歯周組織破壊に及ぼすリポソーム化ラクトフェリン経口投与の抑制効果 : 骨芽細胞による破骨細胞形成に及ぼすラクトフェリンの抑制効果について : 山野栄三, 宮内睦美, 川添亜希, 石角 篤, 田中栄二, 水道裕久, 今中宏真, 牧野武利, 犬伏俊博, 丹根一夫, 高田 隆 : 第 3 回ラクトフェリンフォーラム (東京), 2008.
- 46 : 軟骨細胞における転写因子 HIF-1 活性化と破骨細胞誘導機構 : 白倉麻耶, 谷本圭司, 中村秀明, 檜山桂子, 宮内睦美, 高田 隆, 田中栄二, 丹根一夫 : 第 6 回がんとハイポキシア研究会 (広島市), 2008.

- 47： 広範に篩状胞巣の形成を示した基底細胞癌の1症例：小川郁子，坂井田紀子，大江千里，植村芳子，高田 隆：第53回日本唾液腺学会（東京），2008.
- 48： SCF<sup>beta-Trop</sup>によるCdc25Bの制御：内田早苗，善岡克次，工藤保誠，渡辺信元，松永 司，山下克美：第31回日本分子生物学会年会（神戸市），2008.
- 49： 軟骨細胞における低酸素応答遺伝子発現変動：白倉麻耶，谷本圭司，檜山桂子，宮内睦美，高田 隆，田中栄二，丹根一夫：第31回日本分子生物学会年会（神戸市），2008.

#### F) 学会シンポジウム，特別講演

- 1： Overexpression of Aurora-A Caused by Constitutive Phosphorylation of Ser51.: Shojiro Kitajima, Yasusei Kudo, Ikuko Ogawa, Masaaki Tatsuka, Takata Takashi: Anglo-Japanese Symposium: Network for Internatioal Education and Research in Advanced Dental Sciences（東京），2008
- 2： パネルディスカッション リポポリサッカライド誘導歯周組織破壊に及ぼすリポソーム化ラクトフェリン経口投与の抑制効果：宮内睦美，山野栄三，田中栄二石角 篤，牧野武利，丹根一夫，高田 隆：第1回ラクトフェリンフォーラム（さいたま市），2008.
- 3： 特別講演 タンパク分解による細胞分裂制御とその破綻による癌化への関与：工藤保誠：第7回南九州腫瘍研究会（鹿児島市），2008
- 4： A演説 口腔癌の増殖および浸潤に関する分子病理学的研究ー口腔癌における細胞周期調節因子のユビキチン分解異常ー：工藤保誠：第54回日本病理学会秋期特別大会（松山市），2008

#### (4) 科学研究費補助金等の受領状況

- 1： 科学研究費補助金（若手研究(A)）新規：工藤保誠：APC/Cユビキチンリガーゼの活性を阻害するEmi1の過剰発現と癌化との関連。（課題番号20689033）．13,520千円
- 2： 科学研究費補助金（萌芽研究）継続：工藤保誠：口腔扁平上皮癌の浸潤に関わる新規因子の機能および診断への応用の可能性。（課題番号19659481）．1,400千円
- 3： 科学研究費補助金（若手研究（B））新規：北島正二郎：Aurora-Aの安定化を制御するリン酸化調節機構と口腔癌におけるその異常。（課題番号2079133800）．2,210千円
- 4： 科学研究費補助金（特別研究員）新規：飯塚新二：アメロプラスチン合成ペプチドの骨再生機序の解明と骨再生誘導療法への応用（課題番号 20・1351）．600千円
- 5： 科学研究費補助金（特別研究員）新規：斉 広瑩：口腔癌におけるsurvivin とAurora-Bの発現異常とその意義に関する研究（課題番号 20・3632）．600千円
- 6： シーズ発掘試験A 新規：宮内睦美：歯科インプラント治療のためのgGTPを用いた診断システムの構築と新規治療法の開発（課題番号 12-067）．2,000千円
- 7： 武田科学振興財団 2008年度医学系研究奨励金 新規：工藤保誠：APC/Cユビキチンリガーゼ複合体の活性を抑制するEmi1の異常と癌化との関連 2,000千円
- 8： 受託研究経費（エーシーバイオテクノロジーズ）新規：高田 隆：抗ヒトGGT抗体を用いた動物実験．525千円
- 9： 受託研究経費（生化学工業）新規：高田 隆：ヘパリン及びヘパリン関連物質を用いた骨

組織再生に関する研究. 1,050千円

- 10： 寄付金（生化学工業）新規：高田 隆：エムドゲインに関する研究. 500千円
- 11： 受託研究経費（伊東超短波株式会社）新規：高田 隆：超音波照射の歯周組織への影響の検討. 500千円
- 12： 寄付金（三菱三原病院）継続：高田 隆：口腔病理の診断に関する研究. 135千円
- 13： 寄付金（広島医師会臨床検査センター）継続：高田 隆：口腔病理の診断に関する研究. 200千円
- 14： 受託研究経費（アース製薬株式会社）新規：高田 隆：歯周病原細菌LPSの刺激によるサイトカイン産生に及ぼすポリリン酸の影響. 1,300千円

#### （5）学会賞等の受賞状況

- 1： Samadarani Siriwardena：第41回 広島大学歯学会総会奨励賞
- 2： 齋 広瑩：第41回 広島大学歯学会総会奨励賞
- 3： 常松貴明：第50回歯科基礎医学会 学生ポスター発表優秀賞
- 4： 吉田真希：第50回歯科基礎医学会 優秀ポスター発表賞
- 5： 工藤保誠：日本病理学会学術奨励賞：第54回日本病理学会秋期特別総会A演説（学術研究賞）

#### （6）特許

[目次へ戻る](#)

# 創生医科学専攻・先進医療開発科学講座（歯周病態学研究室）及び口腔維持修復歯科（歯周病診療科）

## （１）職員並びに学生

教授	: 栗原英見
准教授	: 河口浩之
講師	: 柴 秀樹
助教	: 日野孝宗, 長谷川直彦, 藤田 剛, 水野智仁, 内田雄士, 武田克浩, 岩田倫幸, 林田浩一, 仁井谷 幸
医員	: 常国徳子, 小川文野, 川村優人
大学院生	: 北本泰子, 岩崎代利子, 加治屋幹人, 岸本亮義, 坂井宣之, 永原隆吉, 仁井谷善 恵, 松田真司, 上田 武, 谷口雄亮

## （２）主な研究活動

- 1: 歯周炎の発症に関する免疫学的研究
- 2: 骨髄間葉系幹細胞を用いた歯周組織再生に関する研究
- 3: 神経栄養因子を用いた歯周組織再生に関する研究
- 4: 歯周靭帯由来細胞, 歯髓細胞の生理機能や分化に関する研究
- 5: 歯周病原性細菌の病原因子に関する研究
- 6: 歯周病原性細菌と宿主細胞との相互作用に関する研究
- 7: 歯内・歯周療法に関する臨床的研究
- 8: ストレスと歯周病に関する研究

## （３）研究業績

### A) 原著（症例報告を含む）

- 1: Humoral factors released from human periodontal ligament cells influence calcification and proliferation in human bone marrow mesenchymal stem cells.: Mizuno N., Ozeki Y., Shiba H., Kajiya M., Nagahara T., Takeda K., Kawaguchi H., Abiko Y., Kurihara H.: J Periodontol. 2008, Dec;79(12):2361-70.
- 2: Effect of neurotrophin-4/5 on bone/cementum-related protein expressions and DNA synthesis in cultures of human periodontal ligament cells.: Mizuno N., Shiba H., Inui T., Takeda K., Kajiya M., Hasegawa N., Kawaguchi H., Kurihara H.: J Periodontol. 2008, Nov;79(11):2182-9.
- 3: Irsogladine maleate abolishes the increase in interleukin-8 levels caused by outer membrane protein 29 from Aggregatibacter (Actinobacillus) actinomycetemcomitans through the ERK pathway in

- human gingival epithelial cells.: Kishimoto A., Fujita T., Shiba H., Komatsuzawa H., Takeda K., Kajiya M., Hayashida K., Kawaguchi H., Kurihara H.: J Periodontal Res., 2008 Oct;43(5):508-13. Epub 2008 Jun 28.
- 4: Brain-derived neurotrophic factor stimulates bone/cementum-related protein gene expression in cementoblasts.: Kajiya M., Shiba H., Fujita T., Ouhara K., Takeda K., Mizuno N., Kawaguchi H., Kitagawa M., Takata T., Tsuji K., Kurihara H.: J Biol Chem., 2008 Jun 6;283(23):16259-67. Epub 2008 Apr 3.
- 5: Irsogladine maleate counters the interleukin-1 beta-induced suppression in gap-junctional intercellular communication but does not affect the interleukin-1 beta-induced zonula occludens protein-1 levels in human gingival epithelial cells.: Fujita T., Ashikaga A., Shiba H., Kajiya M., Kishimoto A., Hirata R., Tsunekuni N., Hirono C., Kawaguchi H., Shiba Y., Kurihara H.: J Periodontal Res., 2008 Feb;43(1):96-102.
- 6: Irsogladine maleate abolishes the increase in interleukin-8 levels caused by outer membrane protein 29 from *Aggregatibacter (Actinobacillus) actinomycetemcomitans* through the ERK pathway in human gingival epithelial cells.: Kishimoto A., Fujita T., Shiba H., Komatsuzawa H., Takeda K., Kajiya M., Hayashida K., Kawaguchi H., Kurihara H.: J Periodontal Res.. 2008 Oct;43(5):508-13. Epub 2008 Jun 28.
- 7: Priming of neutrophil oxidative burst in diabetes requires preassembly of the NADPH oxidase.: Omori K., Ohira T., Uchida Y., Ayilavarapu S., Batista EL Jr., Yagi M., Iwata T., Liu H., Hasturk H., Kantarci A., Van Dyke TE.: J Leukoc Biol., 2008 Jul;84(1):292-301. Epub 2008 Apr 7.
- 8: 抗菌ペプチド LL37 によるヒト歯髄細胞の炎症性サイトカイン発現制御：柴 秀樹，武田克浩，應原一久，加治屋幹人，藤田 剛，水野智仁，日野孝宗，河口浩之，栗原英見：日歯内療誌， 29 巻：147-154. 2008.

## B) 総説

- 1: Clinical trial of periodontal tissue regeneration.: Kawaguchi H., Kurihara H.: Nippon Rinsho, 2008 May;66(5):948-54. Review. Japanese.

## C) 著書

- 1: 骨髄間葉系幹細胞間葉系幹細胞移植による歯周組織再生療法の臨床研究；歯周病学の視点からみた国民の健康増進：河口浩之，栗原英見（日本歯周病学会監修，分担執筆）：医歯薬出版，東京，69-77, 2008

## D) その他の出版物

- 1: 歯科医療における感染対策の実際：栗原英見，吉野 宏，中岡美由紀：Infection control 2008 vol.17 no.6. メディカ出版. 東京. 63-70, 2008

## E) 学会発表

- 1: Irsogladine maleate inhibits S100 protein expression in gingival epithelial cells: Uchida Y., Fujita T., Shiba H., Kajiya M., Matsuda S., Kawaguchi H., Kurihara H. : 86<sup>th</sup> General session & exhibition of the IADR (Toronto), 2008
- 2: Molecular analysis of immuno-pathogenic OMP29-antigen of *A. actinomycetemcomitans* in periodontitis.: Ouhara K., Mayer M.P.A., Taubman M.A., Komatsuzawa H., Kurihara H., , Kawai T., 86<sup>th</sup> General session & exhibition of the IADR (Toronto), 2008
- 3: IgG-Antigen-Immune Complex Transportation across Gingival Epithelium by Neonatal Fc Receptor (FcRn) Ouhara K., Cory. W. O. Ernst, Martin A. Taubman, Philip Stashenko, Kurihara H., Kawai T.: The International Association for Biological and Medical Research, (Boston,), 2008
- 4: Neonatal-Fc-Receptor-Mediated Transport of Bacterial Immune Complex into Periodontal Tissue. Ouhara K., Martin A. Taubman, Philip Stashenko, Kurihara H., Kawai T.: American Association for Dental Research (Dallas), 2008.
- 5: BDNF/hyaluronic acid enhances periodontal tissue regeneration: Sakai, N., Kurihara, H., Takeda, K., Shiba, H., Kawaguchi, H.: 86<sup>th</sup> General Session & Exhibition of the International Association for Dental Research (Toronto), 2008.
- 6: Regulatory mechanism by BDNF in human cementoblast-like cells: Kajiya, M., Shiba, H., Fujita, T., Takeda, K., Kitagawa, T., Takata, T., Kurihara, H.: 86<sup>th</sup> General Session & Exhibition of the International Association for Dental Research (Toronto), 2008.
- 7: Irsogladine Maleate inhibits S100 protein expression in gingival epithelial cells: Uchida, Y., Fujita, T., Shiba, H., Kajiya, M., Matsuda, S., Kawaguchi, H., Kurihara, H.: 86<sup>th</sup> General Session & Exhibition of the International Association for Dental Research (Toronto), 2008.
- 8: 感染根管治療における根管内細菌嫌気培養検査の有効性：北本泰子，日野孝宗，内田雄士，柴秀樹，河口浩之，栗原英見：第 29 回日本歯内療法学会学術大会（千葉），2008
- 9: マレイン酸イルソグラジンはラット歯周炎モデルにおいて炎症性細胞浸潤を抑制する:岸本亮義，藤田 剛，柴 秀樹，林田浩一，内田雄士，河口浩之，栗原英見：第 29 回日本歯内療法学会学術大会（千葉），2008
- 10: 脳由来神経栄養因子は *trk B*-PI3Kinase-Akt シグナルを介して ヒトセメント芽細胞の生存を制御する：加治屋幹人，柴秀樹，藤田剛，武田克浩，永原隆吉，松田真司，河口浩之，北川雅恵，高田隆，辻紘一郎，栗原英見：第 51 回春季日本歯周病学会学術大会（大宮），2008
- 11: 歯周病細菌感染度検査のための指尖血漿 IgG 抗体価の臨床的評価:工藤値英子，成石浩司，久枝 綾，安孫子宜光，小方頼昌，島内英俊，長澤敏行，永田俊彦，沼部幸博，野口俊英，日野孝宗，村上伸也，山崎和久，吉村篤利，新井英雄，高柴正悟：第 51 回春季日本歯周病学会学術大会（大宮），2008
- 12: 抗菌薬局所投与を応用した根尖性歯周炎治療症例：北本泰子，日野孝宗，内田雄士，柴秀樹，河口浩之，栗原英見：第 128 回日本歯科保存学会春季学術大会（新潟），2008
- 13: 脳由来神経栄養因子(BDNF)と高分子ヒアルロン酸を用いた歯周組織再生療法の開発：坂井宣之，武田克浩，柴 秀樹，河口浩之，橋本正道，辻紘一郎，栗原英見：第 51 回春季日本歯周病学会学術大会（大宮），2008

- 14: 脳由来神経栄養因子は *trk B-PI3Kinase-Akt* シグナルを介してヒトセメント芽細胞の生存を制御する：加治屋幹人，柴秀樹，藤田剛，武田克浩，永原隆吉，松田真司，河口浩之，北川雅恵，高田隆，辻紘一郎，栗原英見：第 41 回広島大学歯学会（広島），2008
- 15: マレイン酸イルソグラジンの歯周組織に対する炎症抑制効果とそのメカニズム：岸本亮義，藤田 剛，柴 秀樹，林田浩一，加治屋幹人，武田克浩，内田雄士，河口浩之，栗原英見：第 29 回日本炎症再生学会（東京），2008
- 16: オーラルクロマを用いた口臭外来患者の病態の検討：岩崎代利子，長谷川直彦，川村優人，小川文野，日野孝宗，河口浩之，栗原英見：第 1 回日本口腔検査学会学術大会（東京），2008
- 17: 感染根管治療における根管内細菌嫌気培養検査：北本泰子，日野孝宗，小川文野，小川郁子，柴 秀樹，河口浩之，栗原英見：第 1 回日本口腔検査学会学術大会（東京），2008
- 18: 根管内細菌嫌気培養検査を用いた根管内の無菌化診断：小川文野，日野孝宗，北本泰子，小川郁子，柴 秀樹，河口浩之，栗原英見：第 1 回日本口腔検査学会学術大会（東京），2008
- 19: 歯周病関連細菌に対する血清抗体価検査：川村優人，日野孝宗，新谷智章，小川郁子，柴 秀樹，河口浩之，栗原英見：第 1 回日本口腔検査学会学術大会（東京），2008
- 20: 歯周炎患者における自己抗原の解析：日野孝宗，仁井谷 幸，水野智仁，柴 秀樹，河口浩之，栗原英見：第 1 回日本口腔検査学会学術大会（東京），2008
- 21: マレイン酸イルソグラジンは *Aggregatibacter actinomycetemcomitans* によって惹起される歯肉上皮組織への炎症細胞浸潤を抑制する：藤田 剛，林田浩一，加治屋幹人，柴 秀樹，安孫子宜光，栗原英見：第 50 回歯科基礎医学会（東京），2008
- 22: 脳由来神経栄養因子は *trk B-NF- $\kappa$ B-Bcl2* シグナルを介してヒトセメント芽細胞の生存を制御する：加治屋幹人，柴秀樹，藤田 剛，武田克浩，内田雄士，松田真司，河口浩之，北川雅恵，高田隆，辻紘一郎，栗原英見：第 51 回秋季日本歯周病学会学術大会（四日市），2008
- 23: 脳由来神経栄養因子(BDNF)と高分子ヒアルロン酸を用いた歯周組織再生療法の開発—根面処理併用効果の検討—：坂井宣之，武田克浩，柴 秀樹，林田浩一，加治屋幹人，藤田 剛，河口浩之，橋本正道，辻紘一郎，栗原英見：第 51 回秋季日本歯周病学会学術大会（四日市），2008
- 24: 脳由来神経栄養因子は *trk B-PI3Kinase-Akt-NF- $\kappa$ B-Bcl-2* シグナルを介してヒトセメント芽細胞の生存を制御する：加治屋幹人，柴秀樹，藤田剛，武田克浩，栗原英見：第 26 回日本骨代謝学会学術大会（大阪），2008
- 25: 脳由来神経栄養因子(BDNF)と高分子ヒアルロン酸を用いた歯周組織再生療法の開発— $\beta$ -TCP 併用効果の検討—：坂井宣之，武田克浩，柴 秀樹，河口浩之，橋本正道，辻紘一郎，栗原英見：秋季日本歯科保存学会（富山），2008
- 26: 脳由来神経栄養因子(BDNF)は血管内皮細胞の遊走を促進する： 松田真司，藤田 剛，加治屋幹人，武田克浩，柴秀樹，河口浩之，栗原英見：秋季日本歯科保存学会（富山），2008
- 27: マレイン酸イルソグラジンをを用いた歯周病予防法の開発に関する基礎的研究：藤田 剛，柴 秀樹，岸本亮義，内田雄士，加治屋幹人，武田克浩，林田浩一，松田真司，河口浩之，栗原英見：日本歯科医学会総会（横浜），2008
- 28: 脳由来神経栄養因子(BDNF)と高分子ヒアルロン酸を用いた歯周組織再生療法の開発：坂井宣之，武田克浩，柴 秀樹，河口浩之，橋本正道，辻紘一郎，栗原英見：日本歯科医学会総

会（横浜），2008

#### F) 学会シンポジウム，特別講演

- 1: 自家骨髄間葉系幹細胞による歯周病の再生医療 シンポジウム「硬組織マテリアル—歯周組織と顎骨の再生—」日本バイオマテリアル学会（東京）2008
- 2: 侵襲性歯周炎患者の好中球機能低下に関する遺伝子 シンポジウム「歯周病の疾患感受性に関わる遺伝子解析」：水野智仁：第51回春季日本歯周病学会学術大会，（大宮）2008

#### （4）科学研究費補助金等の受領状況

- 1: 科学研究費補助金：（基盤研究（A））継続：柴 秀樹，歯髄・根尖部歯周組織の創傷治癒メカニズムの解明と再生療法への応用．課題番号 18209057．500 千円
- 2: 科学研究費補助金：（基盤研究（A））継続：日野孝宗，指尖毛細血管採血による血漿抗体価測定を用いた歯周病細菌感染度の判定法の研究．課題番号 18209061．279 千円
- 3: 科学研究費補助金（基盤研究（B））継続：栗原英見，脳由来神経栄養因子を用いた歯周組織再生療法の確立．課題番号 18390560．3,300 千円
- 4: 科学研究費補助金：（萌芽研究）継続：栗原英見，コルチステロイド結合蛋白高発現と侵襲性歯周炎の感受性との関わりについて．課題番号 19659550．1,000 千円
- 5: 科学研究費補助金：（若手研究（B））継続：長谷川直彦，脳由来神経栄養因子を用いた歯周組織再生療法の確立臨床応用に関する研究．課題番号 19791612．1,600 千円
- 6: 科学研究費補助金：（若手研究（B））継続：水野智仁，レプチンを用いた歯周組織再生療法の開発．課題番号 19791614．1,500 千円
- 7: 科学研究費補助金：（若手研究（B））継続：林田浩一，骨髄間葉系幹細胞の分化誘導シグナルとなる担体の研究．課題番号 19791613．1,400 千円
- 8: 科学研究費補助金（基盤研究（C））新規：柴 秀樹，多機能分子としての LL37 の歯周炎予防と歯周組織再生における有用性．課題番号 20592430．9700 千円
- 9: 科学研究費補助金：（若手研究（B））新規：武田克浩，脳由来神経栄養因子と高分子ヒアルロン酸を用いた歯周組織再生治療薬の開発．課題番号 20791466．1,700 千円
- 10: 科学研究費補助金（若手研究（B））新規：藤田 剛，歯周組織におけるマレイン酸イルソグラジンの抗炎症作用の解析．課題番号 20791613．1,600 千円

#### （5）学会賞等の受賞状況

#### （6）特許

[目次へ戻る](#)

## 展開医科学専攻・病態情報医科学講座

### (粘膜免疫学・予防歯科学研究室)

#### (1) 職員

教授 : 高橋一郎  
准教授 : 飛梅圭  
講師 : 島津篤 (学内)  
助教 : 河原和子, 鶴田圭伊子

#### (2) 主な研究活動

- 1: 粘膜免疫・口腔免疫に関する研究
- 2: 細胞死に関する研究

#### (3) 研究業績

##### A) 原著

- 1: Gene expression profiling to identify genes associated with high-invasiveness in human squamous cell carcinoma with epithelial-to-mesenchymal transition.: Higashikawa K, Yoneda S, Taki M, Shigeishi H, Ono S, Tobiume K, Kamata N.: *Cancer Lett.*, 264 (2), 256-64, 2008.
- 2: Hedgehog signaling overrides p53-mediated tumor suppression by activating Mdm2.: Abe Y, Oda-Sato E, Tobiume K, Kawauchi K, Taya Y, Okamoto K, Oren M, Tanaka N.: *Proc. Natl. Acad. Sci. USA*, 105 (12), 4838-43, 2008.
- 3: p53 regulates glucose metabolism through an IKK-NF-kappaB pathway and inhibits cell transformation.: Kawauchi K, Araki K, Tobiume K, Tanaka N.: *Nature Cell. Biol.*, 10 (5), 611-618, 2008.
- 4: Activated p53 induces NF-kappaB DNA binding but suppresses its transcriptional activation.: Kawauchi K, Araki K, Tobiume K, Tanaka N.: *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, 372 (1), 137-41, 2008.
- 5: Cycloprodigosin hydrochloride activates the Ras-PI3K-Akt pathway and suppresses protein synthesis inhibition-induced apoptosis in PC12 cells.: Kawauchi K, Tobiume K, Iwashita K, Inagaki H, Morikawa T, Shibukawa Y, Moriyama Y, Hirata H, Kamata H.: *Biosci. Biotechnol. Biochem.*, 72 (6), 1564-70, 2008.

##### B) 総説

- 1: NK レセプターリガンドによる IgA 産生増強：島津 篤，鶴田圭伊子：臨床免疫・アレルギー科 49(1):22-27, 2008.

#### C) 著書

- 1: 予防接種（ワクチン接種）；免疫学イラストレイテッド原著第7版（高津聖志，清野宏，三宅健介 監訳）：岩本めぐみ，高橋一郎：南江堂（東京都），325-340頁，2008年.
- 2: 粘膜免疫；口腔内科学（尾崎登喜雄 編）：高橋一郎，清野宏：飛鳥出版（高知市），82-92頁，2008年.

#### D) その他の出版物

#### E) 学会発表

- 1: 歯周組織におけるストレス誘導性タンパク質 MICA 遺伝子発現と調節因子：河原和子，島津篤，加治屋幹人，柴秀樹，河口浩之：第50回歯科基礎医学会学術大会（東京），2008.
- 2: 骨芽細胞における retinoic acid early inducible gene-1 の発現について：島津篤，河原和子，内田隆：第50回歯科基礎医学会学術大会（東京），2008.
- 3: 骨芽細胞における retinoic acid early inducible gene-1 の発現について：島津 篤，河原和子，内田 隆：第50回歯科基礎医学会（東京），2008.
- 4: 骨芽細胞様細胞 MC3T3-E1 細胞における retinoic acid early inducible gene-I の発現：島津 篤，河原和子：第57回日本口腔衛生学会・総会（さいたま），2008.
- 5: 硬組織形成過程におけるレチノイン酸誘導タンパク質 retinoic acid early inducible gene-1 (RAE-1)の機能解析：島津 篤：第1回口腔から QOL 向上を目指す連携研究 研究集会（広島），2008.
- 6: ヒト歯周組織におけるストレス応答性タンパク質 MICA の発現：河原和子，島津 篤：第57回日本口腔衛生学会・総会（さいたま），2008.
- 7: 歯周組織におけるストレス誘導タンパク質 MICA 遺伝子発現と調節因子：河原和子，島津篤，加治屋幹人，柴 秀樹，河口浩之：第50回歯科基礎医学会（東京），2008.
- 8: ヒト歯根膜細胞における MHC class I-related chain A (MICA)の発現：河原和子，島津 篤，加治屋幹人，永原隆吉，藤田 剛，柴 秀樹：第51回春季日本歯周病学会学術大会（さいたま），2008.

#### (4) 科学研究費補助金等の受領状況

- 1: 文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（C））（継続）：河原和子：歯周組織由来細胞におけるストレス応答性タンパク質 MICA の発現に関する研究。（課題番号 18592280）. 2,800千円.
- 2: 文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（C））（新規）：島津篤：歯周疾患におけるストレス誘導性タンパク質の関与。（課題番号 20592456）. 3,500千円.

3: 科学研究費補助金（基盤研究 C）新規：島津 篤（代表），歯周疾患におけるストレス誘導性タンパク質の関与．課題番号 20592456．2,300 千円．

（5）学会賞等の受賞状況

（6）特許

[目次へ戻る](#)

## 展開医科学専攻・病態情報医科学講座（歯科放射線学研究室）及び口腔再建外科（歯科放射線科）

### （１）職員並びに学生

教授 : 谷本啓二 (\*）科長：谷本啓二（併任）  
准教授 : 藤田實  
講師 : 末井良和（診療准教授）、田口 明（診療准教授、5月31日まで）、  
中元崇（7月1日より）  
助教 : 長崎信一、大塚昌彦、澤尻昌彦  
医員 : 小西勝（10月1日より）  
大学院生 : バニック・サミール、安原幸美（10月1日より）、小西勝（10月1日より）  
藤原百合（3月31日まで）、スチプラパボン・ピッポップ（3月31日まで）、  
中島健雄（3月31日まで）

### （２）主な研究活動

- 1: 顎骨単純性骨嚢胞のエックス線学的分類
- 2: 顎骨骨髓炎のエックス線学的検討
- 3: 定量的コンピュータ断層撮影法による顎骨骨密度測定
- 4: 歯科用レントゲン写真による閉経後骨粗鬆症の早期診断法の開発
- 5: 骨粗鬆症が口腔に及ぼす影響に関する研究
- 6: 遺伝子多型が顎顔面・口腔領域に及ぼす影響に関する研究
- 7: 口腔の不衛生が心血管・脳血管障害に及ぼす影響に関する研究
- 8: 歯科用レントゲン写真による血管障害の早期診断法の開発
- 9: 骨粗鬆症治療薬が口腔に及ぼす影響に関する研究
- 10: 医用画像を用いた嚥下に関する研究
- 11: 脳磁計を用いた、嚥下のヒト高次脳機能に関する研究
- 12: 口腔癌放射線治療（小線源治療）の局所制御率の改善に関する検討

### （３）研究業績

#### A) 原著（症例報告を含む）

- 1: Observer performance in diagnosing osteoporosis by dental panoramic radiographs: results from the osteoporosis screening project in dentistry (OSPD): Taguchi A., Asano A., Ohtsuka M., Nakamoto T., Sueti Y., Tsuda M., Kudo Y., Inagaki K., Noguchi T., Tanimoto K., Jacobs R., Klemetti E., White S.C., Horner K. OSPD International Collaborative Group: Bone, 43, 209-213,

2008.

- 2: Detection of post-menopausal women with low bone mineral density and elevated biochemical markers of bone turnover by panoramic radiographs: Taguchi A., Ohtsuka M., Nakamoto T., Suei Y., Kudo Y., Tanimoto K., Bollen A-M.: Dentomaxillofacial Radiology, 37, 433-437, 2008.
- 3: A computer-aided diagnosis system to screen for osteoporosis using dental panoramic radiographs :Nakamoto T., Taguchi A., Ohtsuka M., Suei Y., Fujita M., Tsuda M., Sanada M., Kudo Y., Asano A., Tanimoto K. : Dentomaxillofacial Radiology 37, 274-281, 2008.
- 4: Influence of chlorine dioxide on cell death and cell cycle of human gingival fibroblasts. : Nishikiori R., Nomura Y., Sawajiri M., Masuki K., Hirata I., Okazaki M. : Journal of Dentistry, 36(12), 993-998, 2008.
- 5: Positional changes of oropharyngeal structures due to gravity in the upright and supine positions: Sutthiprapaporn P., Tanimoto K., Ohtsuka M., Nagasaki T., Iida Y., Katsumata A.:Dentomaxillofacial Radiology, 37, 130-136, 2008.
- 6: A morphological comparison of the piriform sinuses in head-on and head-rotated views of seated subjects using cone-beam computed tomography: Yamashina A., Tanimoto K., Ohtsuka M.,Nagasaki T., Sutthiprapaporn P., Iida Y., Katsumata A.: Oral Radiology, 24, 64-70, 2008.
- 7: Improved inspection of the lateral pharyngeal recess using cone-beam computed tomography in the upright position: Sutthiprapaporn P., Tanimoto K., Ohtsuka M., Nagasaki T., Konishi M., Iida Y., Katsumata A.: Oral Radiology, 24, 71-75, 2008.
- 8: The reliability of CT values and dimensional measurements of the oropharyngeal region using cone beam CT: comparison with multidetector CT: Yamashina A., Tanimoto K., Sutthiprapaporn P., Hayakawa Y.: Dentomaxillofacial Radiology, 37, 1-7, 2008.

## B) 総説

- 1: 歯科医師ができるパノラマX線写真による骨粗鬆症スクリーニング：田口明，大塚昌彦，中元崇，谷本啓二：Dental Diamond, 33 (13), 21-41, 2008.
- 2: 頭頸部の診断と治療 update【放射線治療】2. 各論 中咽頭 永田 靖，権丈雅浩，村上祐司，兼安祐子，橋本泰年，藤田實，伊藤勝陽. 臨床放射線, 53 : 1621-1625, 2008.

## C) 著書

- 1: 良性腫瘍および類似疾患，骨髄炎；歯科臨床における画像診断アトラス（日本歯科放射線学会編）：谷本啓二，末井良和：医歯薬出版（東京），83-91,125-128,2008.
- 2: 嚥下障害の臨床 -リハビリテーションの考え方と実際-（日本嚥下障害臨床研究会編）：大塚昌彦，谷本啓二：医歯薬出版（東京），18-33, 80-81, 132-147, 152-154, 318-319, 339-340, 346-347, 383, 2008.

## D) その他の出版物

#### E) 学会発表

- 1: Expression of MMP13 in chondroblast cells and rat tibiae after exposure to accelerated carbon ions : Banik S., Sawajiri M., Nomura Y., Takinami S., Mizoe J., Tanimoto K. : The 7th Asian Congress of Oral and Maxillo-Facial Radiology (Nara), 2008.
- 2: 重粒子線の骨代謝におよぼす影響：澤尻昌彦，野村雄二，滝波修一，谷本啓二：重粒子がん治療装置共同利用研究成果発表会（千葉），2008.
- 3: 広島大学病院（歯科）におけるフィルムレス化について：大塚昌彦，小西勝，中元崇，山根由美子，田村恵美，高羽順子，隅田博臣，谷本啓二：第4回中四国放射線医療技術フォーラム（徳島），2008.
- 4: パノラマX線写真は閉経後骨粗鬆症スクリーニングにおいて骨質の評価に有用か？：田口明，大塚昌彦，中元崇，末井良和，谷本啓二：第49回日本歯科放射線学会総会・学術大会（名古屋），2008.
- 5: パノラマX線写真による閉経後骨粗鬆症スクリーニングにおける観察者の能力：田口明，大塚昌彦，中元崇，末井良和，関健次，岡野友宏，谷本啓二：第49回日本歯科放射線学会総会・学術大会（名古屋），2008.
- 6: Ultrasonographic appearance of lingual abscess -report of 2 cases-: Fujita M, Nakamoto T, Konishi M, Sueti Y, Tanimoto K.: The 7th Asian Congress of Oral and Maxillo-Facial Radiology and The 13th Conference of Clinical Diagnostics of JSOMR, Nara, 2008.
- 7: Food and Non-food visual discrimination: A magnetoencephalography study : Nagasaki T, Hashizume A, Fujiwara Y, Kurisu K, Ogawa T, Tanimoto K : The 16th Annual Dysphagia Research Society Meeting (Isle of Plams), 2008.
- 8: Swallowing sound analysis for healthy adults and dysphagic patients : Yoshikawa M, Nagasaki T, Yoshida M, Akagawa Y : The 16th Annual Dysphagia Research Society Meeting (Isle of Plams), 2008.
- 9: 嚥下障害患者の食道入口部開大時の喉頭の位置：長崎信一，吉川峰加，谷本啓二：第14回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会（幕張），2008.
- 10: 脳血管障害患者とALS患者の嚥下音に関する検討：吉川峰加，長崎信一，吉田光由，田中君枝，笹村和博，赤川安正：第14回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会（幕張），2008.
- 11: 嚥下障害患者の喉頭運動—喉頭挙上は安全の指標か？—：長崎信一，小西勝，吉川峰加，吉田光由，谷本啓二：第92回広島大学歯学会（広島），2008.

#### (4) 科学研究費補助金等の受領状況

- 1: 科学研究費補助金（若手研究（B））：中元 崇，顎骨海綿骨微細構造の評価に基づいた骨粗鬆症診断支援システムの構築．課題番号 18791381. 2,100 千円
- 2: 科学研究費補助金（基盤研究(C)）：澤尻昌彦，放射線照射メダカによる骨代謝障害予防法の開発．課題番号 20592201. 4,040 千円
- 3: 科学研究費補助金（基盤研究(C)）：長崎信一，脳磁図と拡散 MRI を用いた，嚥下障害患者の認知障害患者の認知障害に対する治療法の開発．課題番号 20592202. 3,380 千円

- 4: 産学共同イノベーション化事業 顕在化シリーズ：二川浩樹，村上長，長崎信一ほか（分担），新規微小マイクロコイルによる3テスラーMRIを用いた診断支援用有限要素解析システムの開発．課題番号7010023. 6,320千円（広島大学分担分，2007と合わせて）
- 5: 地域イノベーション創出研究開発事業：二川浩樹，村上長，長崎信一ほか（分担），関節機能のFEM解析による診断・治療最適化システムの開発．34,500千円

(5) 学会賞等の受賞状況

(6) 特許

[目次へ戻る](#)

## 展開医科学専攻・病態制御医科学講座

### (口腔成長・発達生物学研究室)

#### (1) 職員ならびに学生

教授 前田憲彦

准教授 吉子裕二

助教 南崎朋子、吉岡広陽

研究員 鈴木清香

学生 小間義朗、北浦義昭

#### (2) 主な研究活動

- 1: 咀嚼システムの発達と老化に関する機能形態学的研究
- 2: 脳の再生に関する基礎的研究
- 3: 間葉系細胞の分化機構に関する研究
- 4: 骨組織の発生、分化に関する分子細胞生物学的研究
- 5: 歯の発生、分化に関する分子細胞生物学的研究

#### (3) 研究業績

##### A) 原著 (症例報告を含む)

- 1: The PPAR $\gamma$ -selective ligand BRL-49653 differentially regulates the fate choices of rat calvaria versus rat bone marrow stromal cell populations. Hasegawa T, Oizumi K, Yoshiko Y, Tanne K, Maeda N, Aubin JE. *BMC Dev Biol* 14, 8, 71, 2008.
- 2: Overexpression of fibroblast growth factor 23 suppresses osteoblast differentiation and matrix mineralization in vitro. Wang H, Yoshiko Y, Yamamoto R, Minamizaki T, Kozai K, Tanne K, Aubin JE, Maeda N. *J Bone Miner Res.* 23(6), 939-48, 2008.
- 3: EP2 and EP4 receptors differentially mediate MAPK pathways underlying anabolic actions of prostaglandin E<sub>2</sub> on bone formation in rat calvaria cell cultures. Minamizaki T, Yoshiko Y, Kozai K, Aubin JE, Maeda N. *Bone*, Feb 21, 2009 [Epub ahead of print]
- 4: Dynamic nuclear organization of constitutive heterochromatin during fetal male germ cell development in mice. Yoshioka H, McCarrey JR, Yamazaki Y. *Biology of Reproduction*. Epub 2009 Jan 7.

##### B) 総説

- 1: 低リン血症にみる歯の形成の分子基盤 吉子裕二, 南崎朋子, 吉岡広陽, 鈴木清香, 前田憲彦: 広島歯誌36, 1-12, 2008.
- 2: 2: New Insights into the Roles of Fibroblast Growth Factor 23. Yoshiko Y, Minamizaki T, Maeda N. Clin Rev Bone Miner Met 6 (1-2), 17-23, 2008.

C) 著書

D) その他の出版物

E) 学会発表およびシンポジウム

- 1: 骨形成不全の分子機構を基盤とした培養血管平滑筋細胞における石灰化抑制素材の探索: 鈴木清香, 吉子裕二, 南崎朋子, 清水厚志, 前田憲彦 第 62 回日本栄養・食糧学会, 埼玉, 5月, 2008.
- 2: FGF23 and FGF2 share a common but also have distinct signaling pathways for negative regulation of bone nodule mineralization in cultured osteoblasts. Minamizaki T, Yoshiko, Suzuki S, Aubin JE, Maeda N. The 30th Annual Meeting of the American Society for Bone and Mineral Research, Montreal, September, 2008.
- 3: 1,25(OH)<sub>2</sub>D<sub>3</sub>、PTH および Klotho は FGF23 の基質石灰化抑制作用を直接調節する: 南崎朋子, 吉子裕二, 前田憲彦 第 50 回歯科基礎医学会, 東京, 9 月, 2008.
- 4: FGF23 は 1,25(OH)<sub>2</sub> および PTH の制御下、骨芽細胞を標的とし、基質石灰化を抑制する: 吉子裕二, 南崎朋子, 前田憲彦 第 26 回日本骨代謝学会学術集会, 東京, 10 月, 2008.

(4) 科学研究費補助金等の受領状況

- 1: 日本学術振興会科研費 基盤研究 (C) FGF23 シグナルを分子基盤とした歯・疾患治療のための基盤研究 (20592139) 吉子裕二 1,690 千円 2008 年
- 2: 共同研究費 (産学連携) 石灰化調節のための素材評価 ラフィーネインターナショナル 吉子裕二 3,600 千円 2008 年
- 3: 日本学術振興会科研費 若手研究 (スタートアップ) 局所リン酸代謝調節に基づく新規の骨・歯科疾患治療の基礎的研究 (19890140) 南崎朋子 1,340 千円 2008
- 4: 広島大学研究支援金 Pit1 過剰発現ラットにおける歯の形成障害の解析 吉岡広陽 1,000 千円 2008 年

(5) 学会賞等

(6) 特許

[目次へ戻る](#)

# 展開医科学専攻・病態制御医科学講座（歯科麻酔学研究室） 及び口腔再建外科（歯科麻酔科）

## （１）職員並びに学生

教授          :    入船正浩  
助教          :    清水慶隆, 土井充, 齊田拓也  
医員          :    三浦完菜, 半澤泰紀, 鬼塚千織子  
大学院生     :    向井明里, 宮原岳史  
研修登録医   :    河原道夫, 片山荘太郎, 小林恵子, 永田将昭, 河原利哉

## （２）主な研究活動

- 1: 麻酔作用機序に関する研究
- 2: 全身麻酔薬の興奮作用（興奮期）に関する研究
- 3: 鎮静薬の抗不安効果に関する研究
- 4: 笑気末梢循環動態への作用に関する研究
- 5: 慢性疼痛に関する研究
- 6: 心肺蘇生における胸骨圧迫の有効性に関する研究
- 7: 歯科治療時の全身的合併症に関する研究

## （３）研究業績

### A) 原著（症例報告を含む）

- 1: 全身麻酔下歯科治療の周術期管理に視覚的支援を応用した Sotos 症候群の 1 例: 土井充, 野上堅太郎, 富永晋二, 加藤喜久, 久保田智彦, 谷口省吾: 日本歯科麻酔学会雑誌, 36 巻 1 号, 33-37, 2008.
- 2: 筋筋膜痛症候群による非歯原性歯痛の治療と診断: 土井充, 清水慶隆, 齊田拓也, 鬼塚千織子, 永田将昭, 三浦完菜, 半澤泰紀, 向井明里, 入船正浩, 谷口省吾, 河原道夫: 広島歯科医学雑誌, 35 巻 1 号, 47-53, 2008.
- 3: 歯痛を主訴とした群発頭痛の 1 例: 土井充, 野上堅太郎, 富永晋二, 真鍋庸二, 谷口省吾: 福岡歯科大学学会雑誌, 34 巻 1 号, 1-6, 2008.
- 4: 歯科診療時、三叉迷走神経反射が原因で起きたとは考えにくい失神をきたした 1 症例: 入船正浩, 清水慶隆, 齊田拓也, 永田将昭, 三浦完菜, 半澤泰紀, 崎田直次, 鬼塚千織子, 向井明里, 河原道夫: 日本歯科麻酔学会雑誌, 36 巻 2 号, 188-189, 2008.
- 5: 麻酔導入により急性心不全となり肥大型心筋症が判明したダウン症の 1 症例: 清水慶隆, 入船正浩, 土井充, 河原道夫, 久留島秀治, 谷川攻一: 臨床麻酔, 32 巻 10 号, 1647-1650,

2008.

B) 総説

C) 著書

D) その他の出版物

E) 学会発表

- 1: ラット一次求心性神経からのサブスタンス P 遊離に及ぼす全身麻酔薬の影響: 鬼塚千織子、入船正浩、井上敦子、仲田義啓、河原道夫: 第 81 回日本薬理学会年会(横浜)、2008.
- 2: 全身麻酔下に頸部郭清術を行った薬剤溶出性ステント留置患者の 1 例: 清水慶隆、土井充、鬼塚千織子、三浦完菜、半澤泰紀、向井明里、宮原岳史、福島怜子、藤城由希子、齊田拓也、入船正浩: 第 5 回日本歯科麻酔学会中国・四国地方会(徳島)、2008.
- 3: 全身麻酔覚醒時に肺胞出血を認めた 1 例: 向井明里、土井 充、清水慶隆、齊田拓也、鬼塚千織子、三浦完菜、半澤泰紀、入船正浩: 第 5 回日本歯科麻酔学会中国・四国地方会(徳島)、2008.
- 4: マスク換気困難症例に対する歯科用シリコン印象剤の応用: 半澤泰紀、清水慶隆、土井充、齊田拓也、三浦完菜、鬼塚千織子、向井明里、宮原岳史、福島怜子、藤城由希子、入船正浩: 第 5 回日本歯科麻酔学会中国・四国地方会(徳島)、2008.
- 5: 非菌原性歯痛を主訴として来院した片頭痛患者の 1 例: 土井 充、清水慶隆、鬼塚千織子、三浦完菜、半澤泰紀、向井明里、宮原岳史、福島怜子、藤城由希子、齊田拓也、入船正浩: 第 5 回日本歯科麻酔学会中国・四国地方会(徳島)、2008.
- 6: 難治性外傷性ニューロパシーにおけるアミトリプチリンの効果の検討: 土井 充、入船正浩、河原道夫、谷口省吾: 日本ペインクリニック学会第 42 回大会(福岡)、2008.
- 7: 後天性血管神経性浮腫患者の周術期全身管理経験: 齊田拓也、三浦完菜、清水慶隆、土井 充、鬼塚千織子、半澤泰紀、向井明里、入船正浩: 第 36 回日本歯科麻酔学会総会・学術集会(大阪)、2008.
- 8: 心理社会的アプローチが症状改善に有効であった疼痛性障害の 1 症例: 土井 充、清水慶隆、宮原岳史、福島怜子、藤城由希子、齊田拓也、入船正浩: 第 36 回日本歯科麻酔学会総会・学術集会(大阪)、2008.
- 9: 全身麻酔要素の一つである不動化におけるサブスタンス P の役割 – 脊髄後根神経節培養細胞からのサブスタンス P 遊離に及ぼす pentobarbital の影響 – : 鬼塚千織子、入船正浩、齊田拓也、向井明里、井上敦子、仲田義啓: 第 36 回日本歯科麻酔学会総会・学術集会(大阪)、2008.
- 10: 歯学生による Hands only CPR のスキル調査: 清水慶隆、土井 充、齊田拓也、半澤泰紀、三浦完菜、鬼塚千織子、向井明里、宮原岳史、入船正浩: 第 47 回広島県歯科医学会・第 92 回広島大学歯学会・日本歯科技工学会中国・四国支部第 3 回学術大会(広島)、2008.
- 11: 歯学部学生主体による頭痛実態調査: 土井充、入船正浩、清水慶隆、齊田拓也、谷口省

吾：第36回日本頭痛学会総会（東京）、2008.

#### （4）科学研究費補助金等の受領状況

- 1： 科学研究費補助金（基盤研究(C)）新規：入船正浩：全身麻酔要素である鎮痛・不動化作用におけるサブスタンスPの役割。（課題番号 20592373）． 4,000 千円.
- 2： 科学研究費補助金（若手研究(B)）新規：土井 充：難治性慢性疼痛の症状特異性と心理社会的要因における定量的評価－MEG と f－MRI.（課題番号 20791524）． 3,200 千円.

#### （5）学会賞等の受賞状況

#### （6）特許

[目次へ戻る](#)

## 展開医科学専攻・顎口腔頸部医科学講座（健康増進歯学研究室）及び口腔維持修復歯科（むし歯・変色歯診療室）

### （１）職員並びに学生

教授：西村英紀

准教授：富士谷盛興

講師：藤井理史

助教：尾田良，白井憲一，播磨貴裕，荒川真，柴田暁輝，本山直世，峯岡茜，山下明子

大学院生：岩下未咲，熊本園子，米廣純子，神人友樹，半井英雄，永安慎太郎，藤井紗貴子

### （２）主な研究活動

- 1: 齶触感受性宿主の宿主因子の解明
- 2: 歯科疾患と全身疾患の関連性の解明
- 3: 栄養素と歯科疾患の関連性の解明
- 4: 歯科疾患診断への新たな検査法の開発
- 5: 新規検査法に基づいた新たな予防法の開発
- 6: 生体親和性材料の開発と臨床応用
- 7: 変色歯の機序解明と治療法の開発
- 8: レーザーを用いた新たな生体非侵襲性治療法の開発
- 9: 象牙質／歯髄複合体の生物学的再生に関する研究

### （３）研究業績

#### A) 原著（症例報告を含む）

- 1: DNA microarray analyses of genes expressed differentially in 3T3-L1 adipocytes co-cultured with murine macrophage cell line RAW264.7 in the presence of the toll-like receptor 4 ligand bacterial endotoxin: Yamashita A., Soga Y., Iwamoto Y., Asano T., Li Y., Abiko Y., Nishimura F.: *International Journal of obesity*. 32, 1725-1729, 2008.
- 2: Spinal antiallodynia action of glycine transporter inhibitors in neuropathic pain models in mice: Morita K., Motoyama N., Kitayama T., Morioka N., Kifune K. Dohi T.: *J. Pharmacol. Exp., Ther.* 326, 633-645, 2008.
- 3: Effect of air-drying and solvent evaporation on the strength of HEMA-rich versus HEMA-free one-step adhesives: Ikeda T., De Munck Jan, Shirai K., Hikita K., Inoue S, Sano H., Lambrechts P., Van Meerbeek B.: *Dental Material*, 24(10), 1316-1323, 2008.
- 4: Antimicrobial effects of the saliva substitute, Oralbalance<sup>®</sup>, against microorganisms from oral mucosa in the hematopoietic cell transplantation period: Sugiura Y., Soga Y., Tanimoto I.,

- Kokeguchi S., Nishide S., Kono K., Takahashi K., Fujii N., Ishimaru F., Tanimoto M., Yamabe K., Tsutani S., Nishimura F., Takashiba S.: Supportive Care Cancer, 16, 421-424, 2008.
- 5: Polymorphisms in the 5' flanking region of *IL12RB2* are associated with susceptibility to periodontal diseases in the Japanese population: Takeuchi-Hatanaka K., Ohyama H., Nishimura F., Kato-Kogoe N., Soga Y., Matsushita S., Nakasho K., Yamanegi K., Yamada N., Terada N., Takashiba S.: J Clin Periodontol, 35, 317-323, 2008.
- 6: Differential effects of polymorphisms in the 5' flanking region of *IL12RB2* on NK and T cell activity: Ohyama H., Kato-Kogoe N., Nishimura F., Takeuchi-Hatanaka K., Matsushita S., Yamanegi K., Yamada N., Hata M., Nakasho K., Terada N.: J Interferon Cytokine Res, 28, 563-569, 2008.
- 7: Evaluation of xerostomia in hematopoietic cell transplantation by a simple capacitance: Sugiura Y., Soga Y., Nishide S., Kono K., Takahashi K., Fujii N., Ishimaru F., Tanimoto M., Nishimura F., Takashiba S.: Supportive Care Cancer, 16, 1197-1200, 2008.
- 8: IL-6/sIL-6 enhance cathepsin B and L production via caveolin-1-mediated JNK-AP-1 pathway in human gingival fibroblasts: Yamaguchi T., Naruishi K., Arai H., Nishimura F., Takashiba S.: J Cell Physiol, 217, 423-432, 2008.
- 9: Rapid and simple detection of eight major periodontal pathogens by the loop-mediated isothermal amplification method: Miyagawa J., Maeda H., Murauchi T., Kokeguchi S., Yamabe K., Tanimoto I., Nishimura F., Fukui K., Takashiba S.: FEMS Immunol Med Microbiol, 53, 314-321, 2008.
- 10: 薬物誘発性歯肉増殖症の発症に関与する遺伝子多型の検索 - $\alpha 2$  インテグリン +1648 G/A 遺伝子型- : 美原 (和田) 知恵, 坂東美香, 片岡正俊, 久保田健彦, 板垣真奈美, 島田靖子, 田井秀明, 吉江弘正, 西村英紀, 曾我賢彦, 高柴正悟, 永田俊彦, 木戸淳一 : 日歯保存誌, 51, 464-471, 2008.
- 11: Appearance of Multi-Drug-Resistant Opportunistic Bacteria on the Gingiva during Leukemia Treatment—A case report: Soga Y., Saito T., Nishimura F., Ishimaru F., Mineshiba J., Mineshiba F., Takaya H., Sato H., Kudo C., Kokeguchi S., Fujii N., Tanimoto M., Takashiba S.: J Periodontol, 79, 181-186, 2008.

## B) 総説

## C) 著書

- 1: 第5章全身状態改善のための歯科の役割 4.歯周病治療と内科疾患 ; 知りたいことがすぐわかる 高齢者歯科医療—歯科医療につながる医学知識— (小谷順一郎, 田中義弘 編集 主幹 足立了平, 河合峰雄, 佐久間泰司, 民田浩一編集) : 河野隆幸, 西村英紀 (分担執筆) : 永末書店, 224-225, 2008.
- 2: §4. 感染症 1. 歯周病の発生機序と系統的素因 ; 口腔内科学 (尾崎登喜雄 編集・監修) : 西村英紀, 栗原英見 (分担執筆) : 飛鳥出版, 367-375, 2008.
- 3: メタボリックシンドロームと歯周病 ; 歯周病学の視点からみた国民の健康増進 (日本歯周病学会 監修, 小方頼昌, 澁川義宏, 新井高 編集) : 西村英紀 (分担執筆) : 医歯薬出版

(東京), 204-206, 2008.

- 4: 糖尿病管理の一環としての歯周病管理の重要性; 糖尿病の療養指導 2008 (日本糖尿病学会編): 西村英紀 (分担執筆): 診断と治療社, 119-122, 2008.
- 5: 慢性合併症 糖尿病と歯周病; 日本臨床 新時代の糖尿病学 4—病因・診断・治療研究の進歩—: 西村英紀, 谷口中, 福島光夫, 中井義勝 (分担執筆): 日本臨床社 (東京), 450-453, 2008.

#### D) その他の出版物

- 1: 感染症と血管病はどのようにかかわるか? 2型糖尿病と歯周病について: 谷口中, 磯貝興久, 西村英紀, 中井義勝, 野村慶雄, 福島光夫, 清野裕: *Vascular Medicine-Journal of Vascular Medicine*, 4, 16-21, 2008.
- 2: 歯周病と全身疾患の関係 (2) 糖尿病と歯周病; 別冊 *Quintessence Year Book 2008* 現代の治療指針 歯周治療と全治療分野: 西村英紀, 岩本義博: *Quintessence*, 48-49, 2008.
- 3: 特集 II. 歯周病研究の新展開と治療戦略「歯周病と全身の健康との関係を再考する」; 炎症と免疫: 西村英紀, 16, 60-64, 2008.
- 4: 糖尿病と他の疾患との関連 3; 歯周病と糖尿病: 西村英紀: *月間ナーシング*, 28, 24-29, 2008.
- 5: インスリン抵抗性; 炎症と歯周病: 西村英紀: *Diabetes Frontier*, 19, 65-68, 2008.
- 6: 糖尿病と歯周病; *Diabetes Journal*: 西村英紀, 曾我義彦, 山下明子, 岩本義博, 36, 9-13, 2008.
- 7: 糖尿病と歯周病; 月刊「地域保健」: 澤田弘一, 西村英紀, 39(7), 57-61, 2008.
- 8: 歯周病は生活習慣病: 西村英紀: *Asahi Medical*, 8, 28-29, 2008.

#### E) 学会発表

- 1: 神経因性疼痛形成および維持におけるグリシンシグナル関連蛋白質発現解析: 北山友也, 森田克也, 本山直世, 岡広子, 土肥敏博: 第 81 回日本薬理学会年会 (横浜), 2008 年 3 月 17-19 日
- 2: グルタミン酸誘発アロディニア応答におけるグリシン受容体  $\alpha 3$  の関与: 森田克也, 本山直世, 北山友也, 貴船幸基, 土肥敏博: 第 81 回日本薬理学会年会 (横浜), 2008 年 3 月 17-19 日
- 3: 低濃度 LPS により脂肪細胞・マクロファージ共培養系から産生される分子のサイトカインアレイ解析: 山下明子, 西村英紀, 曾我賢彦, 岩本義博, 苔口進, 高柴正悟: 第 51 回春季日本歯周病学会学術大会 (大宮), 2008 年 4 月 24-26 日
- 4: ストレプトゾトシン誘発有痛性糖尿病性ニューロパチーモデルマウスにおけるグリシントランスポーター阻害薬の鎮痛作用: 本山直世, 森田克也, 北山友也, 西村英紀, 土肥敏博: 第 128 回日本歯科保存学会春季学術大会 (新潟), 2008 年 6 月 5-6 日
- 5: ラット下顎切歯を用いた脱灰評価モデルの確立: 米廣純子, 荒川 真, 白井 憲一, 西村 英紀: 第 128 回日本歯科保存学会春季学術大会 (新潟), 2008 年 6 月 5-6 日
- 6: 神経因性疼痛に対するグリシントランスポーターの役割—痛みの制御の可能性—: 北山友

- 也, 森田克也, 本山直世, 岡広子, 土肥敏博: 第3回トランスポーター研究会年会(京都), 2008年6月7-8日
- 7: 脂肪細胞-マクロファージ相互作用から捉えた, 肥満症における炎症の増幅機序の解明: 山下明子, 西村英紀: 第41回広島大学歯学会総会(広島), 2008年6月15日
  - 8: 血小板活性化因子(PAF)受容体阻害薬による神経因性疼痛寛解作用: 森田克也, 本山直世, 北山友也, 岡広子, 西村英紀, 土肥敏博: 第113回日本薬理学会近畿部会(岡山), 2008年6月20日
  - 9: Cytokine Profile Produced from LPS-stimulated Macrophage-Adipocyte Co-cultures: Yamashita A., Nishimura F., Soga Y., Iwamoto Y., Takashina S.: The 86<sup>th</sup> International Association for Dental Research (トロント) 2008年7月2-5日
  - 10: Dentin siloprotein and dentin phosphoprotein have specific roles in dentin mineralization: Suzuki S.: The 86<sup>th</sup> International Association for Dental Research (トロント) 2008年7月2-5日
  - 11: 歯周炎症がメタボリックシンドロームの病態に及ぼす影響を判定するための検査指標の確立を目指した基礎研究: 山下明子, 曾我賢彦, 岩本義博, 高柴正悟, 西村英紀: 第1回日本口腔検査学会総会・学術大会(東京), 2008年8月23日
  - 12: 軽微な慢性炎症としての歯周炎症の程度を判定するための高感度 CRP 測定の有用性に関する検討: 西村英紀, 山下明子: 第1回日本口腔検査学会総会・学術大会(東京), 2008年8月23日
  - 13: 血小板活性化因子(PAF)の脊髄腔内投与によるアロディニア発症における NO-cGMP カスケードを介したグリシン受容体  $\alpha 3$  (Gly $\alpha 3$ ) の関与: 本山直世, 森田克也, 北山友也, 西村英紀, 土肥敏博: 第50回日本歯科基礎医学会学術大会ならびに総会(東京), 2008年9月23-25日
  - 14: 神経因性疼痛形成段階で認められるグリシンシグナル変調に関する薬理学的研究: 北山友也, 森田克也, 本山直世, 西村英紀, 土肥敏博: 第50回日本歯科基礎医学会学術大会ならびに総会(東京), 2008年9月23-25日
  - 15: 神経因性疼痛で認められるグリシンシグナル賦活による疼痛抑制効果: 北山友也, 森田克也, 本山直世, 西村英紀, 土肥敏博: 第18回日本臨床精神神経薬理学会, 第38回日本精神神経薬理学会合同大会(東京), 2008年10月1-3日
  - 16: 脂肪細胞-マクロファージ共培養系を LPS 刺激することによって脂肪細胞で発現量が変動する遺伝子群の網羅的解析: 山下明子, 曾我賢彦, 岩本義博, 高柴正悟, 安孫子宜光, 西村英紀: 第51回秋季日本歯周病学会学術大会(四日市), 2008年10月18-19日
  - 17: 神経因性疼痛における発症と脳由来神経栄養因子(BDNF)の関与について: 本山直世, 森田克也, 北山友也, 西村英紀, 土肥敏博: 第47回広島県歯科医学会, 第92回広島大学歯学会, 日本歯科技工学会中国・四国支部第3回学術大会併催(広島), 2008年10月19日
  - 18: 神経損傷後疼痛モデルにおけるグリシン神経を介した鎮痛作用: 本山直世, 森田克也, 北山友也, 西村英紀, 土肥敏博: 第129回日本歯科保存学会秋季学術大会(富山), 2008年11月6-7日
  - 19: 神経因性疼痛発症時における Cl<sup>-</sup> 輸送体発現制御機構: 北山友也, 本山直世, 森田克也, 岡広子, 西村英紀, 土肥敏博: 第114回日本薬理学会近畿部会(神戸), 2008年11月14日

#### F) 学会シンポジウム, 特別講演

- 1: 老化促進因子としての口腔慢性炎症, 歯周病 (シンポジウム 10 Aging の生物学): 西村

- 英紀：第 29 回日本炎症・再生医学会（東京），2008 年 7 月 10 日
- 2: Periodontal Medicine. (シンポジウム「歯周炎症の局所・全身への影響とその対策」)：西村英紀：平成 20 年度日本臨床歯周病学会第 2 回関西支部例会 2008 年 11 月 30 日
  - 3: レクチャー 特殊な糖尿病の管理「糖尿病管理の一環としての歯周病管理の重要性」：西村英紀：第 42 回糖尿病学の進歩（高松），2008 年 2 月 16 日
  - 4: 教育講演 6「歯周病と糖尿病」：西村英紀：第 51 回日本糖尿病学会年次学術集会（東京），2008 年 3 月 22 日
  - 5: The periodontal host response with metabolic syndrome: Nishimura F.: The International Symposium on “Oral Sciences to Improve the Quality of Life”（徳島），2008 年 9 月 6 日
  - 6: 糖尿病に対する新たな歯周病治療戦略：西村英紀：第 21 回日本歯科医学会総会 ランチオンセミナー（横浜），2008 年 11 月 15 日

#### （4）科学研究費補助金等の受領状況

- 1: 日本学術振興会科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究）：西村英紀，栄養素と齶触感受性の関連性の解明. 課題番号 20659298. 1,600 千円
- 2: 日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（C）一般）：白井憲一，柴田暁輝，西村英紀，Sr-CaPO<sub>4</sub> 複合体を応用した自己修復能を有する接着システムの開発. 課題番号 20592227. 700 千円（間接経費: 210 千円）
- 3: 受託研究（株式会社松風）：西村英紀 . 500 千円
- 4: 若手研究（スタートアップ）：山下明子，歯周病とメタボリックシンドロームの関連性に関する基礎ならびに臨床研究. 課題番号 20890143. 1,742 千円

#### （5）学会賞等の受賞状況

#### （6）特許

[目次へ戻る](#)

## 展開医科学専攻・顎口腔頸部医科学講座（口腔外科学研究室）及び口腔再建外科（口腔顎顔面再建外科）

### （１）職員並びに学生

教授 : 鎌田伸之  
准教授 : 武知正晃  
講師 : 宮内美和, 東川晃一郎 (学内)  
助手 : 太田耕司 (診療講師), 二宮嘉昭, 島末洋, 小野重弘, 重石英生, 西裕美, 瀧雅行  
医員 : 三谷佳嗣, 水田邦子  
大学院生 : 平岡美里, 藤本伸一, 南正彦, 田中扶美, 奥井岳, 奥村俊哉, 福井暁子, 安田雅美,  
研修登録医 : 清見原正騎, 井上義久, 長谷川總, 尾崎竜太郎, 中本幸夫

### （２）主な研究活動

- 1: 顎顔面再建法の改良と機能評価
- 2: 口腔疾患のゲノム研究
- 3: 口腔腫瘍の生物学的特性と治療に関する研究
- 4: 口腔癌の浸潤・転移制御に関する細胞生物学的研究
- 5: 顎骨のセメント質・骨形成病変の原因遺伝子に関する研究
- 6: 歯と歯周組織の再生治療に関する細胞生物学的研究
- 7: 新規生体材料、口腔組織の再生・造成に関する研究

### （３）研究業績

#### A) 原著 (症例報告を含む)

- 1: Gene expression profiling to identify genes associated with high-invasiveness in human squamous cell carcinoma with epithelial-to-mesenchymal transition. Higashikawa K, Yoneda S, Taki M, Shigeishi H, Ono S, Tobiume K, Kamata N. Cancer Lett. 264(2): 256-264, 2008.
- 2: Up-regulation of stromal cell-derived factor-1 alpha and its receptor CXCR4 expression accompanied with epithelial-mesenchymal transition in human oral squamous cell carcinoma. Taki M, Higashikawa K, Yoneda S, Ono S, Shigeishi, H, Nagayama M, Kamata N. Oncology Rep. 19(4):993-8, 2008.
- 3: Transgenic expression of a mutated cyclin-dependent kinase 4 (CDK4/R24C) in pancreatic beta-cells prevents progression of diabetes in db/db mice. Miyawaki, H. Inoue, P. Keshavarz, K. Mizuta, A. Sato, Y. Sakamoto, M. Moritani, K. Kunika, T. Tanahashi, M. Itakura.: Diabetes Res

- Clin Pract. 82(1):33-41, 2008.
- 4: Increased expression of CENP-H gene in human salivary gland carcinomas: Shigeishi H, Mitani M, Ono S, Ohta K, Higashikawa K, Taki M, Kamata N.: Oral Science International. 5 (1): 43-51, 2008.
  - 5: Increased resistance to cationic antimicrobial peptide LL-37 in methicillin-resistant strains of Staphylococcus aureus.: Ouhara K, Komatsuzawa H, Kawai T, Nishi H, Fujiwara T, Fujiue Y, Kuwabara M, Sayama K, Hashimoto K, Sugai M.: J Antimicrob Chemother. 2008.
  - 6: Frequent silencing of a putative tumor suppressor gene melatonin receptor 1A (MTNR1A) in oral squamous-cell carcinoma. Nakamura E, Suzuki E, Nakagawa T, Pimkhaokham A, Tsuda H, Yamamoto G, Kozaki K, Kamata N, Tachikawa T, Amagasa T, Imoto I, Inazawa J. Cancer Sci. 99(7): 1390-1400, 2008
  - 7: Expression of epiregulin, a novel epidermal growth factor ligand associated with prognosis in human oral squamous cell carcinomas.: Shigeishi H, Higashikawa K, Hiraoka M, Fujimoto S, Mitani Y, Ohta K, Takechi M, Kamata N. Oncology Rep. 19: 1557-1564, 2008.
  - 8: Regulation of CXCL9/10/11 in oral keratinocytes and fibroblasts. Ohta K, Shigeishi H, Taki M, Nishi H, Higashikawa K, Takechi M, Kamata N. J Dent Res. 87(12):1160-1165,2008.
  - 9: Effect of FGF-2 and melatonin on implant bone healing: a histomorphometric study. Takechi M, Tatehara S, Satomura K, Fujisawa K, Nagayama M. J Mater Sci Mater Med. 19(8): 2949-52, 2008.
  - 10: Basic research on aw-AC/PLGA composite scaffolds for bone tissue engineering. Minamiguchi S, Takechi M, Yuasa T, Momota Y, Tatehara S, Takano H, Miyamoto Y, Satomura K, Nagayama M. J Mater Sci Mater Med. 19(3):1165-72, 2008.
  - 11: インプラント安定度指数に及ぼす皮質骨の影響について: 武知正晃、太田耕司、南 正彦、重石英生、鎌田伸之.: 日本口腔インプラント学会誌 21 巻 2 号 319-326, 2008
  - 12: 三次元光造形モデルの口腔外科臨床への応用: 太田耕司、南 正彦、武知正晃、瀧 雅行、宮内美和、東川晃一郎、二宮嘉昭、島末 洋、小野重弘、重石英生、西 裕美、牧平清超、玉本光弘、下江幸司、野宗万喜、村山 長、里田隆博、二川浩樹、鎌田伸之.: 広島大学歯学雑誌 40 55-61,2008
  - 13: インプラント治療に新規連通多孔体ハイドロキシアパタイト人工骨 NEOBONE を使用した 1 例: 宮内美和、杉山勝、西村正宏、島末洋、重石英生、平岡美里、武知正晃、岡本哲治、赤川安正、鎌田伸之.: 広島大学歯学雑誌 第 40 巻 1 号,62-65, 2008

## B) 総説

## C) 著書

## D) その他の出版物

- 1: EMTを介した癌の高度浸潤能獲得の分子機構: 鎌田伸之、東川晃一郎: 細胞工学 4 月号 (Vol.27, 04) 359-362, 2008 秀潤社, 特集EMT研究がいま面白い —発生・癌・病態研究から見えてきた接点—監修 山田源 2008年3月22日発行

## E) 学会発表

- 1: 舌癌における PET-CT 診断評価と臨床病理学的評価との相関:米田進吾, 宮内美和, 西裕美, 重石英生, 小野重弘, 島末洋, 二宮嘉昭, 太田耕司, 東川晃一郎, 武知正晃, 小川郁子, 高田隆, 鎌田伸之.: 第 26 回 日本口腔腫瘍学会総会・学術大会(2008.1.25 別府).
- 2: *Candida albicans* による不死化口腔粘膜上皮細胞、線維芽細胞における特異的ケモカイン発現誘導: 太田耕司, 西裕美, 瀧雅行, 重石英生, 武知正晃, 鎌田伸之.: 第 62 回日本口腔科学会学術集会(2008 4. 17 福岡).
- 3: 新規連通多孔体ハイドロキシアパタイトセラミックス骨補填材を用いた顎骨組織再生における基礎的研究: 平岡美里, 武知正晃, 南正彦, 重石英生, 太田耕司, 鎌田伸之.: 第 62 回日本口腔科学会学術集会(2008 4. 17 福岡).
- 4: ヒト肉肉線維芽細胞の合成培地による培養: 西裕美, 太田耕司, 平岡美里, 米田進吾, 鎌田伸之.: 第 62 回日本口腔科学会学術集会(2008 4. 17 福岡).
- 5: ミニシンポジウム 5 「口腔粘膜感染症の科学」口腔扁平上皮癌(OSCC)における Cdc25A の過剰発現とヒトパピローマウイルス(HPV)-16 型の発現との相関について: 杉山 勝, 宮内美和, 東川晃一郎, 重石英生, 三谷善嗣, 鎌田伸之.: 第 62 回日本口腔科学会学術集会(2008 4. 18 福岡).
- 6: 広島大学歯学部口腔保健学科における口腔外科的教育について: 杉山勝, 小泉浩一, 太田耕司, 岡本哲治, 鎌田伸之.: 第 37 回 (社) 日本口腔外科学会 中・四国地方会(2008 6.7 倉敷).
- 7: 癌における FDG-PET-CT 評価と病理組織学的評価との相関: 宮内美和, 米田進吾, 藤本伸一, 瀧雅行, 西裕美, 重石英生, 三谷善嗣, 小野重弘, 武知正晃, 小川郁子, 高田隆, 鎌田伸之.: 第 37 回 (社) 日本口腔外科学会 中・四国地方会(2008 6.7 倉敷).
- 8: 新規連通多孔体ハイドロキシアパタイトセラミックスの顎骨組織再生への応用に関する基礎的研究: 平岡美里, 南 正彦, 太田耕司, 重石英生, 武知正晃, 鎌田伸之.: 第 41 回広島大学歯学会総会(2008 6.15 広島)
- 9: 口腔内細胞からの ALCAM を指標とした骨分化細胞の分取: 鎌田浩一, 西村正宏, 末廣史雄, 坪井将洋, 藤井理史, 尾田良, 宮内美和, 西裕美, 鎌田伸之, 加藤幸夫, 貞森紳丞.: 第 41 回広島大学歯学会総会(2008 6.15 広島)
- 10: 三次元光造形モデルの口腔外科手術臨床への応用: 南 正彦, 太田耕司, 武知正晃, 宮内美和, 東川晃一郎, 島末洋, 小野重弘, 二宮嘉昭, 重石英生, 西裕美, 瀧雅行, 荒木結子, 首藤崇裕, 高橋愛里, 藤本佳那, 峯裕一, 三村純代, 牧平清超, 玉本光弘, 下江宰司, 村山長, 里田隆博, 二川浩樹, 鎌田伸之.: 第 41 回広島大学歯学会総会(2008 6.15 広島)
- 11: 下顎枝矢状分割術のスクリーン, プレート固定におけるコントラアングルドライバーシステムの応用: 太田耕司, 小野重弘, 瀧雅行, 水田邦子, 二宮嘉昭, 東森秀年, 宮内美和, 武知正晃, 柄なつみ, 田中栄二, 丹根一夫, 杉山勝, 鎌田伸之.: 第 18 回日本顎変形症学会 (2008 6.18 名古屋)
- 12: The Bone Regenerative effect of Osteoblasts on Novel Hydroxyapatite Ceramics : M. Hiraoka, M. Takechi, M. Minami, K. Ohta, H. Shigeishi and N.Kamata.: International Association for Dental

- Research 86Th general session and exhibition. (July 2-5, 2008, Metro Toronto convention centre)
- 13: Immunohistochemical localization of GDD1 gene product : Kuniko Mizuta, Hiroshi Inoue, Shinichi Fujimoto, Mitsuo Itakura, Nobuyuki Kamata.: International Association for Dental Research 86Th general session and exhibition. (July 2-5, 2008, Metro Toronto convention centre)
- 14: Expression analysis of chemokines in human oral keratinocytes and fibroblasts: K. Ohta, H. Shigeishi, M. Taki, H. Nishi, K. Higashikawa, M. Takechi and N. Kamata.: International Association for Dental Research 86Th general session and exhibition. (July 2-5, 2008, Metro Toronto convention centre)
- 15: 当科における高度救急救命センター紹介患者の臨床統計的検討: 二宮嘉昭、水田邦子、瀧雅行、西裕美、重石英生、小野重弘、島末洋、太田耕司、東川晃一郎、宮内美和、武知正晃、鎌田伸之.: 第 10 回日本口腔顎顔面外傷学会総会・学術大会(2008 7.20 東京)
- 16: 新規ハイドロキシアパタイトを用いて上顎洞底挙上同時インプラント植立を行った 1 症例 : 重石英生, 武知正晃, 西村正宏, 太田耕司, 南正彦, 島末洋, 宮内美和, 赤川安正, 鎌田伸之.: 第 38 回社団法人 日本口腔インプラント学会(2008 9.12~14 東京)
- 17: 下顎骨辺縁切除後の無歯顎症例にインプラント治療による咬合再建を行った 1 例: 島末 洋, 武知正晃, 重石英生, 太田耕司, 南正彦, 宮内美和, 西村正宏, 鎌田伸之.: 第 38 回社団法人 日本口腔インプラント学会(2008 9.12~14 東京)
- 18: 表面細胞抗原を用いた口腔内組織からの骨分化可能細胞の分取 : 鎌田浩一, 西村正宏, 坪井将洋, 宮内美和, 鎌田伸之, 貞森紳丞.: 第 38 回社団法人 日本口腔インプラント学会 (2008 9.12~14 東京)
- 19: 合成培地で培養したヒト歯肉線維芽細胞の創傷治癒促進効果 : 西裕美, 太田耕司, 平岡美里, 武知正晃, 鎌田伸之. : 第 18 回日本口腔粘膜学会(2008 9.19~20 東京)
- 20: *Candida albicans* による口腔粘膜上皮細胞, 線維芽細胞における特異的ケモカインの発現誘導 : 太田耕司, 西裕美, 瀧雅行, 重石英生, 武知正晃, 鎌田伸之. : 第 18 回日本口腔粘膜学会(2008 9.19~20 東京)
- 21: 扁平上皮癌細胞における Wnt-5a による高度浸潤能獲得機構の解析 : 瀧雅行、東川晃一郎、米田進吾、三谷佳嗣、重石英生、小野重弘、鎌田伸之 : 第 53 回 (社) 日本口腔外科学会総会(2008 10,20~21 徳島)
- 22: GM 含有  $\alpha$ -TCP/AC の顎骨骨髓炎への応用に関する基礎的研究 -基本物性と徐放特性について- : 二宮嘉昭、武知正晃、太田耕司、平岡美里、南正彦、石川邦夫、鎌田伸之. : 第 53 回 (社) 日本口腔外科学会総会(2008 10,20~21 徳島)
- 23: EMT 型口腔扁平上皮癌細胞の浸潤を抑制する Id3 の解析: 東川晃一郎, 米田進吾, 瀧雅行, 田中扶美, 三谷佳嗣, 重石英生, 小野重弘, 鎌田伸之. : 第 53 回 (社) 日本口腔外科学会総会(2008 10,20~21 徳島)
- 24: 口腔扁平上皮癌における RHAMM 遺伝子の発現解析: 重石英生, 藤本伸一, 瀧雅行, 小野重弘, 三谷佳嗣, 東川晃一郎, 鎌田伸之: 第 53 回 (社) 日本口腔外科学会総会(2008 10,20~21 徳島)
- 25: 新規連通多孔体ハイドロキシアパタイトの顎骨組織再生への応用に関する基礎的研究 : 平岡美里, 南正彦, 太田耕司, 重石英生, 武知正晃, 鎌田伸之. : 第 53 回 (社) 日本口腔外科学会総会(2008 10,20~21 徳島)

- 26: 口腔扁平上皮癌における EMT 関連遺伝子 VEGF-C の役割と発現機構 : 小野重弘, 三谷佳嗣, 東川晃一郎, 重石英生, 米田進吾, 瀧雅行, 鎌田伸之.: 第 53 回 (社) 日本口腔外科学会総会(2008 10,20~21 徳島)
- 27: 新規連通多孔体ハイドロキシアパタイト骨補填剤を用いたスプリットクレスト法の 1 例 : 三谷佳嗣, 武知正晃, 二宮嘉昭, 南正彦, 重石英生, 東川晃一郎, 鎌田伸之.: 第 53 回 (社) 日本口腔外科学会総会(2008 10,20~21 徳島)
- 28: 扁平上皮癌における上皮・間葉移行を介した Wnt-5a による高度浸潤能獲得機構 : 瀧雅行, 東川晃一郎, 米田進吾, 三谷善嗣, 重石英生, 小野重弘, 鎌田伸之.: 第 67 回日本癌学会学術総会(2008 10. 28~30 名古屋)
- 29: 悪性腫瘍で過剰発現するオーロラ A は細胞核を標的として機能する : 達家雅明, 神田暁史, 鎌田伸之, 北島正二郎, 工藤保誠, 高田隆, 嶋本文雄, 太田隆.: 第 67 回日本癌学会学術総会(2008 10. 28~30 名古屋)
- 30: h-prune の高発現は扁平上皮癌のアノキスや細胞運動に関与する : 三谷佳嗣, 瀧雅行, 小野重弘, 東川晃一郎, 菊池章, 鎌田伸之.: 第 67 回日本癌学会学術総会(2008 10. 28~30 名古屋)
- 31: Role and regulation of the EMT target gene VEGF-C expression in Oral Squamous Cell Carcinoma.: Shigehiro Ono, Yoshitugu Mitani, Koichiro Higashikawa, Hideo Shigeishi, Shingo Yoneda, Masayuki Taki, and Nobuyuki Kamata.: 第 67 回日本癌学会学術総会(2008 10. 28~30 名古屋)
- 32: Id3 suppresses confined to the invasiveness of human squamous cell carcinoma with epithelial-to-mesenchymal transition.: Koichiro Higashikawa, Shingo Yoneda, Kei Tobiume, Masayuki Taki, Yoshitsugu Mitani, Shigehiro Ono, Hideo Shigeishi, Nobuyuki Kamata. : 第 67 回日本癌学会学術総会(2008 10. 28~30 名古屋)
- 33: アテロコラーゲン含有アパタイトセメントにおける骨形成評価: 武知正晃, 平岡美里, 太田耕司, 二宮嘉昭, 南正彦, 安田雅美, 石川邦夫, 鎌田伸之.: 第 30 回日本バイオマテリアル学会シンポジウム (2008 11.17~18 東京)
- 34: GM 含有  $\alpha$ -TCP/AC の顎骨骨髓炎への応用に関する基礎的研究 -基本物性と徐放特性について-: 二宮嘉昭, 武知正晃, 太田耕司, 平岡美里, 南正彦, 湯浅哲也, 石川邦夫, 鎌田伸之.: 第 30 回日本バイオマテリアル学会シンポジウム(2008 11.17~18 東京)
- 35: チタン表面粗さが細菌付着に及ぼす影響: 太田耕司, 武知正晃, 平岡美里, 南正彦, 二宮嘉昭, 西裕美, 安田雅美, 都留寛治, 牧平清超, 二川浩樹, 石川邦夫, 鎌田伸之.: 第 30 回日本バイオマテリアル学会シンポジウム(2008 11.17~18 東京)
- 36: 舌縁に生じた粘液脂肪腫 (Myxolipoma) の 1 例: 奥井岳, 小野重弘, 三谷佳嗣, 小川郁子, 宮内美和, 高田隆, 鎌田伸之.: 第 56 回 NPO 法人日本口腔科学会中国・四国地方部会(2008 11.29 米子)
- 37: 下顎隆起を用い自家骨移植を行った一例 : 福井暁子・武知正晃・三谷佳嗣・二宮嘉昭・津賀一弘・赤川安正・鎌田伸之.: 第 56 回 NPO 法人日本口腔科学会中国・四国地方部会(2008 11.29 米子)
- 38: 規連通多孔体ハイドロキシアパタイト骨補填材を用いたスプリットクレスト法の 1 例 : 二宮嘉昭, 武知正晃, 三谷佳嗣, 南正彦, 重石英生, 東川晃一郎, 西村正宏, 鎌田伸之.: 第

12 回日本顎顔面インプラント学会学術大会(2008 12.6~7 東京)

- 39: 新規連通多孔体ハイドロキシアパタイト骨補填剤を用いて GBR とインプラント同時埋入を行った 1 例: 太田耕司, 武知正晃, 二宮嘉昭, 南正彦, 安田雅美, 平岡美里, 西村正宏, 鎌田伸之.: 第 12 回日本顎顔面インプラント学会学術大会(2008 12.6~7 東京)
- 40: 口腔癌切除後の下顎無歯顎症例にインプラント治療で口腔機能を回復した 1 例: 島末洋, 武知正晃, 重石英生, 太田耕司, 南正彦, 宮内美和, 西村正宏, 鎌田伸之.: 第 12 回日本顎顔面インプラント学会学術大会(2008 12.6~7 東京)

#### F) 講演会, 特別講演など

- 1: 鎌田伸之 口腔癌の基礎 ―発癌と浸潤転移の分子機構― 徳島大学 7.11
- 2: 鎌田伸之 歯原性腫瘍 岡山大学 7.16
- 3: 鎌田伸之 歯原性腫瘍と疾患遺伝子 大阪大学 11.14

#### (4) 科学研究費補助金等の受領状況

- 1: 科学研究費補助金(基盤研究(B)(2)一般)継続: 鎌田伸之, 上皮・間葉移行の解明による口腔癌の浸潤転移の制御. 課題番号 18300541.
- 2: 科学研究費補助金(基盤研究(C))継続: 東川晃一郎, 口腔癌の浸潤・転移を制御する上皮・間葉移行と p63 発現機構の解明. 課題番号 19592337.
- 3: 科学研究費補助金(基盤研究(C))継続: 二宮嘉昭, 新規多孔質セラミックスの骨形成発現メカニズムの細胞および遺伝子レベルでの解析. 課題番号 19592299.
- 4: 科学研究費補助金(若手研究(B))継続: 太田耕司, 炎症性口腔粘膜疾患の発症機構に関する細胞生物学的研究. 課題番号 17791460.
- 5: 平成19年度 科学研究費補助金(若手研究(B))継続: 重石英生, ヒト唾液腺腫瘍におけるCENP-Hの発現および機能解析. 課題番号
- 6: 科学研究費補助金(若手研究(B))継続: 小野重弘, VEGF-C による上皮・間葉移行を介した扁平上皮癌の高度浸潤能獲得に関する研究. 課題番号 19791520.
- 7: 科学研究費補助金(若手研究(B))継続: 三谷佳嗣, 分泌蛋白または膜蛋白の(ア)スクリーニングによる新規口腔癌バイオマーカーの同定. 課題番号19791521.
- 8: 科学研究費補助金(若手研究(B))継続: 瀧雅行, 口腔癌の高度浸潤能獲得機構におけるWnt 遺伝子の発現制御および機能解析. 課題番号 18791497.
- 9: 科学研究費補助金(若手研究(B))新規: 水田邦子, 顎骨骨幹異形成症(GDD)(ア)の原因遺伝子GDD1の機能解析
- 10: 科学研究費補助金(若手研究(B))新規: 西裕美, 難治性口腔粘膜疾患発生(ア)に関する粘膜上皮・真皮における免疫応答の細胞生物学的研究. 課題番号 20791518

#### (5) 学会賞等の受賞状況

- 1: 瀧雅之 2008 年度 第 53 回(社)日本口腔外科学会総会メダルティス賞

- 2: 小野重弘 2008年度 第53回(社)日本口腔外科学会総会ゴールドリボン賞
- 3: 重石英生 2008年度 第53回(社)日本口腔外科学会総会ゴールドリボン賞
- 4: 三谷佳嗣 2008年度 第53回(社)日本口腔外科学会総会ゴールドリボン賞

(6) 特許

[目次へ戻る](#)

## 展開医科学専攻・顎口腔頸部医科学講座（先端歯科補綴学研究室）及び口腔維持修復歯科（口腔インプラント診療科）

### （１）職員並びに学生

教授	：赤川安正
准教授	：津賀一弘，久保隆靖（診療）
講師	：阿部泰彦，田地豪（学内），日浅恭（診療）
助教	：是竹克紀，吉川峰加，土井一矢
事務補佐員	：来実倫子
医員	：竹内真帆，林和彦，宮本泰成
研修医	：河村崇久，森田晃司
大学院生	：金久弥生，丸山真理子，竹下亮
研究生	：歌野原有里

### （２）主な研究活動

- 1: インプラントの新素材の開発と臨床応用
- 2: 間葉系幹細胞を用いたハイブリッド人工骨の開発
- 3: FGF がインプラント周囲骨の骨形成能に及ぼす影響
- 4: インプラント周囲および義歯の生体力学解析
- 5: 歯科補綴治療が高齢者の QOL に及ぼす影響
- 6: 高齢者の義歯と嚥下機能
- 7: 舌機能評価を応用した摂食嚥下リハビリテーションの確立

### （３）研究業績

#### A) 原著（症例報告を含む）

- 1: Comparison of surface electromyographic (sEMG) activity of submental muscles between the head lift and tongue press exercises as a therapeutic exercise for pharyngeal dysphagia : Yoshida M, Grohe M E, Crary, M A, Mann G C and Akagawa Y : Gerodontology, 24, 111-116, 2008.
- 2: Standard values of maximum tongue pressure taken using newly developed disposable tongue pressure measurement device : Utanohara Y, Hayashi R, Yoshikawa M, Yoshida M, Tsuga K and Akagawa Y : Dysphagia, 23, 286-290, 2008.
- 3: Influence of static overload on the bony interface around implants in dogs : Miyamoto Y, Koretake K, Hirata M, Kubo T and Akagawa Y : Int. J. Prosthodont., 21 : 437-444, 2008.
- 4: Effect on tooth loss and denture wear on tongue tip motion in dentulous and edentulous older

people : Yoshikawa M, Yoshida M, Nagasaki T, Tanimoto K, Tsuga K and Akagawa Y : J. Oral Rehabil., 35(12), 882-888, 2008.

## B) 総説

## C) 著書

- 1: 顔面・下顎・口腔の基礎知識 (分担) 基礎から学ぶ口腔ケア (菊谷武監修) : 吉田光由 : 学研, 東京, 15-28, 2008.
- 2: 高齢者の転倒と咬合の関係 (分担) 転倒予防医学百科 (武藤芳照編) : 吉田光由 : 日本医事新報社, 100-102, 2008.
- 3: 口腔機能管理 (分担) 高齢者の口腔機能管理 ((社) 日本歯科医師会編) : 吉田光由, 菊谷武 : 日本歯科総合研究機構, 138-155, 2008.
- 4: バウチャー無歯顎患者の補綴治療 第12版 第25章 無歯顎患者のためのインプラント支持補綴装置 : Zarb G A, Bolender C B, Eckert S E, Fenton A H, Jacob R F, Mericske-Stern R, 赤川安正, 是竹克紀 訳 : 医歯薬出版株式会社, 東京, 2008.
- 5: バウチャー無歯顎患者の補綴治療 第12版 第26章 オッセオインテグレーションの科学 : Zarb G A, Bolender C B, Eckert S E, Fenton A H, Jacob R F, Mericske-Stern R, 赤川安正, 是竹克紀 訳 : 医歯薬出版株式会社, 東京, 2008.
- 6: バウチャー無歯顎患者の補綴治療 第12版 第27章 インプラント支持オーバーデンチャーの臨床プロトコル : Zarb G A, Bolender C B, Eckert S E, Fenton A H, Jacob R F, Mericske-Stern R, 赤川安正, 是竹克紀 訳 : 医歯薬出版株式会社, 東京, 2008.
- 7: 口腔ケアと栄養問題3 (分担) 介護予防プラクティスー口腔ケア 摂食・嚥下リハ N S T- : 金久弥生 : 厚生科学研究所, 東京, 252-259, 2008.

## D) その他の出版物

- 1: 生体本位の実践 咬合技工ーラボサイドで活かす咬合理論と咬合器操作 Part.4 適材適所の咬合器操作を見る! 治療法・部位・欠損状態別解説集 3. インプラント ②部分欠損ー臼歯部遊離端欠損 : 加藤了嗣, 久保隆靖, 日浅恭, 赤川安正 : 歯科技工別冊, 137-143, 2008.
- 2: 高齢者の義歯治療ーその適応の判断基準ー : 田地豪, 赤川安正 : 日本歯科評論, 68(2), 123-130, 2008.
- 3: 口腔インプラントの表面科学と展望 : 阿部泰彦, 日浅恭 : 歯界月報 (兵庫県歯科医師会機関誌), 684, 38-43, 2008.
- 4: 認知機能と義歯治療 : 田地豪, 赤川安正 : 歯界月報 (兵庫県歯科医師会機関誌), 685, 2008. 風光明媚な鳴門にてのサマースクール : 坂東永一, 津賀一弘, 下野賢吾 : 補綴臨床, 41(1), 104-107, 2008.
- 5: 第12回 ICP に参加して : 津賀一弘 : 補綴臨床, 41(1), 108-109, 2008.
- 6: シリコン系デンチャーリライニング材「Mucopren® soft (ムコプレソフト)」について :

阿部泰彦：日本歯科評論, 790, 113-118, 2008.

#### E) 学会発表

- 1: Swallowing sound analysis for healthy adults and dysphagic patients : Yoshikawa M, Nagasaki T, Yoshida M and Akagawa Y : 16th Annual Dysphagia Research S (Southuth Carolina) , 2008.
- 2: 簡易型舌圧測定装置を用いた嚥下時舌機能評価の検討 : 河村崇久, 津賀一弘, 吉川峰加, 林亮, 丸山真理子, 岡田源太郎, 歌野原有里, 吉田光由, 赤川安正 : 日本顎口腔機能学会第 40 回記念学術大会一般口演 (盛岡) , 2008.
- 3: Bone regeneration ability of newly developed polyphosphate-coated interporous hydroxyapatite : Morita K, Doi K, Matsuura A, Takeshita R, Koretake K, Kubo T and Akagawa Y : 国際補綴学会名古屋 2008 (名古屋) , 2008.
- 4: The effect of daily tongue exercise on resting saliva flow rate and maximum voluntary tongue pressure : Okada G, Tsuga K, Kawamura T, Maruyama M, Yoshikawa M, Hayashi R, Yoshida M and Akagawa Y : 国際補綴学会名古屋 2008 (名古屋) , 2008.
- 5: 簡易舌圧測定法の確立 : 河村崇久, 吉川峰加, 歌野原有里, 岡田源太郎, 丸山真理子, 林亮, 吉田光由, 津賀一弘, 赤川安正 : 日本補綴歯科学会第 117 回学術大会課題口演 (名古屋) , 2008.
- 6: 生体模倣性骨移植材料「炭酸アパタイト・コラーゲン複合体」の骨形成能 : 松浦歩, 久保隆靖, 土井一矢, 森田晃司, 平田伊佐雄, 岡崎正之, 赤川安正 : 日本補綴歯科学会第 117 回学術大会課題口演 (名古屋) , 2008.
- 7: bFGF 添加によるポリリン酸吸着型人工骨の骨形成促進相互作用の検討 : 竹下亮, 袁 泉, 久保隆靖, 土井一矢, 森田晃司, 赤川安正 : 第 41 回広島大学歯学会総会 (広島) , 2008.
- 8: 背や腰が曲がった高齢患者の歯科診療用簡易身体支持具の考案 : 津賀一弘, 林亮, 田地豪, 丸山真理子, 河村崇久, 岡田源太郎, 歌野原有里, 森川英彦, 吉川峰加, 吉田光由, 赤川安正 : 第 19 回日本老年歯科医学会学術大会 (岡山) , 2008.
- 9: 高齢者の口腔内装置 (補綴物) 誤飲防止に対する取り組み : 富來博子, 金久弥生, 山根次美, 板木咲子, 河原栄子, 田地豪 : 第 16 回日本療養病床協会全国研究会口演発表 (福岡) , 2008.
- 10: Bone regeneration around fenestrated implants by different bFGF-gelatin hydrogel complexes : Morita, K, Hayashi K, Doi K, Koretake K, Kubo T, Tabata Y and Akagawa Y : 86th General Session & Exhibition of the IA (Toront) , 2008.
- 11: A handy manometric evaluation of swallowing-related tongue function : Kawamura T, Tsuga K, Okada G, Yoshikawa M, Hayashi R, Yoshida M and Akagawa Y : 86th General Session & Exhibition of the IA (Toront) , 2008.
- 12: Maximum voluntary tongue pressure in Eichner's group C denture wearers : Tsuga K, Utanohara U, Okada G, Kawamura T, Yoshikawa M, Hayashi R, Yoshida M and Akagawa Y : 86th General Session & Exhibition of the IA (Tronto) , 2008.
- 13: 高校空手道部員のカスタムメイド・マウスガードによる外傷予防効果に関する調査 : 生熊義正, 津賀一弘 : 第 19 回日本スポーツ歯科医学会一般口演 (札幌) , 2008.

- 14: 自立支援に繋がった義歯治療の1症例：田地豪，河村崇久，吉川峰加，金久弥生，吉田光由，小田正秀，津賀一弘，赤川安正：平成20年度日本補綴歯科学会中国四国九州支部合同学術大会（別府），2008.
- 15: 脳血管障害患者とALS患者の嚥下音に関する検討：吉川峰加，長崎信一，吉田光由，谷本啓二，田中君枝，笹村和博，岡田源太郎，赤川安正：第14回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会（幕張），2008.
- 16: 咬合接触と嚥下機能に関する検討：吉川峰加，河村崇久，吉田光由，津賀一弘，赤川安正：日本咀嚼学会第19回学術大会・総会（東京），2008.
- 17: bFGF 添加によるポリリン酸吸着型人工骨の骨形成促進相互作用の検討：竹下亮：第38回日本口腔インプラント学会総会・学術大会（東京），2008.
- 18: 空気圧を利用する歯科診療用身体支持具の考案：津賀一弘，林亮，田地豪，丸山真理子，河村崇久，岡田源太郎，歌野原有里，森川英彦，吉川峰加，吉田光由，赤川安正：第47回広島県歯科医学会第92回広島大学歯学会日本歯科技工学会中国・四国支部第3回学術大会（広島），2008.
- 19: 広島市総合リハビリテーションセンターでの歯科の取り組み：吉田光由，赤川安正：第47回広島県歯科医学会第92回広島大学歯学会日本歯科技工学会中国・四国支部第3回学術大会（広島），2008.

#### F) その他

- 1: 介護保険，後期高齢者医療保険に歯科医学的管理を定着していくために：吉田光由：第19回日本老年歯科医学会学術大会シンポジウム（岡山），2008.
- 2: 摂食嚥下・リハビリテーションからリハビリテーションまで：吉田光由：第15回日本歯科医療福祉学会シンポジウム（広島），2008.
- 3: 嚙むことの大切さ：津賀一弘：平成20年度日本補綴歯科学会中国四国九州支部合同学術大会市民フォーラム（別府），2008.
- 4: インプラント治療のためのエビデンス「インプラント治療の成功の基準は変わったのか?」：赤川安正：日本口腔インプラント学会・学術大会シンポジウム（東京），2008.
- 5: 特別企画講演Ⅱ 日本の歯科医療を考える「国民の健康に貢献する連携医療の役割」：赤川安正：第51回秋季日本歯周病学会学術大会（四日市），2008.
- 6: インプラント治療のための骨補材の現状と未来「骨補填材開発の現場から」：久保隆靖：日本口腔インプラント学会第28回中国・四国支部総会・学術大会シンポジウム（広島），2008.
- 7: 安全で信頼できるインプラント治療とその選び方：赤川安正：日本口腔インプラント学会第28回中国・四国支部総会・学術大会市民公開講座（広島），2008.

#### (4) 科学研究費補助金等の受領状況

- 1: 科学研究費補助金（基盤研究（B））：赤川安正，インテリジェントゲル・bFGF 複合体による新しいインプラントGBR法の開発. 課題番号 19390498 . 8,970千円

- 2: 科学研究費補助金（萌芽研究）：赤川安正，アルツハイマー型認知症と歯の喪失・咬合の関連における分子生物学的探求. 課題番号 19659508 . 900 千円
- 3: 科学研究費補助金（基盤研究（C）一般）：津賀一弘，補綴治療の抗加齢作用を増強する機能レーダーチャートの新開発.（課題番号 20592269） . 2,600 千円
- 4: 科学研究費補助金（基盤研究（C）一般）：田地豪，部分床義歯デザインプロセスのための咬合支持能力指数の開発.（課題番号 20592270） . 1,950 千円
- 5: 科学研究費補助金（基盤研究（C）一般）：日浅恭，高度インプラント診断治療統合システムのためのマルチフィジックスシミュレータの開発.（課題番号 18592129） . 1,950 千円
- 6: 科学研究費補助金（若手研究（B））：是竹克紀，インプラント追加埋入のための骨モデリングを応用する新しい骨質改善法.（課題番号 19791443） . 1,430 千円
- 7: 科学研究費補助金（若手研究（B））：吉川峰加，咬合の維持・回復による嚥下機能のアンチエイジング.（課題番号 19791442） . 1,430 千円
- 8: 科学研究費補助金（若手研究（B））：土井一矢，インテリジェント人工骨による顎骨の再生.（課題番号 20791428） . 2,210 千円
- 9: 厚生労働省科学研究費補助金(長寿科学総合研究)：赤川安正，口腔ケア・マネジメントの確立.（課題番号 KOSE202001） . 3,430 千円

#### （5）学会賞等の受賞状況

- 1: 吉川峰加：日本咀嚼学会第 19 回学術大会優秀ポスター賞

#### （6）特許

[目次へ戻る](#)

## 展開医科学専攻・顎口腔頸部医科学講座（歯科補綴学研究室）及び口腔維持修復歯科（咬合・義歯診療科）

### （１）職員並びに学生

教授 : 濱田泰三（３月まで）  
准教授 : 貞森紳丞, 安部倉仁（診療准教授）, 西村正宏（診療准教授）  
助教 : 井上俊二, 洪光, 香川和子,  
事務補佐員 : 宮川路子  
歯科診察医 : 原田佳枝, 林昭志  
後期研修医 : 末廣史雄（チーフ）, 鎌田浩一（シニア 3月まで）, 柄博紀（シニア 3月まで）, 坪井将洋（シニア 3月まで）, 藤原勲（シニア）, 堀智治（シニア）  
大学院生 : 李英愛（3月まで）, 末廣史雄（3月まで）, 林田健太郎（3月まで）, 前田武志, 水町亘, 林昭志, 鎌田浩一, 柄博紀, 坪井将洋, ディリヌル（10月から）  
研修登録医 : 古胡真佐美, 深野木豊, 藤原勲（3月まで）

### （２）主な研究活動

- 1: 間葉系幹細胞の骨分化に関わる分子生物学的解析
- 2: 高齢者（認知症）における補綴治療と全身状態との関連
- 3: 精神障害と歯科診療
- 4: 義歯安定剤の開発
- 5: 歯科材料のレオロジー及び義歯裏装材の開発に関する研究
- 6: 義歯裏装材の ISO 規格の制定
- 7: 低侵襲な顎堤増生法の開発
- 8: 顎機能障害に対する保存療法の筋電図学的研究
- 9: 少数歯欠損補綴及び動揺歯固定の接着技法に関する研究

### （３）研究業績

#### A) 原著（症例報告を含む）

- 1: Enhancement of osteogenesis by concanavalin A in human bone marrow mesenchymal stem cell cultures: Sekiya K., Nishimura M., Suehiro F., Nishimura H., Hamada T., Kato Y.: Int J Art Org, 31, 708-715, 2008.
- 2: Influence of storage methods on the surface roughness of tissue conditioners: Hong G., Li Y.A., Maeda T., Mizumachi W., Sadamori S., Hamada T., Murata H.: Dent Mater J, 27(2), 153-158, 2008.

- 3: A questionnaire survey of dentists and dental students in China about denture adhesives: Hong G., Lian Y.M., Sadamori S., Hamada T., Murata H.: *Int Chin J Dent*, 8, 33-37, 2008.
- 4: The pre-surgical modification of the provisional over-denture through 3-dimensional image analysis supports the mini dental implant treatment: A clinical report: Makihira S., Mizumachi W., Harada K., Shimoe S., Sadamori S., Nikawa H.: *Int Chin J Dent*, 8, 39-41, 2008.
- 5: The initial effects of occlusal splint vertical thickness on the nocturnal EMG activities of masticatory muscles in subjects with a bruxism habit : Abekura H., Yokomura M., Sadamori S., Hamada T.: *Int J Prothodont*, 21, 116-120, 2008.
- 6: The relationships between oral status, physical and mental health, nutritional status and diet type in elderly Japanese women with dementia: Sadamori S., Hayashi S., Hamada T.: *Gerodontology*, 25, 205-209, 2008.
- 7: Three dimensional changes in maxillary complete dentures immersed in water for seven days after polymerization: Sadamori S., Ishii T., Hamada T., Razak A.: *Dent J*, 41, 1-4, 2008.
- 8: Influence of denture cleansers on the color stability of three types of resin: Hong G., Murata H., Li Y.A., Sadamori S., Hamada T.: *J Prosthet Dent*, 101, 205-213, 2009.
- 9: Three dimensional changes in maxillary complete dentures immersed in water for seven days after polymerization: Sadamori S., Ishii T., Hamada T., Razak A.: *Dent J*, 41, 1-4, 2008.
- 10: インプラント治療に新規連通多孔体ハイドロキシアパタイト人工骨 NEOBONE®を使用した一例：宮内美和，杉山勝，西村正宏，島末洋，重石英生，平岡美里，武知正晃，岡本哲治，赤川安正，鎌田伸之：*広大歯誌*，40，62-65，2008.

## B) 総説

- 1: Relationship between viscoelastic properties of soft denture liners and clinical efficacy: Murata H., Hamada T., Sadamori S.: *Japanese Dental Science Review*, 44, 128-132, 2008.

## C) 著書

- 1: T Duplicate Denture: Hamada T., Jiang T., Jin C., Hong G., Bai X.Q.: *People's Military Medical Press, Beijing, China*, 149, 2008.
- 2: クラウンブリッジテクニック：貞森紳丞（分担執筆）：医歯薬出版，1-183，2008.
- 3: 口腔ケア 基礎知識口腔ケア4級・5級認定資格基準準拠：濱田泰三、貞森紳丞（分担執筆）永末書店，153-154，2008.
- 4: 口腔ケア 基礎知識口腔ケア4級・5級認定資格基準準拠：貞森紳丞、濱田泰三（分担執筆）：永末書店，284-285，2008.

## D) その他の出版物

## E) 学会発表

- 1: Strict selection of transcription factors involved in mesenchymal stem cells osteogenesis: Suehiro F., Nishimura M., Kamada K., Tsuboi M., Sekiya K., Sadamori S., Hamada T.: 86th IADR (Toronto, Canada), 2008. 7.2
- 2: Effect of CMC Content on Mechanical Properties of Denture Adhesives.: Hong G., Maeda T., Murata H., Sadamori S., Hamada T.: The 4th Sino-Japan Conference on Stomatology (Xi'an, China), 2008. 9.28-29
- 3: Influence of Component on Viscoelasticity of Tissue Conditioners.: Maeda T., Hong G., Mizumachi W., Tsuka H., Sadamori S., Hamada T.: The 4th Sino-Japan Conference on Stomatology (Xi'an, China), 2008. 9.28-29
- 4: Interface, implant, regenerated bone and recipient alveolar bone: Nishimura M., Sakai Y., Suehiro F., Tsuboi M., Kamada K., Hori T., Sakai M., Takeda M., Tsuji K., Hamada T.: The 3rd International Symposium for Interface Oral Health Science in Sendai, 2009. 1.15-16
- 5: The influence of Sericin solution on wettability and antifungal effect of resin surface: Hong G., Hamada T., Maeda T., Yuda S., Yamada H., Tsujimoto K., Sadamori S.: The 3rd International Symposium for Interface Oral Health Science in Sendai, 2009. 1.15-16
- 6: メチル系ポリマーの添加が試作粘膜調整材の粘弾性に及ぼす影響：前田武志，洪光，貞森紳丞，濱田泰三：第 51 回日本歯科理工学会学術大会(横浜)，2008.4.26
- 7: 可塑剤およびポリマーが粘膜調整材の動的粘弾性に及ぼす影響：柄博紀，洪光，前田武志，濱田泰三，村田比呂司：第 51 回日本歯科理工学会学術大会(横浜)，2008.4.27
- 8: 義歯安定剤の組成成分が初期粘度および粘着強さに及ぼす影響：洪光，林田健太郎，村田比呂司，前田武志，水町亘，濱田泰三：第 117 回日本補綴歯科学会学術大会(名古屋)，2008.6.7
- 9: 試作光重合型軟質リライン材のレオロジー特性—ポリマー分子量の影響—：水町亘，村田比呂司，洪光，前田武志，濱田泰三：第 117 回日本補綴歯科学会学術大会(名古屋)，2008.6.7
- 10: 80 歳以上要介護高齢者の義歯装着，摂食状態と身体および精神状態の検討：林昭志，貞森紳丞，井上俊二，濱田泰三，安部倉仁，藤原勲：第 117 回日本補綴歯科学会学術大会(名古屋)，2008.6.7
- 11: 間葉系幹細胞の骨分化に関わる転写調節関連遺伝子の探索：末廣史雄，西村正宏，鎌田浩一，坪井将洋，関谷健祐，貞森紳丞，濱田泰三：第 117 回日本補綴歯科学会学術大会 (名古屋)，2008.6.8
- 12: 口腔内細胞からの ALCAM を指標とした骨分化細胞の分取：鎌田浩一，西村正宏，末廣史雄，坪井将洋，藤井理史，尾田良，宮内美和，西裕美，鎌田伸之，加藤幸夫，貞森紳丞：第 41 回広島大学歯学会総会（広島），2008.6.15
- 13: 施設入所要介護高齢者の口腔内，摂食状態と身体および精神状態の検討：林昭志，貞森紳丞，井上俊二，濱田泰三，安部倉仁，藤原勲：第 41 回広島大学歯学会総会（広島），2008.6.15
- 14: 施設入所要介護高齢者の摂食状態と身体，精神状態の 1 年後の変化の検討：林昭志，貞森紳丞，井上俊二，濱田泰三，安部倉仁：第 19 回日本老年歯科医学会総会・学術大会（岡山），2008.6.19
- 15: 顎骨由来の間葉系幹細胞を用いた骨増生法の有効性：坪井将洋，西村正宏，末廣史雄，鎌

- 田浩一, 堀智治, 貞森紳丞: 平成 20 年度日本補綴歯科学会九州・中国・四国支部合同学術大会 (別府), 2008.8.30
- 16: PVM-MA および CMC 含有量が試作クリームタイプ義歯安定剤の理工学的性質に及ぼす影響: 洪光, 林田健太郎, 前田武志, 水町亘, 柄博紀, 貞森紳丞, 村田比呂司: 平成 20 年度日本補綴歯科学会九州・中国・四国支部合同学術大会 (別府), 2008.8.30
- 17: 自己間葉系幹細胞を用いた低侵襲な顎堤増生法の開発: 坪井将洋, 西村正宏, 坂井裕大, 鎌田浩一, 貞森紳丞: 第 38 回日本口腔インプラント学会学術大会 (東京), 2008.9.13
- 18: 細胞表面抗原を用いた口腔内組織からの骨分化可能細胞の分取: 鎌田浩一, 西村正宏, 坪井将洋, 宮内美和, 鎌田伸之, 貞森紳丞: 第 38 回日本口腔インプラント学会学術大会 (東京), 2008.9.14
- 19: 新規ハイドロキシアパタイトを用いて上顎洞底挙上術同時インプラント植立を行った症例: 重石英生, 武知正晃, 西村正宏, 太田耕司, 南正彦, 島末洋, 宮内美和, 赤川安正, 鎌田伸之: 第 38 回日本口腔インプラント学会学術大会 (東京), 2008.9.14
- 20: 下顎骨辺縁切除後の無歯顎症例にインプラント治療による咬合再建を行った 1 例: 島末洋, 武知正晃, 重石英生, 太田耕司, 南正彦, 宮内美和, 西村正宏, 鎌田伸之: 第 38 回日本口腔インプラント学会学術大会 (東京), 2008.9.14
- 21: 認知症高齢者の摂食状態と身体, 精神状態の検討 1 年後の経過から: 林昭志, 貞森紳丞, 井上俊二, 古胡真佐美: 第 9 回日本認知症ケア学会 (香川), 2008.9.27
- 22: 実験的ストレス負荷による唾液中クロモグラニン A の変動と口腔習癖の関連性: 安部倉仁, 貞森紳丞, 洪光, 原田佳枝, 前田武志, 鎌田浩一, 坪井将洋, 柄博紀, 香川和子, 林昭志: 第 47 回広島県歯科医学会第 92 回広島大学歯学会日本歯科技工学会中国・四国支部第 3 回学術大会 (広島), 2008.10.19
- 23: 施設入所要介護高齢者の義歯装着と栄養状態, 身体および精神状態の 1 年後の検討: 林昭志, 貞森紳丞, 井上俊二, 藤原勲, 西村正宏, 安部倉仁: 第 47 回広島県歯科医学会第 92 回広島大学歯学会日本歯科技工学会中国・四国支部第 3 回学術大会 (広島), 2008.10.19

#### F) 講演発表

- 1: Alveolar ridge augmentation using alveolar bone mesenchymal stem cells: 西村正宏: 第 1 回再生補綴医学研究会(名古屋), 2008.11.28
- 2: 間葉系幹細胞の骨分化初期に関与する転写調節関連遺伝子の探索: 末廣史雄: 第 18 回中国・四国骨代謝研究会 (岡山), 2008.7.12
- 3: 接着ブリッジの臨床: 安部倉仁: 第 486 回 歯科理工学懇話会 (愛知学院大学歯学部歯科理工学講座内), 2008.9.11

#### (4) 科学研究費補助金等の受領状況

- 1: 科学研究費補助金 (基盤研究(B)(2)一般) 継続: 西村正宏: 自己由来細胞の機能制御による顎骨再生医療の開発. 課題番号 19390497. 3,600 千円

- 2: 科学研究費補助金（基盤研究(C)(2)一般）継続：井上俊二：口腔内組織をソースとした歯槽骨再生用幹細胞の探索. 課題番号 18592128. 910 千円
- 3: 財団法人ちゅうごく産業創造センター新産業創出研究費：西村春樹：歯科インプラントを可能にするためのMSCによる歯槽骨増生法の開発. 1,000 千円
- 4: 寄附金：西村正宏：歯科補綴学研究室での骨担体開発研究等. 250 千円
- 5: 広島県産業創生補助金受託研究費：(株)ツーセルより委託：西村正宏：開業歯科医院に普及可能な顎骨骨髓採取法および採取した骨髓液から確実に間葉系幹細胞を培養・保存する方法の開発. 915 千円
- 6: 科学研究費補助金（基盤研究(C)(2)一般）継続：香川和子：口腔乾燥症に用いる生薬配合口腔内潤滑剤の開発. 課題番号 19592238. 1,200 千円
- 7: 科学研究補助金（若手研究（B））継続：洪 光：口臭対策を中心とした試作生薬成分配合組織調整材の評価に関する研究. 課題番号 19791441. 1,100 千円
- 8: 財団法人日中医学協会共同研究助成金：洪 光：唾液分泌増強作用を有する生薬成分配合義歯安定剤に関する研究. 1,000 千円
- 9: 科学研究費補助金（基盤研究(C)(2)一般）継続：安部倉仁：唾液中クロモグラニンを指標とした精神的ストレス量と口腔習癖の関連性. 課題番号 19592242. 1,000 千円

#### （5）学会賞等の受賞状況

- 1: 末廣史雄: 第 117 回日本補綴歯科学会 課題口演賞受賞: 2008. 6.8
- 2: 末廣史雄: 86th IADR Arthur R. Frechette Finalist: 2008. 7.2
- 3: 鎌田浩一: 第 38 回日本口腔インプラント学会デンツプライ賞受賞: 2008. 9.14
- 4: 林 昭志: 第 9 回日本認知症ケア学会 石崎賞受賞: 2008. 9.27
- 5: 西村正宏: Excellent Young Investigator Award at The 3rd International Symposium for Interface Oral Health Science in Sendai: 2009. 1.16

#### （6）特許

[目次へ戻る](#)

## 展開医科学専攻・顎口腔頸部医科学講座（歯科矯正学研究室）及び口腔健康発育歯科（矯正歯科）

### （１）職員並びに学生

教授	: 丹根一夫
講師	: 河田俊嗣, 上田 宏
助教（大学院）	: 谷本幸太郎, 藤田 正, 田中伸明, 大谷淳二, 川合暢彦
助教（病院）	: 加来真人, 本川雅英
医員	: 當麻愉衣子（9月退局）, 西 美香
医員（研修医）	: 高明善, 長谷川拓郎, 末川洋平, 丹根由起, 山野栄三, 山本浄子
大学院生	: 犬伏俊博, 大熊暁, 神谷貴志, 佐野良太, 白倉麻耶, 高橋拓史, 柄なつみ, 岩渕泰憲, 国松 亮, 渡辺元気, Emanuel Braga Rego, Rene Arturo Marquez Hernandez, 黄郁苓, 伊藤剛志, 尾崎徳継, 川添亜希, 小跡弘幸, 砂川紘子, 笹本智子, 中村彩花, 廣瀬尚人, 堀畑篤史, 道田将彦, 吉岡基子, 林英貴, 松田弥生, 光吉智美, Sara Abedini
研究生	: 石川絵海, 村崎恭子
非常勤講師	: 植木和弘, 小島敏嗣, 柄博治, 花岡宏, 木南秀雄, 後藤滋巳
研修登録医	: 田中邦昭, 大名幸一, 筒井啓介, 植木雅士, 木村五十鈴, 釜田寛子, 北村玲子, 柳田珠美
歯科衛生士	: 岡田美穂, 和木田敦子

### （２）主な研究活動

- 1: 顎関節円板の粘弾性特性
- 2: 顎関節軟骨および円板細胞の増殖・分化に対する成長因子の影響
- 3: 顎関節負荷の生体力学的検索と潤滑機能の評価
- 4: 実験的歯の移動時の疼痛伝達機構およびその鎮痛機構の解明
- 5: 外科的矯正治療による顎口腔機能の変化
- 6: 鼻気道障害と顎顔面形態, 咀嚼筋機能, 呼吸機能との関連
- 7: 軟骨増殖および分化に対する機械的刺激の影響
- 8: 歯根膜の再生と修復機序の解明
- 9: 関節滑液中のヒアルロン酸代謝に関する研究
- 10: 食物性状の違いが大脳皮質の神経病理変化に及ぼす影響
- 11: 間葉系幹細胞による軟骨・骨再生医療の開発研究
- 12: 骨の成長発育に対する性ホルモンの制御機能

### (3) 研究業績

#### A) 原著 (症例報告を含む)

- 1: Inhibition of the proliferation of human periodontal ligament fibroblasts by hyaluronidase: Tanimoto K., Nakatani Y., Tanaka N., Ueki M., Yanagida T., Kitamura R., Tanne Y., Lin Y.Y., Kunimatsu R., Tanne K.: *Archives of Oral Biology*, 53, 330-336, 2008.
- 2: Cementoblast response to low- and high-intensity ultrasound: Dalla-Bona D.A., Tanaka E., Inubushi T., Oka H., Ohta A., Okada H., Miyauchi M., Takata T., Tanne K.: *Archives of Oral Biology*, 53, 318-323, 2008.
- 3: Skeletal anchorage for orthodontic correction of severe maxillary protrusion after previous orthodontic treatment: Tanaka E., Nishi-Sasaki A., Hasegawa T., Nishio C., Kawai N., Tanne K.: *Angle Orthodontist*, 78, 181-188, 2008.
- 4: Expression and activity of Runx2 mediated by hyaluronan during chondrocyte differentiation: Tanne Y., Tanimoto K., Tanaka N., Ueki M., Lin Y.Y., Ohkuma S., Kamiya T., Tanaka E., Tanne K.: *Archives of Oral Biology*, 53, 478-487, 2008.
- 5: Dynamic shear behavior of mandibular condylar cartilage is dependent on testing direction: Tanaka E., Iwabuchi Y., Rego E.B., Koolstra J.H., Yamano E., Hasegawa T., Kawazoe A., Kawai N., Tanne K.: *Journal of Biomechanics*, 41, 1119-1123, 2008.
- 6: The effect of mechanical loading on the metabolism of growth plate chondrocytes: Ueki M., Tanaka N., Tanimoto K., Nishio C., Honda K., Lin Y.Y., Tanne Y., Ohkuma S., Kamiya T., Tanaka E., Tanne K.: *Annals of Biomedical Engineering*, 36, 793-800, 2008.
- 7: Modeling of the effect of friction in the temporomandibular joint on displacement of its disc during prolonged clenching: Tanaka E., Hirose M., Koolstra J.H., van Eijden T.M., Iwabuchi Y., Fujita R., Tanaka M., Tanne K.: *Journal of Oral and Maxillofacial Surgery*, 66, 462-468, 2008.
- 8: A case of anterior open bite with severely narrowed maxillary dental arch and hypertrophic palatine tonsils: Tanimoto K., Suzuki A., Nakatani Y., Yanagida T., Tanne Y., Tanaka E., Tanne K.: *Journal of Orthodontics*, 35, 5-15, 2008.
- 9: Jaw-muscle activity changes after the induction of osteoarthritis in the temporomandibular joint by mechanical loading: Kawai N., Tanaka E., Langenbach G.E., van Wessel T., Sano R., van Eijden T.M., Tanne K.: *Journal of Orofacial Pain*, 22, 153-162, 2008.
- 10: Comparative properties of recombinant human and bovine matrix metalloproteinase-20: Zhu L., Tanimoto K., Robinsin S., Chen J., Witkowska E., Hall S., Le T., Denbesten P.K., Li W.: *Archives of Oral Biology*, 53, 785-790, 2008.
- 11: Effects of fluoride on the interactions between amelogenin and apatite crystals: Tanimoto K., Le T., Zhu L., Chen J., Featherstone J.D., Li W., Denbesten P.K.: *Journal of Dental Research*, 87, 39-44, 2008.
- 12: Reduced amelogenin-MMP20 interactions in amelogenesis imperfecta: Tanimoto K., Le T., Zhu L., Witkowska H.E., Robinson S., Hall S., Hwang P., Denbesten P.K., Li W.: *Journal of Dental Research*, 87, 451-455, 2008.

- 13: An adolescent patient with multiple impacted teeth: Tanaka E., Kawazoe A., Nakamura S., Ito G., Hirose N., Tanne Y., Kawai N., Tanimoto K., Tanne K.: *Angle Orthodontist*, 78, 1110-1118, 2008.
- 14: Overexpression of fibroblast growth factor 23 suppresses osteoblast differentiation and matrix mineralization in vitro: Wang H., Yoshiko Y., Yamamoto R., Minamizaki T., Kozai K., Tanne K., Aubin J.E., Maeda N.: *Journal of Bone and Mineral Research*, 23, 939-948, 2008.
- 15: The PPAR gamma-selective ligand BRL-49653 differentially regulates the fate choices of rat calvaria versus rat bone marrow stromal cell populations: Hasegawa T., Oizumi K., Yoshiko Y., Tanne K., Maeda N., Aubin J.E.: *BMC Developmental Biology*, 8, 71, 2008.
- 16: Effects of ultrasound on the proliferation and differentiation of cementoblast lineage cells: Inubushi T., Tanaka E., Rego E.B., Kitagawa M., Kawazoe A., Ohta A., Okada H., Koolstra J.H., Miyauchi M., Takata T., Tanne K.: *Journal of Periodontology*, 79, 1984-1990, 2008.
- 17: VEGF Induces osteoclast differentiation via Flt-1 and Flk-1: Tohma Y., Kaku M., Motokawa M., Lin Y.Y., Kamata H., Tai M., Tsuka N., Koseki H., Ohtani J., Fujita T., Kawata T., Tanne K.: *Biomedical Research*, 19, 151-156, 2008.
- 18: VEGF and M-CSF levels in periodontal tissue during tooth movement: Kaku M., Motokawa M., Tohma Y., Tsuka N., Koseki H., Sunagawa H., Marquez Hernandez R., Ohtani J., Fujita T., Kawata T., Tanne K.: *Biomedical Research*, 29, 181-187, 2008.
- 19: Orthodontic facilitation of mandibular growth using activator appliances in a patient with a unilateral condylar fracture: Fujita T., Ohtani J., Tanne K.: *Journal of Maxillofacial and Oral Surgery*, 7, 374-377, 2008.
- 20: Changes in occlusal contact area during oral appliance therapy assessed on study models: Ueda H., Almeida F.R., Lowe A.A., Ruse N.D.: *Angle Orthodontist*, 78, 866-872, 2008.
- 21: ラット上顎骨に植立した矯正用ミニスクリューの安定性の検討: 大谷淳二, 砂川紘子, 藤田正, 河田俊嗣, 加来真人, 當麻愉衣子, 本川雅英, 柄なつみ, Marquez Hernandez R., 小跡弘幸, 佐野良太, 丹根一夫: *Orthodontic Waves - Japanese Edition*, 67, 125-131, 2008.
- 22: 本邦における顎変形症治療の実態調査: 小林正治, 齊藤力, 井上農夫男, 大畑 昇, 川村仁, 後藤滋巳, 後藤昌昭, 白土雄司, 須佐美隆史, 丹根一夫, 橋本賢二, 森山啓司, 天笠光雄, 氷室利彦, 外木守雄: *日本顎変形症学会雑誌*, 18, 237-250, 2008.
- 23: 引張強度からみたセルフドリリング型ミニスクリューの初期安定性: 大谷淳二, 砂川紘子, 植木和弘, Marquez Hernandez R., 藤田正, 河田俊嗣, 加来真人, 當麻愉衣子, 本川雅英, 柄なつみ, 小跡弘幸, 丹根一夫: *広島大学歯学雑誌*, 40, 45-50, 2008.
- 24: 鎖骨頭蓋異骨症を伴う一卵性双生児における口腔顎顔面形態: 白倉麻耶, 山野栄三, 花岡宏一, 田中栄二, 丹根一夫: *中・四国矯正歯科学会雑誌*, 20, 61-70, 2008.
- 25: スケルタル・アンカレッジ・システム (SAS) を用いて上下顎歯列の遠心移動を行った叢生の非抜歯治療例: 柄なつみ, 柄博治, 柄陽子, 丹根一夫: *中・四国矯正歯科学会雑誌*, 20, 85-95, 2008.
- 26: 歯の銀行ー歯科治療の歴史から考察するー: 河田俊嗣, 加来真人, 本川雅英, 上田宏, 丹根一夫: *広島大学歯学雑誌*, 40, 91-105, 2008.

## B) 総説

- 1: Degenerative changes of articular cartilage in association with mechanical stimuli: Tanne K.: Japanese Dental Science Review, 44, 38-47, 2008.
- 2: Lubrication of the temporomandibular joint: Tanaka E., Detamore M.S., Tanimoto K., Kawai N.: Ann Biomed Eng, 36, 14-29, 2008.
- 3: 広島大学医療社会連携センター、地域企業とコンソーシアムを形成しベンチャー創設や特許取得を推進: 丹根一夫: 医療経営, 283, 94-96, 2008.
- 4: 産学連携による医療の新展開 先進的医療・バイオ推進を中心とした産学連携の展開: 丹根一夫: 新医療, 153-157, 2008.
- 5: 移植歯の歯根膜が有するインプラントにはない歯周組織再生能—「歯の銀行」を通じて歯の存在意義と歯科医師の役割を考える—: 加来真人, 河田俊嗣, 本川雅英, 小跡弘幸, 當麻愉衣子, 藤田正, 大谷淳二, 柄なつみ, 二木由峰, 井山禎之, 河野信也, 河本和郎, 丹根一夫: デンタルダイヤモンド, 33, 61-67, 2008.
- 6: 「歯の銀行」と矯正歯科治療の目標—歯科医師が求められるもの—: 加来真人, 河田俊嗣, 本川雅英, 當麻愉衣子, 釜田寛子, 藤田正, 大谷淳二, 田井雅子, 柄なつみ, 小跡弘幸, 丹根一夫, 河野信也, 二木由峰, 月星光博: 矯正臨床ジャーナル, 5, 11-17, 2008.
- 7: 重度開咬症例の長期治療経過: 上田宏: 中・四国矯正歯科学会雑誌, 20, 47-53, 2008.
- 8: 睡眠時無呼吸治療における新しい口腔内装置—広島から発信、口腔内装置治療のセカンドステージへ—: 上田 宏, 渡辺元気, 堀畑篤史, 植野正人, 妹尾輝明, 丹根一夫: 広島歯科医学雑誌, 35, 9-12, 2008.
- 9: 学校における食育指導—学校における食育指導—児童生徒の咬合の経年的変化と食習慣の関連性について—: 田部英樹, 田中栄二, 上田宏, 高明善, 渡辺元気, 堀畑篤史, 相澤光恵, 大松恭宏, 竹本英代, 丹根一夫: 広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要, 36, 271-274, 2008.

### C) 著書

- 1: 矯正用材料の特性: 丹根一夫: 歯科矯正学 (相馬邦道、他編) 第5版, 医歯薬出版 (東京), 193-196, 2008.
- 2: 顎関節症の矯正歯科治療: 丹根一夫: 歯科矯正学 (相馬邦道、他編) 第5版, 医歯薬出版 (東京), 326-331, 2008.
- 3: Condroid bone: Toshitsugu Kawata *et al.*: Current Experimental Study for Treatment of Cleft Lip and Palate: Tsuyoshi Kawai *et al.*, (ed) The first edition, Quintessence (Tokyo), 80-86, 2008.
- 4: Condroid bone graft: Toshitsugu Kawata *et al.*: Current Experimental Study for Treatment of Cleft Lip and Palate: Tsuyoshi Kawai *et al.*, (ed) The first edition, Quintessence (Tokyo), 97-100, 2008.
- 5: Guided Bone Regeneration by GBR: Toshitsugu Kawata *et al.*: Current Experimental Study for Treatment of Cleft Lip and Palate: Tsuyoshi Kawai *et al.*, (ed) The first edition, Quintessence (Tokyo), 101-102, 2008.

### D) その他の刊行物

## E) 学会発表

- 1: Notch1 Signaling during osteogenic differentiation of mesenchymal stem cells: Huang Y.C., Tanimoto K., Tanne Y., Lin Y.Y., Kamiya T., Kunimatsu R., Michida M., Nishio C., Tanaka N., Tanne K.: 86th General Session and Exhibition of the International Association for Dental Research (Toronto, Canada), 2008.
- 2: PGE2 Production in cementoblasts and PDL cells by ultrasound stimulation: Rego E.B., Tanaka E., Inubushi T., Miyauchi M., Takata T., Ohta A., Okada H., Tanne K.: 86th General Session and Exhibition of the International Association for Dental Research (Toronto, Canada), 2008.
- 3: Amelogenesis imperfecta is related to decreased amelogenin-MMP20 interactions: Li W., Tanimoto K., Zhu L., Le T.Q., Habelitz S., Denbesten P.: 86th General Session and Exhibition of the International Association for Dental Research (Toronto, Canada), 2008.
- 4: Comparison of response to mechanical loading between two articular cartilages. Nishio C., Ueki M., Tanaka N., Tanimoto K., Tanaka E, Lin Y.Y., Huang Y.C., Mendes A.D.M., Quintao C.C.A., Tanne K.: 86th General Session and Exhibition of the International Association for Dental Research (Toronto, Canada), 2008.
- 5: Overeruption of unopposed periodontally affected rat molars: Fujita T., Montet X., Tanne K., Kiliaridis S.: 84th Congress of the European Orthodontic Society (Lisbon, Portugal), 2008.
- 6: Recent advances in clinical orthodontics: Evidence-based strategic therapeutic system with use of teeth cryopreservation and metallic implant as an anchorage: Tanne K.: Annual Meeting of Taiwan Orthodontic Society (Taipei, Taiwan), 2008.
- 7: Treatment of a severe open bite using mini-screw anchorage: Koseki H., Kaku M., Kawazoe A., Tsuka N., Sasamoto T., Motokawa M., Ohtani J., Yamamoto R., Fujita T., Kawata T., Sara A., Matsuda Y., Tanne K.: 2nd Joint Meeting of the Korean Association of Orthodontists and the Japanese Orthodontic Society (Seoul, South Korea), 2008.
- 8: Establishment of reliable implantation method of mini-screw: Investigation by animal experiment and clinical survey: Ohtani J., Sunagawa H., Marquez Hernandez R., Fujita T., Kawata T., Kaku M., Tohma Y., Motokawa M., Tsuka N., Koseki H., Matsuda Y., Hayashi H., Sano R., Tanne K.: 2nd Joint Meeting of the Korean Association of Orthodontists and the Japanese Orthodontic Society (Seoul, South Korea), 2008.
- 9: Influence of oral appliance for the treatment of obstructive sleep apnea on occlusal function: Watanabe G., Horihata A., Ueda H., Tanne K.: 2nd Joint Meeting of the Korean Association of Orthodontists and the Japanese Orthodontic Society (Seoul, South Korea), 2008.
- 10: A case of bimaxillary protrusion treated by two-jaw surgery and genioplasty: Motokawa M., Yamamoto R., Kaku M., Kawata T., Tsuka N., Sasamoto T., Koseki H., Tanne K.: 2nd Joint Meeting of the Korean Association of Orthodontists and the Japanese Orthodontic Society (Seoul, South Korea), 2008.
- 11: Localization of sex hormones receptors during growth in newborn: Marquez Hernandez R., Ohtani J., Kawata T., Kaku M., Tohma Y., Motokawa M., Tsuka N., Sunagawa H., Koseki H., Tanne K.: 2nd Joint Meeting of the Korean Association of Orthodontists and the Japanese Orthodontic Society

- (Seoul, South Korea), 2008.
- 12: Cryopreservation of PDL cells by use of program freezer with magnetic field for teeth banking: Kaku M., Koseki H., Kawata T., Motokawa M., Sara A., Matsuda Y., Tsuka N., Fujita T., Ohtani J., Sunagawa H., Marquez Hernandez R., Tanne K.: 2nd Joint Meeting of the Korean Association of Orthodontists and the Japanese Orthodontic Society (Seoul, South Korea), 2008.
  - 13: Stability of self-drilling screw under various conditions examined by histomorphometric study and clinical survey: Sunagawa H., Ohtani J., Fujita T., Kawata T., Kaku M., Motokawa M., Tsuka N., Marquez Hernandez R., Koseki H., Matsuda Y., Sara A., Hayashi H., Tanne K.: 2nd Joint Meeting of the Korean Association of Orthodontists and the Japanese Orthodontic Society (Seoul, South Korea), 2008.
  - 14: Modulation of the metabolism of periodontal ligament and gingival fibroblasts by amelogenin: Kunimatsu R., Tanimoto K., Tanaka N., Tanne Y., Kamiya T., Ohkuma S., Huang Y.C., Yoshioka M., Ozaki N., Michida M., Sasamoto T., Mitsuyoshi T., Tanne K.: 2nd Joint Meeting of the Korean Association of Orthodontists and the Japanese Orthodontic Society (Seoul, South Korea), 2008.
  - 15: A treatment case of mandibular prognathism with transplantation of the third molar: Sasamoto T., Motokawa M., Kaku M., Kawata T., Yamamoto R., Tsuka N., Koseki H., Ozaki N., Matsuda Y., Tanne K.: 2nd Joint Meeting of the Korean Association of Orthodontists and the Japanese Orthodontic Society (Seoul, South Korea), 2008.
  - 16: Application of skeletal anchorage system to the treatment of severe maxillary protrusion: Hasegawa T., Nishi-Sasaki A., Hirose N., Tanne K.: 2nd Joint Meeting of the Korean Association of Orthodontists and the Japanese Orthodontic Society (Seoul, South Korea), 2008.
  - 17: Enhancement of screw stability under varying twisting torques: Ohtani J., Sunagawa H., Sano R., Fujita T., Marquez Hernandez R., Tanne K.: 2nd Asian Micro Implant Anchorage Congress (Daegu, South Korea), 2008.
  - 18: Expression profiles of nuclear receptors and their functions in the growth plate: 尾崎徳継, 能城光秀, 本田清昌, 林原久美子, 河本健, 藤本勝巳, 丹根一夫, 加藤幸夫: 第21回軟骨代謝学会(京都), 2008.
  - 19: Trigeminal gap junctions: Potential involvement in pain induced by trigeminal nerve injury: 末川洋平, 渡邊峰朗, 高橋拓史, 伊藤剛志, 内田隆, 丹根一夫: 第50回歯科基礎医学学会(東京), 2008.
  - 20: リポポリサッカライド誘導歯周組織破壊に及ぼすリポソーム化ラクトフェリン経口投与の抑制効果(第3報) 骨芽細胞による破骨細胞形成に及ぼすラクトフェリンの抑制効果について: 山野栄三, 宮内睦美, 石角篤, 田中栄二, 水道裕久, 今中宏真, 牧野武利, 丹根一夫, 高田 隆: 第51回春季日本歯周病学会(大宮), 2008.
  - 21: 骨髄由来間葉系幹細胞を利用した骨、および縫合部再生誘導能の検討: 加来真人, 田井雅子, 本川雅英, 當麻愉衣子, 大谷淳二, 藤田正, 河田俊嗣, 加藤幸夫, 辻紘一郎, 坂井裕大, 丹根一夫: 第32回日本口蓋裂学会(広島), 2008.
  - 22: 広島大学病院矯正歯科において顎裂部への自家腸骨海綿骨移植を受けた口唇裂・口蓋裂患者の臨床統計的調査: 西美香, 當麻愉衣子, 筒井啓介, 加来真人, 河田俊嗣, 田中栄二, 宮本義洋, 林堂安貴, 岡本哲治, 丹根一夫: 第32回日本口蓋裂学会(広島), 2008.

- 23: 最近 10 年間の広島大学病院矯正歯科における口蓋裂患者の矯正歯科治療についての検討: マルチブラケット治療前の混合歯列期治療の調査: 渡辺元気, 堀畑篤史, 上田宏, 丹根一夫: 第 32 回日本口蓋裂学会 (広島), 2008.
- 24: Rigid external distraction (RED) system による上顎骨延長を行った口蓋裂の一治療例: 吉岡基子, 谷本幸太郎, 丹根由起, 神谷貴志, 丹根一夫: 第 32 回日本口蓋裂学会 (広島), 2008.
- 25: 仮骨延長術によって上顎部の後退を改善した片側性口唇裂・口蓋裂の 1 症例: 廣瀬尚人, 田中栄二, 長谷川拓郎, 鎌田伸之, 丹根一夫: 第 32 回日本口蓋裂学会 (広島), 2008.
- 26: 顎裂骨移植部に永久犬歯を開窓牽引した口唇裂・口蓋裂の二症例: 當麻愉衣子, 西美香, 山本浄子, 加来真人, 田井雅子, 河田俊嗣, 丹根一夫: 第 32 回日本口蓋裂学会 (広島), 2008.
- 27: 顎関節における潤滑蛋白 superficial zone protein の発現と調節機構について: 神谷貴志, 谷本幸太郎, 田中伸明, 丹根由起, 大熊暁, 国松 亮, 黄郁苓, 吉岡基子, 丹根一夫: 第 41 回広島大学歯学会 (広島)
- 28: 顎顔面領域における神経因性疼痛モデルと発生機序の解明: 高橋拓史, 渡邊峰朗, 末川洋平, 西美香, 伊藤剛志, 内田隆, 丹根一夫: 第 41 回広島大学歯学会 (広島), 2008.
- 29: 低出力超音波の歯根吸収抑制効果: 培養細胞レベルと動物実験モデルにおける検討: 犬伏俊博, Rego E.B., 宮内睦美, 高田隆, 丹根一夫: 第 41 回広島大学歯学会 (広島), 2008.
- 30: ジュネーブ大学歯科矯正学講座における研究報告: 藤田正: 第 41 回広島大学歯学会 (広島), 2008.
- 31: 脊椎側彎症と顎顔面形態および顎関節症との関連性について: 砂川紘子, 大谷淳二, 藤田正, 佐野良太, 丹根一夫: 第 18 回日本顎変形症学会 (名古屋), 2008.
- 32: 過去 5 年間に行った上下顎移動術施行症例についての実態調査: 伊藤剛志, 高明善, 渡辺元気, 中村彩花, 川合暢彦, 丹根一夫: 第 18 回日本顎変形症学会 (名古屋), 2008.
- 33: 小学児童の呼吸障害および睡眠障害に関する意識調査: 堀畑篤史, 渡辺元気, 上田宏: 第 33 回日本睡眠学会 (郡山), 2008.
- 34: 睡眠時無呼吸症の治療に対する新しい口腔内装置: 渡辺元気, 堀畑篤史, 上田宏: 第 33 回日本睡眠学会 (郡山), 2008.
- 35: 睡眠時無呼吸に対する口腔内装置使用患者における歯列圧力分布変化について—治療前後の歯列模型を用いた検討—: 上田宏, 渡辺元気, 堀畑篤史: 第 33 回日本睡眠学会 (郡山), 2008.
- 36: 低分子ヒアルロン酸による Runx2 発現抑制における Smad の関与: 丹根由起, 谷本幸太郎, 田中伸明, 神谷貴志, 丹根一夫: 第 21 回日本顎関節学会 (大阪), 2008.
- 37: 軟骨分化過程における hypoxia-inducible factor-1 標的遺伝子発現: 白倉麻耶, 谷本圭司, 田中栄二, 田中伸明, 谷本幸太郎, 丹根一夫: 第 21 回日本顎関節学会 (大阪), 2008.
- 38: 顎関節表層の SZP とリン脂質との相互作用: 神谷貴志, 谷本幸太郎, 田中伸明, 丹根由起, 田中栄二, 丹根一夫: 第 21 回日本顎関節学会 (大阪), 2008.
- 39: 下顎頭軟骨の動的剪断特性の異方性: 岩渕泰憲, 田中栄二, 川添亜希, 神谷貴志, 川合暢彦, 谷本幸太郎, 丹根一夫: 第 21 回日本顎関節学会 (大阪), 2008.
- 40: 骨強化補助食品の開発: 大谷淳二, 丹根一夫: 第 7 回国際バイオ EXPO (東京), 2008.
- 41: 上顎小臼歯先天欠損部に下顎小臼歯の移植を行った切端咬合の矯正歯科治療例: 川添亜希, 田中栄二, 河野信也, 丹根一夫: 第 51 回中・四国矯正歯科学会大会 (福山), 2008.

- 42: 上下顎移動術とオトガイ形成術を行った上下顎前突症例: 本川雅英, 山本浄子, 加来真人, 河田俊嗣, 柄なつみ, 笹本智子, 小跡弘幸, 丹根一夫: 第 51 回中・四国矯正歯科学会大会 (福山), 2008.
- 43: ミニスクリューを用いて治療した重度開咬症例: 加来真人, 小跡弘幸, 川添亜希, 柄なつみ, 笹本智子, 本川雅英, 當麻愉衣子, 大谷淳二, 藤田正, 河田俊嗣, 丹根一夫: 第 51 回中・四国矯正歯科学会大会 (福山), 2008.
- 44: 過去 40 年間に広島大学病院矯正歯科を受診した不正咬合患者の臨床調査: 中村彩花, 川合暢彦, 山野栄三, 犬伏俊博, 上田宏, 丹根一夫: 第 51 回中・四国矯正歯科学会大会 (福山), 2008.
- 45: 第三大臼歯の移植を行った下顎前突の一治験例: 笹本智子, 本川雅英, 加来真人, 河田俊嗣, 山本浄子, 柄なつみ, 丹根一夫: 第 51 回中・四国矯正歯科学会大会 (福山), 2008.
- 46: 凍結保存を行った移植歯の予後に関する検討: 加来真人, 二木由峰, 中西一, 河田俊嗣: 第 38 回日本口腔インプラント学会 (東京), 2008.
- 47: 凍結保存後に移植を行った歯根未完成歯の一治験例: 二木由峰, 小泉歩, 中西一, 浅賀寛, 加来真人, 河田俊嗣: 第 38 回日本口腔インプラント学会 (東京), 2008.
- 48: 上顎第二大臼歯先天欠如に対して凍結保存歯を用いて欠損補綴を行なった一治験例: 中西一, 二木由峰, 浅賀寛, 加来真人, 河田俊嗣: 第 38 回日本口腔インプラント学会 (東京), 2008.
- 49: 著明な骨新生がみられた凍結保存歯の移植症例: 井山禎之, 二木由峰, 中西一, 加来真人, 河田俊嗣: 第 38 回日本口腔インプラント学会 (東京), 2008.
- 50: 過度の力による実験的歯根吸収に対する低出力超音波の抑制効果: 犬伏俊博, Rego E.B., 田中栄二, 川添亜希, 宮内睦美, 高田隆, 丹根一夫: 第 67 回日本矯正歯科学会 (千葉), 2008.
- 51: 粉末飼料飼育ラットの終日咀嚼筋活動様相: 佐野良太, 川合暢彦, 中村彩花, 上田宏, 田中栄二, 丹根一夫: 第 67 回日本矯正歯科学会 (千葉), 2008.
- 52: 磁場を利用したマウス骨芽細胞の長期凍結保存法—骨組織の長期凍結保存を目指して—: 小跡弘幸, 加来真人, 河田俊嗣, 本川雅英, 柄なつみ, 藤田正, 當麻愉衣子, 大谷淳二, 砂川紘子, 丹根一夫: 第 67 回日本矯正歯科学会 (千葉), 2008.
- 53: VEGF-D の破骨細胞分化誘導能および受容体機能の解析: 柄なつみ, 本川雅英, 加来真人, 河田俊嗣, 藤田正, 當麻愉衣子, 大谷淳二, 小跡弘幸, 砂川紘子, Marquez Hernandez R., 丹根一夫: 第 67 回日本矯正歯科学会 (千葉), 2008.
- 54: bFGF を介した培養ヒト歯肉線維芽細胞の代謝に対する加齢の影響: 大熊 暁, 田中伸明, 谷本幸太郎, 丹根由起, 神谷貴志, 国松亮, 黄郁苓, 吉岡基子, 丹根一夫: 第 67 回日本矯正歯科学会 (千葉), 2008.
- 55: より安全で確実な矯正用インプラントの植立を目指して: 動物実験と臨床調査による検討: 大谷淳二, 砂川紘子, 藤田正, 河田俊嗣, 加来真人, 當麻愉衣子, 本川雅英, 柄なつみ, Marquez Hernandez R., 小跡弘幸, 佐野良太, 丹根一夫: 第 67 回日本矯正歯科学会 (千葉), 2008.
- 56: 骨髄由来未分化間葉系幹細胞を用いた骨再生による顎裂閉鎖治療: 吉岡基子, 谷本幸太郎, 田中伸明, 神谷貴志, 大熊暁, 国松亮, 杉山勝, 加藤幸夫, 丹根一夫: 第 67 回日本矯正歯科学会 (千葉), 2008.

- 57: ヒトセメント芽細胞の代謝に対するヒトリコンビナントアメロジェニンの影響: 国松 亮, 谷本幸太郎, 田中伸明, 丹根由起, 神谷貴志, 大熊暁, 黄郁芩, 吉岡基子, 丹根一夫: 第 67 回日本矯正歯科学会 (千葉), 2008.
- 58: 若年患者における FKO 使用の咽頭気道形態に対する効果: 堀畑篤史, 渡辺元気, 上田宏, 丹根一夫: 第 67 回日本矯正歯科学会 (千葉), 2008.
- 59: ラット軟骨での核内受容体 (甲状腺ホルモン受容体など) の発現における日内リズムとその意義: 尾崎徳継, 能城光秀, 谷本幸太郎, 丹根一夫, 加藤幸夫: 第 67 回日本矯正歯科学会 (千葉), 2008.
- 60: 矯正用インプラントの初期安定性: 組織学的検討: 砂川紘子, 大谷淳二, 藤田 正, 河田俊嗣, 加来真人, 當麻愉衣子, 本川雅英, 柄なつみ, Marquez Hernandez R., 小跡弘幸, 丹根一夫: 第 67 回日本矯正歯科学会 (千葉), 2008.
- 61: リポソーム化ラクトフェリン経口投与がリポポリサッカライド誘導歯周組織破壊に及ぼす抑制効果: 川添亜希, 山野栄三, 宮内睦美, 石角篤, 牧野武利, 丹根一夫, 高田隆: 第 47 回広島県歯科医学会, 第 92 回広島大学歯学会, 日本歯科技工学会中国・四国支部第 3 回学術大会 (広島), 2008.
- 62: 骨密度の改善を目的とした骨強化補助食品の開発: 大谷淳二, 石川郁子, 丹根一夫: 第 47 回広島県歯科医学会, 第 92 回広島大学歯学会, 日本歯科技工学会中国・四国支部第 3 回学術大会 (広島), 2008.
- 63: 歯の移植と上下顎移動術を行った著しい叢生と歯の欠損を伴う下顎前突の一治験例: 道田将彦, 田中伸明, 谷本幸太郎, 丹根一夫: 第 47 回広島県歯科医学会, 第 92 回広島大学歯学会, 日本歯科技工学会中国・四国支部第 3 回学術大会 (広島), 2008.
- 64: 64: 軟骨細胞における低酸素応答遺伝子発現変動: 白倉麻耶, 谷本圭司, 檜山桂子, 宮内睦美, 高田 隆, 田中栄二, 丹根一夫: 第 31 回日本分子生物学会年会 (神戸), 2008.

#### F) シンポジウムおよび依頼講演

- 1: Tanne K.: A significant role of orthodontic tooth alignment with tooth transplantation in the treatment of tooth defect: Symposium "Prosthodontics and Orthodontics", The 2nd Joint Meeting of the Korean Association of Orthodontists and the Japanese Orthodontic Society (Seoul, South Korea), 2008.
- 2: Tanne K.: Availability of micro-implant anchorage in clinical orthodontics: relevant factors key to higher success rate in implantation and the subsequent better treatment outcomes: Invite Lecture, The 2nd Asian Micro Implant Anchorage Congress (Daegu, South Korea), 2008.
- 3: 丹根一夫: 歯の移植の現状と将来展望: ティースバンク (歯の銀行) の有用性について: 第 50 回日本歯科基礎医学会, 市民公開講座 (東京), 2008.
- 4: 丹根一夫: 噛むことは日々実践できる脳トレ: 日頃から歯を大切にし、よく噛むことがボケの予防につながる!!: 広島県歯科医師会, 100 周年記念講演会 (広島), 2008.
- 5: 丹根一夫: 広島大学病院への転医・紹介症例から学ぶこと: 広島矯正歯科医会学術講演会 (広島), 2008.
- 6: 丹根一夫: 口腔と全身のコミュニケーション, そのプロフェッショナルアプローチ: 歯を大

- 切にし、よく噛むことが脳の活性化につながる：平成 20 年度広島大学歯学部高校生公開講座（広島）、2008.
- 7: 丹根一夫: お口の健康を守って生き生き健康ライフ, 身体の健康に対する歯科医療の大切さを見直そう: 自分の歯で食べ物をよく噛んで脳を鍛えよう: 広島大学歯学部公開講座(松山), 2008.
- 8: 谷本幸太郎: 未分化間葉系幹細胞の顎裂閉鎖治療への応用: 第 63 回幹細胞研究会（広島）, 2008.
- 9: 谷本幸太郎: 「顎関節症治療への低出力超音波の応用」研究開発について: 第 1 回産学官連携新産業創出研究会（広島）, 2008.
- 10: 谷本幸太郎: 「顎関節症治療への低出力超音波の応用」基礎的研究の成果と臨床応用への試み: 第 2 回産学官連携新産業創出研究会（広島）, 2008.
- 11: 谷本幸太郎: 未分化間葉系幹細胞の口唇裂・口蓋裂患者顎裂閉鎖治療への応用: 口腔から QOL 向上を目指す連携研究「再生工学」カテゴリー 第 4 回研究集会（広島）, 2008.
- 12: 上田宏: 睡眠時無呼吸症候群の症例と歯科衛生士の関わりを考える: 第 2 回歯科衛生室研修会（広島）, 2008.

#### （４）科学研究費補助金等の受領状況

- 1: 学部・附属学校共同研究「研究プロジェクト」: 丹根一夫, 近年の学童の鼻づまり, 呼吸様式と口元・顔貌との関連性. 64 千円.
- 2: 科学研究費補助金（基盤研究（B）（一般））: 丹根一夫, 外因刺激に対する下顎頭軟骨各層の応答と進行性下顎頭吸収の関わり. 課題番号 20390523. 7540 千円
- 3: 科学研究費補助金（基盤研究（B）（一般））: 谷本幸太郎, バイオミネラルリゼーションモデルを用いたエナメル質形成不全症（AI）発症機構の解明. 課題番号 20390522. 2600 千円
- 4: 科学研究費補助金（基盤研究（C）（一般））: 上田宏, 睡眠時無呼吸症候群における歯列への副作用の少ない口腔内装置の臨床応用. 課題番号 20592403. 3200 千円
- 5: 科学研究費補助金（萌芽研究）: 谷本幸太郎, 幹細胞移植による骨・軟骨再生と顎裂閉鎖治療への応用. 課題番号 19659540. 1900 千円
- 6: 科学研究費補助金（若手研究（B））: 藤田正, 顎関節症の発現に性ホルモンが及ぼす影響について. 課題番号 20791577. 1950 千円
- 7: 科学研究費補助金（若手研究（B））: 田中伸明, 歯周組織における加齢メカニズムの解明と抗加齢医療への試み. 課題番号 20791578. 2500 千円
- 8: 科学研究費補助金（若手研究（B））: 本川雅英, VEGF 受容体機能の解析および受容体中和抗体による骨吸収抑制効果の検討. 課題番号 20791576. 1600 千円
- 9: 科学研究費補助金（若手研究（B））: 加来真人, 破骨細胞分化誘導に対する血管内被細胞増殖因子受容体機能の解析. 課題番号 19791580. 1900 千円
- 10: 科学研究費補助金（若手研究（スタートアップ））: 大谷淳二, 顎顔面骨格の成長発育に及ぼす性ホルモンと成長因子の影響. 課題番号 19890139. 1755 千円
- 11: 科学研究費補助金（若手研究（スタートアップ））: 川合暢彦, 食物の物性により異なる咀嚼性刺激が顎骨および咀嚼筋の成長発育に及ぼす影響. 課題番号 19890138. 1729 千円

- 12: 広島大学病院臨床研究助成金: 丹根一夫, 顎顔面領域の骨治療促進ならびに歯周組織修復を目的とした低出力超音波の応用. 500 千円
- 13: 産学官連携新産業創出研究会: 谷本幸太郎, 顎関節症治療への低出力超音波の応用.1000 千円
- 14: 地域イノベーション創出総合支援事業 重点地域研究開発推進プログラム: 田中栄二, 低出力超音波の顎関節症治療への応用. 2000 千円

#### (5) 学会賞等の受賞状況

- 1: Kaku M.: Cryopreservation of PDL cells by use of program freezer with magnetic field for teeth banking: Poster award: 2nd Joint Meeting of the Korean Association of Orthodontists and the Japanese Orthodontic Society (Seoul, South Korea), 2008.
- 2: Watanabe G.: Influence of oral appliance for the treatment of obstructive sleep apnea on occlusal function: Poster award: 2nd Joint Meeting of the Korean Association of Orthodontists and the Japanese Orthodontic Society (Seoul, South Korea), 2008.
- 3: Kunimatsu R.: Modulation of the metabolism of periodontal ligament and gingival fibroblasts by amelogenin: Poster award: 2nd Joint Meeting of the Korean Association of Orthodontists and the Japanese Orthodontic Society (Seoul, South Korea), 2008.
- 4: 丹根一夫: 平成 20 年度広島大学長表彰, 2008.
- 5: 犬伏俊博: 低出力超音波の歯根吸収抑制効果: 培養細胞レベルと動物実験モデルにおける検討: 広島大学歯学会奨励賞: 第 41 回広島大学歯学会 (広島), 2008.
- 6: 犬伏俊博: 過度の力による実験的歯根吸収に対する低出力超音波の抑制効果: 優秀発表賞 (口演): 第 67 回日本矯正歯科学会 (千葉), 2008.
- 7: 吉岡基子: 骨髄由来未分化間葉系幹細胞を用いた骨再生による顎裂閉鎖治療: 優秀発表賞: 第 67 回日本矯正歯科学会 (千葉), 2008.
- 8: 神谷貴志: 広島大学エクセレント・スチューデント・スカラシップ, 2008.
- 9: 佐野良太: 広島大学エクセレント・スチューデント・スカラシップ, 2008.

#### (6) 特許

[目次へ戻る](#)

## 展開医科学専攻・顎口腔頸部医科学講座（小児歯科学研究室）及び口腔健康発育歯科（小児歯科）

### （１）職員並びに学生

教授	: 香西克之
准教授	: 鈴木淳司
助教	: 海原康孝（診療講師），林文子（診療講師），光畑智恵子 水野龍治郎（7月まで），吉村剛，角本法子（4月から）蔵本銘子（8月から）
診療医	: 角本法子（3月まで），蔵本銘子（4月から7月まで），三浦梢，有木美早 平田涼子（4月から），大谷聡子，三宅奈美
研修医	: 大原紫（3月まで）
大学院生	: 蔵本銘子（3月まで），坪井文，大原紫（4月から），胡軼群（10月から）
研究生	: 財賀かおり，番匠谷綾子，平田涼子（3月まで），平川美重
研修登録医	: 山城真美

### （２）主な研究活動

- 1: ミュータンス連鎖球菌の溶菌酵素に関する研究
- 2: 小児口腔細菌，特に黄色ブドウ球菌に関する研究
- 3: osteoblast の分化におけるプロスタグランジンの影響
- 4: osteoblast の分化における細胞間連絡の分子生物学的解析
- 5: 小児の歯周疾患における細胞学および疫学的研究
- 6: 口腔内超小型スキャナーの開発と臨床応用
- 7: 小児の心理学的ストレスの行動学的評価
- 8: 齲蝕原因菌の伝播の解明，抗齲蝕性物質の天然物質からの探求，低 pH 飲料の菌の脱灰能

### （３）研究業績

#### A) 原著（症例報告を含む）

- 1: 学校における食育指導 ―子どものより良い口腔育成のために― : 林文子，海原康孝，相澤光恵，大松恭宏，香西克之 : 広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要, 36, 279-286, 2008.
- 2: 小児病棟入院患児のう蝕罹患状態 : 鈴木淳司，吉村剛，大谷聡子，有木美早，三浦梢，角本法子，蔵本銘子，中岡美由紀，林文子，香西克之 : 障害者歯科, 29(2), 187-191, 2008.
- 3: 小児口腔より分離した黄褐色を呈するデンタルプラークの研究 : 吉村剛，鈴木淳司，中岡美由紀，坪井文，大谷聡子，大原紫，香西克之 : 小児歯誌, 46(4), 415-422, 2008.
- 4: 1歳児の口腔内状態および歯科相談の内容に関する調査 : 海原康孝，角本法子，番匠谷綾

子, 光畑智恵子, 財賀かおり, 鈴木淳司, 香西克之: 小児歯誌, 46(4), 455-462, 2008.

- 5: Remarkable factors related to preventing relapse of deciduous anterior crossbite.: Kaihara Y., Hayashi F., Miura K., Kozai K: Ped Dent J, 18(2), 116-123, 2008.
- 6: 日本小児歯科学会 平成 18・19 年度教育問題検討委員会, 香西克之, 鈴木淳司, 内川喜盛, 木本茂成, 田村康夫, 中島一郎, 小野俊朗, 有田憲司, 新谷誠康, 福本敏, 海原康孝, 林文子, 土屋友幸: 全国 29 歯科大学・大学歯学部における小児歯科学教育の実態: 小児歯誌, 46(5), 517-523, 2008.
- 7: Simultaneous interrelationship between the oral health behavior and oral health status of mothers and their children : Okada M., Kawamura M., Hayashi Y., Takase N., Kozai K. Journal of Oral Science, 50(4), 447-452, 2008.

## B) 総説

## C) 著書

- 1: 小児歯科学用語集: 香西克之ほか(分担執筆)(編: 日本小児歯科学会), 医歯薬出版, 2008.
- 2: う蝕学—チェアサイドの予防と回復のプログラム—: 香西克之(分担執筆), (編集: 田上順治, 花田信弘, 桃井保子), 永末書店, 28-45, 2008.
- 3: 唾液—歯と口腔の健康—原著第3版: 香西克之, 光畑智恵子(分担訳); 渡部茂(監訳), 医歯薬出版, 87-101, 2008.

## D) その他の出版物

- 1: 歯・口の健康づくりの総合的展開を目指して: 保育(所)園・幼稚園部会, 香西克之, 日本学校歯科医会誌, 平成 19 年度(2), 第 99 号, p40, 2008.
- 2: 食べ方が気になる乳幼児を支援するための手引き—歯科からの提言—(パンフレット), 香西克之(広島県歯科衛生連絡協議会地域歯科保健医療推進ワーキンググループ会議委員), 広島県歯科衛生連絡協議会, 2008.2.
- 3: 歯と口の外傷に対する応急処置と予防—子どものすこやかな成長を助けるために—, 香西克之(平成 20 年度 8020 運動推進事業口腔外傷対策事業検討委員会), 広島県歯科衛生連絡協議会, 2008.8.
- 4: 歯科医学教授要綱(平成 19(2007)年改訂), 香西克之(専門家委員会委員・臨床系歯科医学領域・小児歯科学分野), 編集: 歯科大学学長・歯学部長会議, 医歯薬出版, 161-166, 2008.

## E) 学会発表

- 1: 小児がん治療時に併発する口腔内症状と当科の口腔ケアシステム: 坪井 文, 鈴木淳司, 吉村剛, 中岡美由紀, 三浦梢, 林文子, 蔵本銘子, 光畑智恵子, 香西克之: 第 15 回日本

- 歯科医療福祉学会大会および総会（広島），2008.
- 2： 学校における食育指導—子どものより良い口腔育成のために—：林文子，海原康孝，鈴木淳司，香西克之：第46回日本小児歯科学会大会（埼玉），2008.
  - 3： 小児歯科における食育指導—食事指導調査票の作成—：海原康孝，林文子，角本法子，番匠谷綾子，鈴木淳司，香西克之：第46回日本小児歯科学会大会（埼玉），2008.
  - 4： 小児1型糖尿病キャンプ参加患児の口腔内状態について—3年間の経年的変化—：有木美早，林文子，中岡美由紀，三浦梢，坪井文，角本法子，鈴木淳司，香西克之：第46回日本小児歯科学会大会（埼玉），2008.
  - 5： 小児歯科における歯周病原性細菌検出試薬バナペリオの有用性の評価：中岡美由紀，光畑智恵子，林文子，鈴木淳司，香西克之：第46回日本小児歯科学会大会（埼玉），2008.
  - 6： 造血幹細胞移植患児の唾液と口腔粘膜に関する研究：坪井文，鈴木淳司，吉村剛，林文子，中岡美由紀，角本法子，蔵本銘子，三浦梢，大谷聡子，香西克之：第46回日本小児歯科学会大会（埼玉），2008.
  - 7： 低酸素脳症後の肢体不自由を伴う von willebrand 病患者の全身麻酔下による集中歯科治療の1例：蔵本銘子，角本法子，水野隆治郎，鈴木淳司，寶田貫，香西克之：第46回日本小児歯科学会および総会（埼玉），2008.
  - 8： 入院患児の口腔管理について—5年間の評価—：大谷聡子，吉村剛，坪井文，海原康孝，水野龍治郎，光畑智恵子，有木美早，三宅奈美，鈴木淳司，香西克之：第46回日本小児歯科学会および総会（埼玉），2008.
  - 9： PCR Assay for Quantitative Detection of Porphyromonas gingivalis in Children.: F. Hayashi, M. Okada, J. Suzuki, K. Kozai: The 86th General Session and Exhibition of the International Association for Dental Research1(Toronto), 2008.
  - 10： Novel role of lipopolysaccharide derived from Aggregatibacter actinomycetemcomitans in periodontitis: Kuramoto M, Suzuki J, Kozai K : The 86th General Session and Exhibition of the International Association for Dental Research1(Toronto), 2008.
  - 11： 唾液クルモグラニンAの小児期ストレス指標としての有用性について：光畑智恵子，鈴木淳司，香西克之：第23回日本歯科心身医学会総会・学術大会（東京），2008.
  - 12： 自閉症児自らが作製した絵カードを歯科治療に用いた一例：三浦梢，林文子，大谷聡子，坪井文，鈴木淳司，香西克之：第25回日本障害者歯科学会総会および学術大会（東京），2008.
  - 13： 乳歯および後継永久歯の受傷により，萌出方向の異常および口唇閉鎖不全を来した一例：三浦梢，海原康孝，鈴木淳司，香西克之：第8回日本外傷歯学会総会・学術大会（沖縄），2008.
  - 14： 当科において簡便な装置により大臼歯の咬合誘導を行った症例：吉村剛，海原康孝，林文子，香西克之：第27回日本小児歯科学会中四国地方会大会および総会（徳島），2008.
  - 15： 小児への KISO-Wet を用いた唾液量測定法の検討：大谷聡子，坪井文，角本法子，三浦梢，大原紫，中岡美由紀，鈴木淳司，香西克之：第27回日本小児歯科学会中四国地方会大会

および総会（徳島），2008.

- 16：当科を受診した患児における歯数異常の検討—永久歯を中心に—：大原紫，光畑智恵子，有木美早，平田涼子，大谷聡子，三宅奈美，鈴木淳司，香西克之：第27回日本小児歯科学会中四国地方会大会および総会（徳島），2008.

#### F) 特別講演

- 1：2007年度小児歯科学会専門医セミナー（ベーシックコース），小児歯科専門医の目指す歯周疾患対策，香西克之，広島大学広仁会館，2008.
- 2：広島臨床小児歯科研究会：小児歯科発！食育への提言，香西克之，広島県歯科医師国保会館，2008.
- 3：Mutans streptococcal transmission and caries prevention., Katsuyuki Kozai, Special Lecture at Maraya University, Kuala Lumpur, Malaysia, 2008.3.26
- 4：Mutans streptococcal transmission and caries prevention., Katsuyuki Kozai, at Airlangga University, Surabaya, Indonesia, 2008.
- 5：広島県 8020 運動推進協議会・口腔外傷研修会：子どもの歯のケガへの対応と予防 ～すこやかな成長を育む～，香西克之，広島県歯科医師会館，および福山市東部市民センター，2008.
- 6：平成20年度広島大学高校生公開講座：虫歯のできるメカニズムと予防方法，香西克之，歯学部第4講義室，2008.
- 7：「非協力児に対する行動コントロール」：鈴木淳司：歯科放射線学セミナー，広島大学，2008.
- 8：第8回日本子ども虐待防止学会広島大会歯科分科会シンポジウム：子ども虐待防止に歯科医療が貢献できること，香西克之，広島修道大学6号館，2008.
- 9：第72回全国学校歯科保健研究大会"中学校部会（基調講演），中学生の歯と口の未来～「生きる力」をつけるためにやるべきこと～"パシフィコ横浜，香西克之，2008.

#### （4）科学研究費補助金等の受領状況

- 1：科学研究費補助金（基盤研究（B））：香西克之：歯周病原性菌の小児口腔内への伝播機序の解明と成人性歯周炎予防対策への展開。（課題番号 19390530）． 2,200 千円
- 2：科学研究費補助金（基盤研究（C））：鈴木淳司：歯周病原性菌（A. a）の産生する未知のピルレンス因子。（課題番号 18592236）． 600 千円
- 3：科学研究費補助金（基盤研究（C））：光畑智恵子：内分泌攪乱物質が発達期の脳ドーパミン神経系に及ぼす影響。（課題番号 19592354）． 1,500 千円
- 4：科学研究費補助金（若手研究（B））：吉村剛：小児口腔のバイオフィルム解析によるオーダーメイド治療の確立。（課題番号 19791581）． 1,000 千円

- 5： 若手育成事業 霞キャンパス若手研究者／試験研究：吉村剛：齶蝕原因菌の簡易病原性評価システムと効果的予防法の研究・開発. 200 千円
- 6： 2008 年度 財団法人 富徳会研究助成金：角本法子, 300 千円
- 7： 広島大学学部・附属学校共同研究：学校における食事指導 : 子どものより良い口腔育成のために：林文子, 96 千円

#### (5) 学会賞等の受賞状況

- 1： 番匠谷綾子：平成 19 年度小児歯科学雑誌優秀論文賞

#### (6) 特許

[目次へ戻る](#)

## 口腔保健学科・口腔保健衛生学講座（社会歯科保健学分野）

### （1）職員並びに学生

教授：杉山勝

講師：野宗万喜

### （2）主な研究活動

- 1: 口腔病変の発生や特徴と、口腔微生物との関連についての研究
- 2: 学校歯科保健活動に関する研究

### （3）研究業績

#### A) 原著（症例報告を含む）

- 1: Loss of 14-3-3 sigma protein expression and presence of human papillomavirus types 16 E6 in oral squamous cell carcinoma: Bhawal U K, Sugiyama M, Nomura Y, Kuniyasu H, Tsukinoki K : Arch Otolaryngol Head Neck Surg 134, 1055-1059, 2008.
- 2: 口腔リラクセーションの健康増進に関する研究－唾液と sIgA の分泌量に及ぼす影響－: 松本厚枝, 原久美子, 天野秀昭, 野宗万喜, 杉山勝, 竹本俊伸: 日本歯科心身医学会雑誌 第 23 巻 1・2 号, 17-23, 2008.
- 3: 三次元光造形モデルの口腔外科臨床への応用: 太田耕司, 南正彦, 武知正晃, 瀧雅行, 宮内美和, 東川晃一郎, 二宮嘉昭, 島末洋, 小野重弘, 重石英生, 西裕美, 牧平清超, 玉本光弘, 下江幸司, 野宗万喜, 村山長, 里田隆博, 二川浩樹, 鎌田伸之: 広島大学歯学雑誌 40, 55-61, 2008.
- 4: インプラント治療に新規連通多孔体ハイドロキシアパタイト人工骨 NEOBONE を使用した 1 例: 宮内美和, 杉山勝, 西村正宏, 島末洋, 重石英生, 平岡美里, 武知正晃, 岡本哲治, 赤川安正, 鎌田伸之: 広島大学歯学雑誌 第 40 巻 1 号, 62-65, 2008.

#### B) 総説

#### C) 著書

#### D) その他の出版物

- 1: CAD/CAM とラピッドプロトタイプングの歯科医療への応用, 精密工学会総合生産システム専門委員会 2007 年度活動報告書: 村山長, 江口透, 玉本光弘, 下江幸司, 牧平清超, 里田隆博, 二川浩樹, 仁井谷善恵, 野宗万喜, 松本厚枝, 原久美子, 竹本俊伸, 杉山勝,

天野秀昭, 2008

## E) 学会発表

- 1: 口腔扁平上皮癌 (OSCC) におけるCdc25Aの過剰発現とヒトパピローマウイルス (HPV) ー16型の発現との相関について: 杉山勝, 宮内美和, 東川晃一郎, 重石英生, 三谷佳嗣, 鎌田伸之: 第62回 NPO法人 日本口腔科学会学術集会 (福岡), 2008.
- 2: 広島大学歯学部口腔保健学科における口腔外科的教育について: 杉山勝, 小泉浩一, 太田耕司, 岡本哲治, 鎌田伸之: 第37回 (社) 日本口腔外科学会中・四国地方会 (倉敷), 2008.
- 3: 口腔リラクセーショントレーニングによる唾液分泌型免疫グロブリンAの変動: 松本厚枝, 仁井谷善恵, 原久美子, 杉山勝, 天野秀昭, 竹本俊伸: 第19回日本口腔衛生学会近畿・中国・四国地方会 (徳島), 2008.
- 4: 歯科医療現場での感染管理者を目指した歯科衛生士教育ー広島大学歯学部口腔保健学科口腔保健衛生学専攻でのカリキュラムー: 竹本俊伸, 杉山勝: 第17回日本口腔感染症学会総会 (神戸), 2008.
- 5: 下顎枝矢状分割術のスクリー, プレート固定におけるコントラアングルドライバースステムの応用: 太田耕司, 小野重弘, 瀧雅行, 水田邦子, 二宮嘉昭, 東森秀年, 宮内美和, 武知正晃, 柄なつみ, 田中栄二, 丹根一夫, 杉山勝, 鎌田伸之: 第18回日本顎変形症学会(名古屋), 2008.
- 6: プロバイオティクスによるカリエスリスクの減少: 二川浩樹, 牧平清超, 三村純代, 檜山あや, 野宗万喜: Bacterial Adherence & Biofilm 第22回学術集会 (淡路): 2008.
- 7: 口腔保健学科 (口腔健康科学分野) の卒前教育における「歯科臨床教育学」のカリキュラムデザイン: 竹本俊伸, 小川哲次, 影山幾男, 田口典宏, 仁井谷善恵, 松本厚枝, 原久美子, 野宗万喜, 杉山勝, 天野秀昭, 里田隆博: 第27回日本歯科医学教育学会 (東京), 2008.
- 8: 広島大学歯学部における課外活動 (バイオテクノロジークラブ: バイテック) を通じた研究能力の養成について: 峯裕一, 二川浩樹, 牧平清超, 下江宰司, 玉本光弘, 里田隆博, 村山長, 天野秀昭, 竹本俊伸, 杉山勝, 原久美子, 松本厚枝, 野宗万喜, 仁井谷善恵: 第27回日本歯科医学教育学会 (東京), 2008.
- 9: かぶきれいのリハビリメイク実習を通じて学んだこと: 檜山あや, 二川浩樹, 牧平清超, 下江宰司, 玉本光弘, 里田隆博, 村山長, 杉山勝, 原久美子, 野宗万喜: 第27回日本歯科医学教育学会 (東京), 2008.
- 10: マルチメディアを用いた患者対応の学習ーロールプレイ実習動画の自己チェックによる効果ー: 竹本俊伸, 仁井谷善恵, 松本厚枝, 原久美子, 野宗万喜, 杉山勝, 天野秀昭, 下江宰司, 玉本光弘, 村山長, 二川浩樹: 第27回日本歯科医学教育学会 (東京), 2008.
- 11: 口腔乾燥者に対する唾液腺マッサージの効果判定に関する検査方法の一考察: 原久美子, 仁井谷善恵, 野宗万喜, 松本厚枝, 牧平清超, 二川浩樹, 竹本俊伸, 杉山勝, 天野秀昭, 北川雅恵, 小川郁子, 栗原英見: 第1回日本口腔検査学会 (東京), 2008.

## (4) 科学研究費補助金等の受領状況

(5) 学会賞等の受賞状況

(6) 特許

[目次へ戻る](#)

## 口腔保健学科・口腔保健衛生学講座

### (チーム歯科医療学分野)

#### (1) 職員並びに学生

教授 : 天野秀昭

講師 : 原久美子

#### (2) 主な研究活動

- 1: 小児の顎・顔面の成長発育に関する研究
- 2: 小児および障害児(者)の歯科医療に関する研究
- 3: 学校歯科保健に関する研究
- 4: 唾液腺機能賦活に関する研究
- 5: 口腔ケアに関する研究
- 6: 口腔保健教育に関する研究
- 7: 食育に関する研究
- 8: 歯科衛生士リカレント教育に関する研究

#### (3) 研究業績

##### A) 原著 (症例報告を含む)

- 1: 食事の楽しさと唾液の性質の解析から食育指導を目指して:柴芳樹, 岩佐佳子, 原久美子, 樽本和子, 保田利恵: 学部・附属学校共同研究紀要,36,275-278, 2008.
- 2: 唾液腺マッサージによる唾液腺機能賦活に関する研究: 原久美子: 広島大学歯学雑誌, 40(1),10-29, 2008..

##### B) 総説

- 1: CAD/CMAとラピッドプロトタイピングの歯科医療への応用:村山長, 江口透, 玉本光弘, 下江幸司, 牧平清超, 里田隆博, 二川浩樹, 仁井谷善恵, 野宗万喜, 松本厚枝, 原久美子, 竹本俊伸, 杉山勝, 天野秀昭: 精密工学会総合生産システム専門委員会 2007 年度活動報告書, 22-31, 2008.

##### C) 著書

- 1: 口腔ケア 基礎知識—口腔ケア4級、5級認定資格基準準拠— (編集 日本口腔ケア学

会)：原久美子：永末書店（東京），98-100，2008.

#### D) その他の出版物

- 1: 第2回学術大会自由集会まとめ：原久美子：日本歯科衛生学会雑誌 2 (2)，84-85，2008.2.
- 2: 「歯と口の健康管理室」での臨床実習：原久美子：デンタルハイジーン 28(6)，568-569  
2008.6
- 3: 「日本歯科衛生学会第3回学術大会 自由集会」：日衛だより 187号，3-4，2008. 12

#### E) 学会発表

- 1: 良き「教育者」をめざした卒前教育－「歯科臨床教育学」の口腔保健学科カリキュラムへの導入：竹本俊伸，小川哲次，田口則宏，仁井谷善恵，松本厚枝，原久美子，野宗万喜，杉山勝，天野秀昭，田口香織，下江宰司，牧平清超，玉本光弘，村山長，里田隆博，二川浩樹：第41回歯学会例会，2008.6.15
- 2: ビデオを用いた患者接遇教育－学生による自己チェックの効果：竹本俊伸，仁井谷善恵，松本厚枝，原久美子，野宗万喜，杉山勝，天野秀昭，田口香織，下江宰司，牧平清超，玉本光弘，村山長，里田隆博，二川浩樹：第41回歯学会例会，2008.6.15
- 3: 介護予防における口腔機能向上サービスのための客観的評価方法の検討：相見礼子・宮川久美・仁井谷善恵・松本厚枝・原久美子・丸山真理子・岡田源太郎・河村崇久・吉田光由・津賀一弘・天野秀昭：第19回日本老年歯科医学会（岡山），2008.6.18-21.
- 4: 継続的な唾液腺マッサージにより口腔乾燥が改善した一症例：原久美子・松本厚枝・天野秀昭：第15回日本歯科医療福祉学会大会（広島），2008.6.29
- 5: 口腔ケア実践セミナーにおける口腔清掃技術実習の効果についての検討：鹿田碧，丸山たかね，原久美子：第16回広島口腔ケア研究会（広島），2008.6.29
- 6: 口腔リラクセーショントレーニングによる唾液分泌型免疫グロブリンAの変動：松本厚枝・仁井谷善恵・原久美子・杉山勝・天野秀昭・竹本俊伸：口腔衛生学会近畿・中国・四国地方会（徳島），2008.6.22
- 7: マルチメディアを用いた患者対応学習－撮影した模擬実習映像の自己チェックによる効果：竹本俊伸・仁井谷善恵・松本厚枝・原久美子・野宗万喜・杉山勝・天野秀昭・玉本光弘・村山長・里田隆博・二川浩樹：第27回日本歯科医学教育学会 総会および学術大会（東京），2008.7.11-12.
- 8: 口腔保健学科（口腔健康科学分野）の卒前教育における「歯科臨床教育学」のカリキュラムデザイン：竹本俊伸・小川哲次・影山幾男・田口則宏・仁井谷善恵・松本厚枝・原久美子・野宗万喜・杉山勝・天野秀昭・玉本光弘・二川浩樹：第27回日本歯科医学教育学会 総会および学術大会（東京），2008.7.11-12.
- 9: 口腔乾燥者に対する唾液腺マッサージの効果判定に関する検査方法の一考察：原久美子，仁井谷善恵，野宗万喜，松本厚枝，牧平清超，二川浩樹，竹本俊伸，杉山勝，天野秀昭，北川雅恵，小川郁子，栗原英見：第1回日本口腔検査学会総会・学術大会(1st General Session and Exhibition of Japanese Society for Evidence and the Dental Professional)（東京），2008.8.22

- 10: ラットにおける自作電動歯肉マッサージ器の有用性についての検討：松本厚枝・仁井谷善恵・原久美子・天野秀昭・杉山勝・竹本俊伸：第3回日本歯科衛生学会（神奈川），2008.9.6.
- 11: 不安や精神的緊張のある患者に行った歯周治療：近藤裕美，有田一喜，原久美子：第51回秋季日本歯周病学会学術大会（三重），2008.10.19.
- 12: 口腔清掃技術向上における講義および実習の効果についての検討：鹿田碧，田村裕子，丸山たかね，原久美子：「第47回広島県歯科医学会」併催「第92回広島大学歯学会」（広島），2008.10.19.
- 13: ヒト咀嚼嚥下機能の解明：柴芳樹，廣野力，杉田誠，岩佐佳子，井上麻知子，丸山たかね，原久美子，新田栄治：「咀嚼・嚥下」研究発表会（カテゴリー：摂食・嚥下）（徳島），2008.11.29.
- 14: 唾液腺マッサージによる口腔機能リハビリテーション：原久美子，天野秀昭，柴芳樹，廣野力，杉田誠，岩佐佳子，井上麻知子，丸山たかね：「咀嚼・嚥下」研究発表会（カテゴリー：リハビリテーション法）（徳島），2008.11.29.

#### F) 講演

- 1: 原久美子：「第16回口腔ケア研究会ひろしま 口腔ケア技術紹介」，口腔ケア研究会ひろしま，（広島），2008.6.29.
- 2: 原久美子：「看護部口腔ケア研修会」，医療法人社団更生会草津病院（広島），2008.9.16.
- 3: 原久美子：「広島県精神病院栄養士研修会」，広島県精神病院研修会（広島），2008.11.20
- 4: 原久美子：「口腔ケア研究会ひろしま第9期口腔ケア実践セミナー 口腔を清潔にする技術－基礎編－」，口腔ケア研究会ひろしま，（広島），2008.11.29.
- 5: 原久美子：「口腔ケア研究会ひろしま第9期口腔ケア実践セミナー 口腔を清潔にする技術－応用編－」，口腔ケア研究会ひろしま，（広島），2008.11.29.

#### G) 座長

- 1: 第3回日本歯科衛生学会（神奈川）2008.9.6-7.

#### H) 社会貢献

- 1: 小学生のためのデンタルキッドプロジェクト「歯医者さんになろう！」：二川浩樹，天野秀昭，里田隆博，竹本俊伸，村山長，杉山勝，玉本光弘，原久美子，下江宰司，藤本比登美，松本厚枝，仁井谷喜恵，小川郁子，小原勝，牧平清超，末井良和，高田隆，菅井基行，岡本哲治，栗原英見：広島大学公開講座（広島），2008.
- 2: 平成20年度広島大学高校生公開講座：広島大学（広島），2008.7.
- 3: 通所介護事業所光清苑における口腔機能向上プログラム評価に協力（2008.2月.5月.8月.11月）

#### （4）科学研究費補助金等の受領状況

1: 平成 20 年度科学研究費補助金 (基盤 C 一般): 原久美子: 唾液腺マッサージの有効性を探る研究. (課題番号 19592405). 3590 千円.

#### (5) 学会賞等の受賞状況

#### (6) 特許

#### (7) 教育業績

##### A) 活動

1: 歯科衛生士リカレント研修会 (2008.1.~2008.12.)

##### B) 受講

1: (社) 日本歯科衛生士会認定研修「生活習慣病予防コース (特定保健指導)」: 認定登録第 0901143 号, 2008.2.25.

#### (8) 委員

1: 天野秀昭: 日本歯科医療福祉学会評議員 (2005.4~)

2: 天野秀昭: 広島県歯科衛生協議会学校歯科保健部門委員 (2003.4~)

3: 原久美子: 日本歯科衛生学会委員 (社団法人日本歯科衛生士会) (2006.4~)

4: 原久美子: 日本歯科医療福祉学会評議員 (2008.1.1~)

5: 原久美子: 日本口腔ケア学会評議員 (2004.4~)

6: 原久美子: 口腔ケア研究会ひろしま副代表 (1993.9~)

7: 原久美子: 全国歯科衛生士教育協議会教育委員 (2008.4~2009.3)

[目次へ戻る](#)

## 口腔保健学科・口腔保健衛生学講座（口腔保健管理学分野）

### （１）職員並びに学生

教授          : 竹本俊伸  
講師          : 松本厚枝  
助教          : 仁井谷善恵

### （２）主な研究活動

- 1:  歯科衛生士教育に関する研究
- 2:  口臭に関する研究
- 3:  歯肉の健康に関する研究
- 4:  口腔リラクゼーション法に関する研究
- 5:  唾液流出量と情動に関する研究
- 6:  カウンセリング教育に関する研究
- 7:  歯科医療における感染予防対策に関する研究
- 8:  男性歯科衛生士に関する研究

### （３）研究業績

#### A) 原著（症例報告を含む）

- 1:  歯肉マッサージにおける自作電動歯肉マッサージ器の有用性についての評価 第1報 歯血流量の変動について：松本厚枝，日本歯科衛生学会雑誌， 3(1)， 35-40， 2008
- 2:  歯肉マッサージにおける自作電動歯肉マッサージ器の有用性についての評価 第2報 ラットの歯肉炎に対する効用について：松本厚枝，日本歯科衛生学会雑誌，3(1)， 41-46， 2008.
- 3:  口腔リラクゼーションの健康増進に関する研究-唾液と sIgA の分泌量に及ぼす影響-：松本厚枝，原久美子，天野秀昭，野宗万喜，杉山勝，竹本俊伸：日本歯科心身医学会雑誌 23(1)， 17-23， 2008.

#### B) 総説

#### C) 著書

#### D) その他の出版物

- 1:  CAD/CAM とラピッドプロトタイピングの歯科医療への応用：村山長，江口透，玉本光弘，下江宰司，牧平清超，里田隆博，二川浩樹，仁井谷善恵，野宗万喜，松本厚枝，原 久美

子, 竹本俊伸, 杉山勝, 天野秀昭, 精密工学会総合生産システム専門委員会 2007 年度活動報告, 2008.

## E) 学会発表

- 1: ビデオを用いた患者接遇教育—学生による自己チェックの効果: 竹本俊伸, 仁井谷善恵, 松本厚枝, 原久美子, 野宗万喜, 杉山勝, 天野秀昭, 田口香織, 下江幸司, 牧平清超, 玉本光弘, 村山長, 里田隆博, 二川浩樹, 第41回広島大学歯学会総会 (広島), 2008.
- 2: 良き「教育者」をめざした卒前教育—「歯科臨床教育学」の口腔保健学科カリキュラムへの導入: 竹本俊伸, 小川哲次, 田口則宏, 仁井谷善恵, 松本厚枝, 原久美子, 野宗万喜, 杉山勝, 天野秀昭, 下江幸司, 牧平清超, 玉本光弘, 村山長, 里田隆博, 二川浩樹, 第41回広島大学歯学会総会 (広島), 2008.
- 3: マルチメディアを用いた患者対応の学習—ロールプレイ実習動画の自己チェックによる効果: 竹本俊伸, 仁井谷善恵, 松本厚枝, 原久美子, 野宗万喜, 杉山勝, 天野秀昭, 下江幸司, 玉本光弘, 村山長, 二川浩樹: 第 27 回日本歯科医学教育学会 (東京), 2008.
- 4: 口腔保健学科 (口腔健康科学分野) の卒前教育における「歯科臨床教育学」のカリキュラムデザイン: 竹本俊伸, 小川哲次, 影山幾男, 田口典宏, 仁井谷善恵, 松本厚枝, 原久美子, 野宗万喜, 杉山勝, 天野秀昭, 里田隆博: 第 27 回日本歯科医学教育学会 (東京), 2008.
- 5: 口腔リラクゼーショントレーニングによる唾液分泌型免疫グロブリン A の変動: 松本厚枝, 仁井谷善恵, 原久美子, 杉山勝, 天野秀昭, 竹本俊伸: 第 19 回日本口腔衛生学会近畿・中国・四国地方会 (徳島), 2008.
- 6: 歯科医療現場での感染管理者を目指した歯科衛生士教育—広島大学歯学部口腔保健学科口腔保健衛生学専攻でのカリキュラム—: 竹本俊伸, 杉山勝: 第 17 回日本口腔感染症学会総会 (神戸), 2008.
- 7: 広島大学歯学部における課外活動 (バイオテクノロジークラブ: バイテック) を通した研究能力の養成について: 峯裕一, 二川浩樹, 牧平清超, 下江幸司, 玉本光弘, 里田隆博, 村山長, 天野秀昭, 竹本俊伸, 杉山勝, 原久美子, 松本厚枝, 野宗万喜, 仁井谷善恵: 第 27 回日本歯科医学教育学会 (東京), 2008.
- 8: 口腔乾燥者に対する唾液腺マッサージの効果判定に関する検査方法の一考察: 原久美子, 仁井谷善恵, 野宗万喜, 松本厚枝, 牧平清超, 二川浩樹, 竹本俊伸, 杉山勝, 天野秀昭, 北川雅恵, 小川郁子, 栗原英見: 第 1 回日本口腔検査学会 (東京), 2008.
- 9: 男性歯科衛生士に対する認識についての研究—広島県内の歯科医院院長に対する調査結果: 今利直也, 竹本俊伸: 第 47 回広島県歯科医学会, 第 92 回広島大学歯学会 (広島), 2008.
- 10: ラットにおける自作電動歯肉マッサージ器の有用性についての検討: 松本厚枝, 仁井谷善恵, 原久美子, 天野秀昭, 杉山勝, 竹本俊伸, 日本歯科衛生学会 第 3 回学術大会 (横浜), 2008.
- 11: 介護予防における口腔機能サービスのための客観的評価方法の検討: 相見礼子, 宮川久美, 田村裕子, 仁井谷善恵, 松本厚枝, 原久美子, 丸山真理子, 岡田源太郎, 河村崇久, 林亮, 津賀一弘, 吉田光由, 天野秀昭, 赤川安正: 第 19 回日本老年歯科医学会総会・学術大会

(岡山)、2008.

- 12: 継続的な唾液腺マッサージにより口腔乾燥が改善した一症例：原久美子，松本厚枝，天野秀昭，歯科医療福祉学会（広島）， 2008.
- 13: かづきれいこの血流マッサージの定量化：木原琢也，二川浩樹，牧平清超，下江宰司，玉本光弘，里田隆博，村山長，松本厚枝，仁井谷善恵，かづきれいこ，第 27 回日本歯科医学教育学会（東京）， 2008.

#### F) 講演など

- 1: 口腔に関する講話と集団歯磨き指導：松本厚枝：「保育所地域活動事業の一環である育児講座」社会福祉法人微妙福祉会 段原みみょう保育園（広島）， 2008.
- 2: 口腔に関する講話と集団歯磨き指導：松本厚枝：「保育所地域活動事業の一環である育児講座」社会福祉法人微妙福祉会 みみょう保育園（広島）， 2008.
- 3: 広島大学口腔保健衛生学専攻生に対する口腔外科関連教育について：松本厚枝：第 53 回（社）日本口腔外科学会総会・学術大会「歯科衛生士研究会」シンポジウム（徳島）， 2008.
- 4: 広島大学口腔保健衛生学専攻生の入学から希望進路：松本厚枝，広島県歯科衛生士教育研究会（広島）， 2008.
- 5: ヨーロッパにおける口腔保健医療従事者教育：竹本俊伸：広島県歯科衛生士教育研究会（広島）， 2008.
- 6: 妊産婦と赤ちゃんの口腔ケア：松本厚枝：広島大学病院 産婦人科外来 妊産婦教室 第 1 回～第 10 回（広島） 2008.

#### G) 社会貢献

- 1: デンタルキッドプロジェクト「歯医者さんになろう！」：広島大学歯学部（広島）， 2008.
- 2: 平成 19 年度広島大学高校生公開講座：広島大学（広島）， 2008.
- 3: 口腔機能評価の協力：原久美子，松本厚枝，仁井谷善恵：通所介護事業所 光清苑（広島）， 2008.
- 4: 新生涯研修制度検討プロジェクトチーム委員会（第 4 回～5 回）：松本厚枝：日本歯科衛生士会（東京） 2008.
- 5: 歯科衛生士試験委員会委員：松本厚枝：財団法人歯科医療研修振興財団（東京） 2008.
- 6: 日本口腔衛生学会近畿・中国・四国地方会幹事：松本厚枝：日本口腔衛生学会近畿・中国・四国地方会幹事会（大阪） 2008.
- 7: 国立大学附属病院感染対策協議会会員：仁井谷善恵：国立大学附属病院感染対策協議会（神戸） 2008.
- 8: 日本歯科衛生学会 第 3 回学術大会 ポスター発表 座長（横浜）：松本厚枝， 2008.
- 9: 認定歯科衛生士委員会（第 1 回～4 回）：松本厚枝：日本歯科衛生士会（東京） 2008.
- 10: 関西福祉科大学・関西女子短期大学合同教育懇談会（岡山）：松本厚枝， 2008.

#### (4) 科学研究費補助金等の受領状況

(5) 学会賞等の受賞状況

(6) 特許

[目次へ戻る](#)

## 口腔保健学科・口腔保健工学講座（基礎口腔科学分野）

### （１）職員並びに学生

教授           ：里田隆博  
講師           ：下江宰司

### （２）主な研究活動

- 1: 解剖学教育用模型の開発
- 2: 咀嚼運動を制御する脳内ニューロンの形態学的研究
- 3: 前装材料と歯科用金属の接着に関する研究
- 4: 義歯刻印法に関する研究
- 5: 審美歯科複合材料に関する研究

### （３）研究業績

#### A) 原著（症例報告を含む）

- 1: Influence of Endopeduncular nucleus stimulation upon Electromiogram Activity of Masticatory Muscles, K.Tanaka, N. Anamo, T. Satoda, T. Murata, S. Kawagishi, K. Yoshino, N. Mizuno: Neuroscience 155, 969-983, 2008.
- 2: 嚥下機能模型の製作, 里田隆博, 下江宰司, 牧平清超, 玉本光弘, 村山長, 二川浩樹 解剖誌, 83, 51-57, 2008

#### B) 総説

#### C) 著書

- 1: 新歯科技工士教本「歯科技工実習」: 金井正行, 桑田正博, 下江宰司, 前田芳信, 松村英雄, 三浦宏之他, 医歯薬出版, 東京, 2008.

#### D) その他の出版物

- 1: 高校生物教育における機能的解剖模型の取り入れ（２）: 里田隆博, 下江宰司, 藤本比登美, 白神聖也, 井上純一, 横山道昭: 広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要, 36, 405-408, 2008.

#### E) 学会発表

- 1: 嚥下機能模型の製作, 里田隆博, 下江宰司, 牧平清超, 玉本光弘, 村山長, 二川浩樹 第113回日本解剖学会・全国学術集会 (大分) 2008.
- 2: 口腔周辺の顔面表情筋機能模型の製作, 藤本佳那, 伊藤章子, 草野顕太, 荒木結子, 下江宰司, 牧平清超, 玉本光弘, 村山長, 二川浩樹, 里田隆博 第92回広島大学歯学会例会, (広島), 2008.
- 3: 舌機能模型の製作, 伊藤章子, 藤本佳那, 草野顕太, 荒木結子, 下江宰司, 牧平清超, 玉本光弘, 村山長, 二川浩樹, 里田隆博 第92回広島大学歯学会例会, (広島) 2008.
- 4: 口腔周辺の顔面表情筋機能模型の製作, 里田隆博, 藤本佳那, 伊藤章子, 草野健太, 荒木結子, 下江宰司, 日本解剖学会第63回中国・四国支部学術集会, (出雲) 2008.
- 5: ジルコニアと前装用コンポジットレジンの接着における表面処理の有効性: 草野顕太, 下江宰司, 里田隆博, 村山長, 二川浩樹, 田上直美, 松村英雄: 第4回国際歯科技工学術大会・第30回日本歯科技工学会学術大会 (大阪), 2008.
- 6: 前装用コンポジットレジンのジルコニアフレーム材に対する接着特性: 荒木結子, 下江宰司, 里田隆博, 村山長, 二川浩樹, 田上直美, 松村英雄: 第4回国際歯科技工学術大会・第30回日本歯科技工学会学術大会 (大阪), 2008.
- 7: アナプラストロジスト養成教育の導入-耳介矯正装具製作実習-: 高橋愛里, 下江宰司, 森下裕司, 永見美鈴, 村山長, 里田隆博, 二川浩樹: 第4回国際歯科技工学術大会・第30回日本歯科技工学会学術大会 (大阪), 2008.

(4) 科学研究費補助金等の受領状況

(5) 学会賞等の受賞状況

(6) 特許

[目次へ戻る](#)

## 口腔保健学科・口腔保健工学講座（生体材料工学分野）

### （１）職員並びに学生

教授：村山 長

准教授：玉本光弘

卒研生：宮本梢，三吉愛，木原琢也，真辺浩典，柳橋萌，立畠一樹，矢内啓太，藤田紗季江，  
工裕大，友成奈悟，川上真奈，岩畔将吾，兼石晴美

### （２）主な研究活動

- 1: CAD/CAM, ラピッドプロトタイピングの歯科医療への応用
- 2: コンカレントエンジニアリングを適用した修復物の設計・製作
- 3: 歯科医療のための3Dモデリングとコンピュータ・シミュレーション
- 4: 治療用・保護用口腔装具の開発と臨床応用
- 5: 審美歯科に関する研究
- 6: 歯科医学教育に関する研究
- 7: 有床義歯のウェアラブルセンサー化による健康管理システム
- 8: センサーを用いた歯科技工作業の技能分析
- 9: シミュレーションによる歯科技工プロセスの分析
- 10: スポーツ歯科（マウスガード）に関する研究
- 11: 音楽歯科（アダプター）に関する研究

### （３）研究業績

#### A) 原著（症例報告を含む）

- 1: BI-CRITERIA DYNAMIC JOB SHOP SCHEDULING TO MEET DUE-DATES AND MINIMIZE SETUP TIME : Toru Eguchi, Hiroaki Kawai, Takeshi Murayama, Fuminori Oba : Proceedings of 2008 ISFA (2008 International Symposium on Flexible Automation), JS010, 1-4, 2008.
- 2: 嚥下機能模型の製作：里田隆博，下江宰司，牧平清超，玉本光弘，村山長，二川浩樹：解剖誌，83, 51-57, 2008.
- 3: 三次元光造形モデルの口腔外科臨床への応用：太田耕司，南正彦，武知正晃，瀧雅行，宮内美和，東川晃一郎，二宮嘉昭，島末洋，小野重弘，重石英生，西裕美，牧平清超，玉本光弘，下江宰司，野宗万喜，村山長，里田隆博，二川浩樹，鎌田伸之：広大歯誌，40, 50-61, 2008.
- 4: Chewing Gum Containing Citric Acid Reduces the Burden of Periodontal pathogens : Hiroki Nikawa, Sachiyo Igarashi, Osamu Takasu, Hideaki Tataka, Fumio Harano, Shigeo Shinohara, Seicho Makihira, Toshinobu Takemoto, Takeshi Murayama, Takahiro Satoda, Hideaki Amano, Hidemi Kurihara : The Open Food Science Journal, 2, 29-37, 2008.

## B) 総説

## C) 著書

- 1: 『メタルフリー修復：オールセラミッククラウン・ブリッジ』；接着 ここが知りたい ― 歯科技工士編―（日本接着歯学会編）：玉本光弘，下江宰司：(財)口腔保健協会（東京），73-82, 2008.

## D) その他の出版物

- 1: CAD/CAM とラピッドプロトタイプングの歯科医療への応用：村山長，江口透，玉本光弘，下江宰司，牧平清超，里田隆博，二川浩樹，仁井谷善恵，野宗万喜，松本厚枝，原久美子，竹本俊伸，杉山勝，天野秀昭：精密工学会総合生産システム専門委員会 2007 年度活動報告書, 22-31, 2008.
- 2: コンピュータを利用した製造技術の医療への応用：村山長：医工学の新展開―生体適合材料と福祉・介護システムの開発（第6回医工学研究センターシンポジウム要旨集），11-18, 2008.
- 3: 能力調整を考慮したジョブショップスケジューリング：江口透，與田光伸，村山長，大場史憲：精密工学会総合生産システム専門委員会 2007 年度活動報告書, 32-37, 2008.

## E) 学会発表

- 1: CAD/CAM のための支台歯評価システムの開発：宮本梢，村山長，玉本光弘，下江宰司，牧平清超，里田隆博，二川浩樹：第4回国際歯科技工学会大会（第30回日本歯科技工学会学術大会）（大阪），2008.
- 2: Ethylene Vinyl Acetate (EVA) マウスガードシート材に対する研磨法の評価：真辺浩典，玉本光弘，村山長，下江宰司，牧平清超，里田隆博，二川浩樹：第4回国際歯科技工学会大会（第30回日本歯科技工学会学術大会）（大阪），2008.
- 3: 血流マッサージの定量的評価：木原琢也，二川浩樹，牧平清超，下江宰司，玉本光弘，里田隆博，村山長，かづきれいこ：第4回国際歯科技工学会大会（第30回日本歯科技工学会学術大会）（大阪），2008.
- 4: CAD/CAM で求められる支台歯の要件の調査・分析と支台歯評価システムの開発：柳橋 萌，村山長，玉本光弘，下江宰司，牧平清超，里田隆博，二川浩樹：第4回国際歯科技工学会大会（第30回日本歯科技工学会学術大会）（大阪），2008.
- 5: 眼部プロテーゼ製作実習：藤本佳那，玉本光弘，森下裕司，永見美鈴，村山長，里田隆博，二川浩樹：第4回国際歯科技工学会大会（第30回日本歯科技工学会学術大会）（大阪），2008.
- 6: 嚥下機能模型の製作：里田隆博，下江宰司，牧平清超，玉本光弘，村山長，二川浩樹：第113回日本解剖学会・全国学術集会（大分），2008.
- 7: 三次元光造形モデルの口腔外科手術臨床への応用：南正彦，太田耕司，武知正晃，宮内美和，東川晃一郎，島末洋，小野重弘，二宮嘉昭，重石英生，西裕美，瀧 雅行，荒木結子，首藤崇裕，高橋愛里，藤本佳那，峯 裕一，三村純代，牧平清超，玉本光弘，下江宰司，村山長，里田隆博，二川浩樹，鎌田伸之：第41回広島大学歯学会総会（広島），2008.
- 8: 良き「教育者」をめざした卒前教育―「歯科臨床教育学」の口腔保健学科カリキュラムへの導入：竹本俊伸，小川哲次，田口則宏，仁井谷善恵，松本厚枝，原久美子，野宗万喜，杉山勝，天野秀昭，下江宰司，牧平清超，玉本光弘，村山長，里田隆博，二川浩樹：第41回広島大学歯学会総会（広島），2008.
- 9: ビデオを用いた患者接遇教育―学生による自己チェックの効果：竹本俊伸，仁井谷善恵，松本厚枝，原久美子，野宗万喜，杉山勝，天野秀昭，下江宰司，牧平清超，玉本光弘，村山長，里田隆博，二川浩樹：第41回広島大学歯学会総会（広島），2008.
- 10: 口腔周辺の顔面表情筋機能模型の製作：藤本佳那，伊藤章子，草野顕太，荒木結子，下江宰司，牧平清超，玉本光弘，村山長，二川浩樹，里田隆博：第92回広島大学歯学会例会

(広島), 2008.

- 11: 舌機能模型の製作: 伊藤章子, 藤本佳那, 草野顕太, 荒木結子, 下江宰司, 牧平清超, 玉本光弘, 村山長, 二川浩樹, 里田隆博: 第92回広島大学歯学会例会(広島), 2008.
- 12: ジルコニアと前装用コンポジットレジンにおける表面処理の有効性: 草野顕太, 下江宰司, 里田隆博, 村山長, 二川浩樹, 田上直美, 松村英雄: 第4回国際歯科技工学術大会(第30回日本歯科技工学会学術大会)(大阪), 2008.
- 13: 前装用コンポジットレジンのジルコニアフレーム材に対する接着特性: 荒木結子, 下江宰司, 里田隆博, 村山長, 二川浩樹, 田上直美, 松村英雄: 第4回国際歯科技工学術大会(第30回日本歯科技工学会学術大会)(大阪), 2008.
- 14: アナプラストロジスト養成教育の導入-耳介矯正装具製作実習-: 高橋愛里, 下江宰司, 森下裕司, 永見美鈴, 村山長, 里田隆博, 二川浩樹: 第4回国際歯科技工学術大会(第30回日本歯科技工学会学術大会)(大阪), 2008.
- 15: 広島大学歯学部における課外活動(バイオテクノロジークラブ: バイテック)を通じた研究能力の養成について: 峯裕一, 二川浩樹, 牧平清超, 下江宰司, 玉本光弘, 里田隆博, 村山長, 天野秀昭, 竹本俊伸, 杉山勝, 原久美子, 松本厚枝, 野宗万喜, 仁井谷善恵: 第27回日本歯科医学教育学会(東京), 2008.
- 16: かぶきれいこのリハビリメイク実習を通じて学んだこと: 檜山あや, 二川浩樹, 牧平清超, 下江宰司, 玉本光弘, 里田隆博, 村山長, 杉山勝, 原久美子, 野宗万喜: 第27回日本歯科医学教育学会(東京), 2008.
- 17: かぶきれいこの血流マッサージの定量化: 木原琢也, 二川浩樹, 牧平清超, 下江宰司, 玉本光弘, 里田隆博, 村山長, 松本厚枝, 仁井谷善恵, かぶきれいこ: 第27回日本歯科医学教育学会(東京), 2008.
- 18: 口腔保健工学の臨床実習における三次元光造形モデルの製作と臨床応用: 三村純代, 南正彦, 西裕美, 島未洋, 武知正晃, 鎌田伸之, 二川浩樹, 牧平清超, 里田隆博, 村山長: 第27回日本歯科医学教育学会(東京), 2008.
- 19: 義歯製作法を応用した指部プロテーゼ製作実習: 三吉愛, 牧平清超, 永見美鈴, 森下裕司, 里田隆博, 村山長, 二川浩樹, 玉本光弘: 第4回国際歯科技工学術大会(第30回日本歯科技工学会学術大会)(大阪), 2008.

## F) シンポジウム招待講演

- 1: 村山 長: コンピュータを利用した製造技術の医療への応用, 第6回医工学研究センターシンポジウム(京都), 2008.3.18.

## (4) 科学研究費補助金等の受領状況

- 1: ST 顕在化ステージ: 二川浩樹, 村山長, 田中栄二, 長崎信一ほか(代表者 デジタルソリューション代表取締役社長 上田寛治), 新規微小マイクロイルによる3テス MRI を用いた診断支援用有限要素解析システムの開発. 7,769 千円
- 2: 平成20年度産学官連携新産業創出研究会助成金: 二川浩樹, 村山長, 田中栄二, 長崎信一ほか(代表者 二川浩樹), 顎・口腔機能の診断・オペ支援用有限要素解析システムの開発. 1,000 千円
- 3: 地域イノベーション創出研究開発事業: 二川浩樹, 村山長, 田中栄二, 長崎信一ほか(代表者 デジタルソリューション代表取締役社長 上田寛治), 関節機能のFEM解析による診断・治療最適化システムの開発, 33,360 千円

## (5) 学会賞等の受賞状況

## (6) 特許

[目次へ戻る](#)



## D) その他の出版物

- 1: 洗うだけで抗菌加工ができる新しい洗剤 二川浩樹先生(広島大学歯学部口腔保健学科)に聞く：化学掲示板：月刊誌『化学』,63(3), 70, 2008.
- 2: リハビリメイクの現場から：二川浩樹：かづき通信 70 0821, 12, 2008.

## E) 学会発表

- 1: チタンイオンが骨吸収関連遺伝子の発現に及ぼす影響：峯 裕一，牧平清超，村田比呂司，二川浩樹：第 51 回日本歯科理工学会学術大会（鶴見），2008.
- 2: 三次元光造形モデルの口腔外科手術臨床への応用：南正彦，太田耕司，武知正晃，宮内美和，東川晃一郎，島末洋，小野重弘，二宮嘉昭，重石英生，西裕美，瀧雅行，荒木結子，首藤崇裕，高橋愛里，藤本佳那，峯裕一，三村純代，牧平清超，玉本光弘，下江宰司，村山長，里田隆博，二川浩樹，鎌田伸之：第 41 回広島大学歯学会（広島），2008.
- 3: 良き「教育者」をめざした卒前教育—「歯科臨床教育学」の口腔保健学科カリキュラムへの導入：竹本俊伸，小川哲次，田口則宏，仁井谷善恵，松本厚枝，原久美子，野宗万喜，杉山勝，天野秀昭，下江宰司，牧平清超，玉本光弘，村山長，里田隆博，二川浩樹：第 41 回広島大学歯学会総会（広島），2008.
- 4: ビデオを用いた患者接遇教育—学生による自己チェックの効果：竹本俊伸，仁井谷善恵，松本厚枝，原久美子，野宗万喜，杉山勝，天野秀昭，下江宰司，牧平清超，玉本光弘，村山長，里田隆博，二川浩樹：第 41 回広島大学歯学会総会（広島），2008.
- 5: 微小重力環境が骨芽細胞および破骨細胞に与える影響：牧平清超，二川浩樹：第 117 回日本補綴歯科学会（名古屋），2008.
- 6: Immobilized-OPG-Fc on a Titanium Surface Inhibits RANKL-dependent Osteoclast Differentiation :Makihira S, Eduardo Kosaka, Mine Y, Nikawa H: IADR (Toronto, Canada), 2008.
- 7: 広島大学歯学部における課外活動（バイオテクノロジークラブ：バイテック）を通じた研究能力の養成について：峯裕一，二川浩樹，牧平清超，下江宰司，玉本光弘，里田隆博，村山長，天野秀昭，竹本俊伸，杉山勝，原久美子，松本厚枝，野宗万喜，仁井谷善恵：第 27 回日本歯科医学教育学会（東京），2008.
- 8: フロントランナープログラムへの参加：高本祐子，二川浩樹，三村純代，檜山あや，大前侑子，牧平清超：第 27 回日本歯科医学教育学会（東京），2008.
- 9: かづきれいこのリハビリメイク実習を通じて学んだこと：檜山あや，二川浩樹，牧平清超，下江宰司，玉本光弘，里田隆博，村山長，杉山勝，原久美子，野宗万喜：第 27 回日本歯科医学教育学会（東京），2008.
- 10: かづきれいこの血流マッサージの定量化：木原琢也，二川浩樹，牧平清超，下江宰司，玉本光弘，里田隆博，村山長，松本厚枝，仁井谷善恵，かづきれいこ：第 27 回日本歯科医学教育学会（東京），2008.
- 11: 口腔保健工学の臨床実習における三次元光造形モデルの製作と臨床応用：三村純代，南正彦，西裕美，島末洋，武知正晃，鎌田伸之，二川浩樹，牧平清超，里田隆博，村山長：第 27 回日本歯科医学教育学会（東京），2008.
- 12: 広島大学病院歯科における歯科用金属アレルギー被疑患者を対象としたパッチテストおよび元素分析の過去 10 年間の集計：北川雅恵，古庄寿子，新谷智章，牧平清超，二川浩樹，小川郁子，栗原英見：第 1 回日本口腔検査学会 総会・学術大会（東京），2008.

## F) 学会シンポジウム，特別講演

- 1: 21 世紀の歯科医療を担う口腔保健工学とかづきメイク：二川浩樹：第 2 回外観先端医療シ

- ンポジウム フェイシャルセラピスト協会 (広島), 2008.
- 2: バイオフィルムの最前線と特許創出: 二川浩樹: 広島大学同窓会県支部学術講演会 (広島), 2008.
  - 3: 塩基性抗菌性ペプチドの応用と固定化抗菌剤を用いた洗剤開発の 2 つの事例から: 二川浩樹: 日本補綴歯科学会 公募型シンポジウム 2 (名古屋), 2008.
  - 4: プロバイオティクスによるカリエスリスクの減少: 二川浩樹, 牧平清超, 三村純代, 檜山あや: 第 22 回 Bacterial Adherence & Biofilm 研究会(淡路島), 2008.
  - 5: 21 世紀の歯科医療を担う口腔保健工学とかぶきメイク: 二川浩樹: 第 4 回外観先端医療シンポジウム フェイシャルセラピスト協会 (横浜), 2008.
  - 6: 金属アレルギーの診断と治療: 二川浩樹: 安芸歯科医師会 60 周年記念講演 (広島), 2008.
  - 7: Cultivation of Oral Engineer Dental Technitian から Oral Engineer へ: 二川浩樹: 第 4 回国際歯科技工学会. 第 30 回日本歯科技工学会 (大阪), 2008.
  - 8: 歯科用インプラントとチタンの表面処理: 二川浩樹: 一歯科材料を中心とした生体材料開発の最前線—第 34 回材料制御研究会 中四国支部会

#### (4) 科学研究費補助金等の受領状況

- 1: 基盤研究 B 一般: 二川浩樹, 間葉系幹細胞の増殖能をもつ塩基性抗菌性ペプチド JH8194 の固定化と骨分化能の解析. 課題番号 20390499. 17,150 千円
- 2: 新産業創出研究: 二川浩樹, 顎・口腔機能の診断・オペ支援用有限要素解析システムの開発. 1,000 千円
- 3: 産学連携実用化開発助成事業: 二川浩樹, 広島県産業振興機構 (分担). 545,454 円
- 4: 一般枠 2 年: 二川浩樹, ナノ表面改質による早期骨組織再生型多孔質インプラントの開発 (分担). 7,366,000 円
- 5: 一般枠 2 年・間接経費: 二川浩樹, 関節機能の FEM 解析による診察・治療最適化システムの開発 (分担). (一般枠 2 年 広大講座分 1,492,050 円 (間接経費 447,300 円) 計 1,939,350 円
- 6: 直接経費 (若手研究(A)) 継続: 牧平清超, 外来刺激による顎堤骨吸収機構の解明と補綴前抑制法の開発. 課題番号 18689046. 490 万円
- 7: 奨学寄附金: 二川浩樹, 有 ReikoKazki. 300 千円
- 8: 奨学寄附金: 二川浩樹, 株 ジェックス. 300 千円
- 9: 奨学寄附金: 二川浩樹, 株 中国塗料. 100 千円
- 10: 奨学寄附金: 二川浩樹, 株 大塚製薬. 1,000 千円

#### (5) 学会賞等の受賞状況

- 1: 平成 20 年 7 月 11 日 第 27 回日本歯科医学教育学会 学生コンペティション最優秀賞受賞 峯裕一
- 2: 平成 20 年 11 月 23 日 第 4 回国際歯科技工学術大会・第 30 回日本歯科技工学会学術大会 ポスター発表
- 3: 最優秀賞「JH8194 を固定化したチタンが骨芽細胞様細胞株 MC3T3-E1 細胞に与える影響」 首藤崇裕, 牧平清超, 峯裕一, 大前侑子, 赤嶺翠琳, 二川浩樹
- 4: 優秀賞「チタンイオンが骨芽細胞および破骨細胞の分化に与える影響」 峯裕一, 牧平清超, 首藤崇裕, 大前侑子, 赤嶺翠琳, 村田比呂司, 二川浩樹
- 5: 優秀賞「歯科技工士教育における卒前臨床技能評価試験に関する研究」 末瀬一彦, 二川浩樹, 尾崎順男, 福間正泰, 杉上圭三, 杉田順弘

## (6) 特許

- 1: 二川浩樹：洗浄方法および被洗浄物品（2008-123450号）（広島大学）
- 2: 二川浩樹，中国鉄管継手株式会社 高田祐司：物品表面の藻類発生抑制剤及び藻類発生抑制処理方法（2008-256236号）（広島大学，中国鉄管継手株式会社 高田祐司）
- 3: 牧平清超，二川浩樹：骨吸収調整剤（2008-70201号）（広島大学）

[目次へ戻る](#)

## 中央研究室

### (1) 職員並びに学生

委員長 : 前田憲彦 (併任)

助教 : 林幾江

### (2) 主な研究活動

1: 細胞内タンパク質のプロテオーム解析

2: 生理活性物質の構造解析

### (3) 研究業績

A) 原著 (症例報告を含む)

B) 総説

C) 著書

D) その他の出版物

E) 学会発表

1: Overexpression of NlpI induces alteration of peptidoglycan in *Escherichia coli* K12 : Masaru Ohara, Ikue Hayashi and Motoyuki Sugai : International *E. coli* Alliance 2008 (Hinxton) 2008.

2: The role of nucleolin in H2AX-related DNA damage response:Junya Kobayashi, Jun Sato, Ikue Hayashi and Kenshi Komatsu: The international Ataxia-Telangiectasia Workshop 2008 (Otsu) 2008.

3: Relationship of intestinal- and diffuse-type gastric cancer risks to IL-10 haplotypes and effects of radiation exposure on the relationship: Hayashi T, Morishita Y, Nagamura H, Maki M, Imai K, Yoshida K, Kusunoki Y, Hayashi I, Tahara E, Nakachi K: 20th European Association for Cancer Research (Lyon) 2008.

4: Effects of IL-10 and IL-6 gene polymorphisms and atomic-bomb radiation exposure on gastric cancer risk: Hayashi T, Morishita Y, Nagamura H, Maki M, Imai K, Yoshida K, Kusunoki Y, Hayashi I, Tahara E, Nakachi K: IARC-EACR-AACR-ECNIS Symposium (Lyon) 2008.

5: Acceleration of aging-associated increase in inflammatory markers and attenuation of the immune system among atomic-bomb survivors: Hayashi T, Kusunoki Y, Morishita Y, Nagamura H, Maki M, Kubo Y, Yamaoka M, Hayashi I, Yoshida K, Nakachi K: 7th Joint Meeting of the International

Society for Interferon and Cytokine Research and the International Cytokine Society (Montreal)  
2008.

6: DNA 二重鎖切断損傷応答における nucleolin の役割 : 小林純也、林幾江、小松賢志 : 日本放射線影響学会第 51 回大会(北九州)2008

7:The role of nucleolin in H2AX-related DNA damage response : 小林純也、林幾江、小松賢志 : 第 31 回日本分子生物学会年会第 81 回日本生化学大会合同大会(神戸)2008:

(4) 科学研究費補助金等の受領状況

(5) 学会賞等の受賞状況

(6) 特許

[目次へ戻る](#)



- 7: Cytolethal distending toxin induces caspase-dependent and -independent cell death in MOLT-4 cells. : Masaru Ohara, Tomonori Hayashi, Yoichiro Kusunoki, Kei Nakachi, Tamaki Fujiwara, Hitoshi Komatsuzawa, Motoyuki Sugai : Infection and Immunity vol 76, 4783-91, 2008.
- 8: Transcriptional promoter analysis on the nlpI gene expression in Escherichia coli K12. : Masaru Ohara, Hiroshi Yoshino, Tetsuji Ogawa and Motoyuki Sugai : The Journal of Hiroshima University Dental Society vol 40, 30-37, 2008.

## B) 総説

## C) 著書

- 1: コーチング：患者ニーズにマッチした歯科医療面接の実際. 伊藤孝訓, 寺中敏夫編 共著 東京：小川哲次：クインテッセンス出版；2008. 46－50
- 2: 各論編 デンタルインタビューの実際：患者ニーズにマッチした歯科医療面接の実際. 伊藤孝訓, 寺中敏夫編 共著 東京：田口則宏：クインテッセンス出版；2008. 80－87, 164－167.

## D) その他の出版物

## E) 学会発表

- 1: 良き「教育者」をめざした卒前教育－「歯科臨床教育学」の口腔保健学科カリキュラムへの導入：○竹本俊伸, 小川哲次, 田口則宏, 仁井谷善恵, 松本厚枝, 原久美子, 野宗万喜, 杉山勝, 天野秀昭, 田口香織, 下江宰司, 牧平清超, 玉本光弘, 村山長, 里田隆博, 二川浩樹：広島大学歯学会（広島），2008.
- 2: キャリアデザインからみた必修化後の歯科医師臨床研修におけるアウトカム調査：○田口則宏, 小川哲次, 田中良治, 笹原妃佐子, 小原勝, 岡田貢：第 27 回日本歯科医学教育学会総会・学術大会（東京），2008.
- 3: 臨床研修歯科医のための医療面接トレーニングについて：○小川哲次, 田口則宏, 田中良治, 小原勝, 佐々木友枝：第 27 回日本歯科医学教育学会総会・学術大会（東京），2008.
- 4: 学習スタイル Learning Style と自己主導型学習 Self-Directed Learning：○小川哲次, 田口則宏, 田中良治, 小原勝, 佐々木友枝：第 27 回日本歯科医学教育学会総会・学術大会（東京），2008.
- 5: 模擬患者（SP）活動における満足度調査：○佐々木友枝, 前田純子, 田口則宏, 小川哲次：第 27 回日本歯科医学教育学会総会・学術大会（東京），2008.
- 6: 口腔保健学科（口腔健康科学分野）の卒前教育における「歯科臨床教育学」のカリキュラムデザイン：○竹本俊伸, 小川哲次, 影山幾男, 田口則宏, 仁井谷善恵, 松本厚枝, 原久美子, 野宗万喜, 杉山勝, 天野秀昭, 里田隆博：第 27 回日本歯科医学教育学会総会・学術大会（東京），2008.
- 7: 高齢者に対する医療面接：○田口則宏, 田中良治, 小原勝, 小川哲次, 土井伸浩, 片山荘

- 太郎, 瀬川和司, 松本紀幸, 中村衛, 梶井正文, 山野亮介, 宮村健一, 一瀬智生, 西野宏, 津島隆司, 三反田孝: 総合歯科医療に関する学術研究セミナー2008 (広島), 2008.
- 8: 歯科医療安全対策の一環としての歯科治療ユニット水系細菌検査の実施: ○小原勝, 吉野宏, 田口則宏, 田中良治, 田村裕子, 小川郁子, 菅井基行, 小川哲次: 総合歯科医療に関する学術研究セミナー2008 (広島), 2008.
- 9: 広島県歯科医師会会員における高齢者とのコミュニケーション: ○田口則宏, 田中良治, 小原勝, 小川哲次, 土井伸浩, 片山荘太郎, 瀬川和司, 松本紀幸, 中村衛, 梶井正文, 山野亮介, 宮村健一, 一瀬智生, 西野宏, 津島隆司, 三反田孝: 第 47 回広島県歯科医学会・第 92 回広島大学歯学会・日本歯科技工学会中国・四国支部第 3 回学術大会 (広島), 2008.
- 10: 歯科医師臨床研修プログラムについて—臨床研修施設と臨床研修医の意識調査—: ○本山智得, 森本克廣, 土江健也, 川原正照, 熊谷宏, 中本雅志, 山崎徹, 山本智之, 荒谷恭史, 三戸敦史, 久保康治, 瓜生賢, 島末一則, 光山武文, 山崎保彦, 中村隆一, 岸民祐, 妹尾博文, 小川哲次, 田口則宏, 三島幸司, 鎌田伸之, 高田隆: 第 47 回広島県歯科医学会・第 92 回広島大学歯学会・日本歯科技工学会中国・四国支部第 3 回学術大会 (広島), 2008.
- 11: 高齢者とのコミュニケーション 広島県歯科医師会会員の視点から: ○田口則宏, 田中良治, 小原勝, 小川哲次, 土井伸浩, 片山荘太郎, 瀬川和司, 松本紀幸, 中村衛, 梶井正文, 山野亮介, 宮村健一, 一瀬智生, 西野宏, 津島隆司, 三反田孝: 第 11 回日本コミュニケーション学会中国四国支部会・第 3 回医療コミュニケーション教育研究セミナー (広島), 2008.
- 12: コミュニケーション教育と学習スタイル: ○小川哲次, 田口則宏, 田中良治, 小原勝: 第 11 回日本コミュニケーション学会中国四国支部会・第 3 回医療コミュニケーション教育研究セミナー (広島), 2008.

#### F) セミナー, ワークショップの開催

- 1: 平成 20 年度臨床研修歯科医ワークショップ (広島), 2008.
- 2: 総合歯科医療に関する学術研究セミナー2008 (広島), 2008.
- 3: 第 11 回日本コミュニケーション学会 (CAJ) 中国四国支部大会・医療コミュニケーション教育研究セミナー (第 3 回) (広島), 2008.

#### G) 講師・シンポジスト等

- 1: これからの医療コミュニケーション教育の目標設定とカリキュラムストラクチャー: 小川哲次: 第 2 回昭和大学歯学教育セミナー (東京), 2008.
- 2: 自己主導型学習を促す臨床研修指導のあり方: 小川哲次: 平成 20 年度歯科医師臨床研修プログラム責任者・副プログラム責任者のためのワークショップ (東京), 2008.
- 3: Portfolio Reflection と Self-directed learning: 田口則宏: 広島大学病院・広島県歯科医師会主催 第 10 回中国・四国地区歯科医師臨床研修指導歯科医講習会 (広島), 2008.
- 4: 「シンポジウムⅡ これからの医療コミュニケーション教育の目標設定とカリキュラムストラクチャー」 カリキュラムストラクチャーのあり方: 田口則宏: 第 27 回日本歯科

医学教育学会総会・学術大会（東京），2008.

#### H) 院外講習会，セミナー，ワークショップの受講

- 1: 平成 20 年度第 1 回プログラム責任者講習会：受講者 小川哲次：財団法人 歯科医療研修振興財団主催（東京），2008.
- 2: 第 3 回 RIAS トレーニング・ワークショップ：受講者 小川哲次，田口則宏：RIAS 研究会日本部会主催（名古屋），2008.
- 3: 平成 20 年度大学マネジメントセミナー【教育編】：受講者 小川哲次：社団法人国立大学協会主催（東京），2008.
- 4: 平成 20 年度歯科医師臨床研修プログラム責任者・副プログラム責任者のためのワークショップ：受講者 小原勝：日本歯科医学教育学会主催（東京），2008
- 5: 第 2 回医療コミュニケーション・ファシリテータ養成セミナー（初級編）：受講者 佐々木友枝：日本歯科医学教育学会主催（名古屋），2008.

#### I) 客観的臨床能力試験（OSCE，CSA など）の実施

- 1: 平成 19 年度 第 2 回広島大学病院臨床研修 Advanced OSCE, 2008.
- 2: 平成 20 年度 第 1 回広島大学病院臨床研修 Advanced OSCE, 2008.

#### (4) 科学研究費補助金等の受領状況

- 1: 科学研究費補助金（基盤研究（C）(1)一般）新規：田口則宏：有床義歯患者の行動科学的研究とその応用 —患者の解釈モデルは理解できるか？—.（課題番号 19592240）. 2,990 千円

#### (5) 学会賞等の受賞状況

#### (6) 特許

[目次へ戻る](#)

## 口腔健康発育歯科（予防歯科）

### （１）職員並びに学生

講師        : 河村誠     (科長)

助教        : 笹原妃佐子

### （２）主な研究活動

- 1: 口腔保健に関する行動科学的研究
- 2: 口腔保健に関する国際比較研究
- 3: 地域歯科保健に関する研究
- 4: 学校歯科保健に関する研究
- 5: 歯学教育に関する研究
- 6: 「歯周画像」診断のための CAD システムの開発

### （３）研究業績

#### A) 原著（症例報告を含む）

- 1: Teenagers' dental health attitudes and behavior in Japan: comparison by sex and age group. Kawamura M., Takase N., Sasahara H., Okada M.: *Journal of Oral Science*, 50(2): 167-174, 2008.
- 2: Dental students' ability to assess gingival health status with DAAGS software. Camgoz M., Gurgan C.A., Kajiwara K., Kawamura M.: *Journal of Dental Education*, 72:59-66, 2008.
- 3: Investigating the relationship between self-reported oral health status, oral health-related behaviours and self-consciousness in Romania. Dumitrescu A. L., Kawamura M., Dogaru B., Dogaru C.: *Oral Health and Preventive Dentistry*, 6(2):95-103., 2008.
- 4: Simultaneous interrelationship between the oral health behavior and oral health status of mothers and their children. Okada M., Kawamura M., Hayashi Y., Takase N., Kozai K.: *Journal of Oral Science*, 50(4): 447-452, 2008.
- 5: Nursing students' attitudes towards preventive dentistry. (In Greek, abstract in English). Gatou T., Polychronopoulou A., Kawamura M.: *Hellenic Stomatological Review*, 52:309-314 2008.
- 6: Health behaviour, metabolic control and periodontal status in medically treated Chinese with type 2 diabetes mellitus. Leung W. K., Movva L.R.K., Wong M.C.M., Corbet E.F., Siu S-C, Kawamura M.: *Ann Roy Australas Coll Dent Surg*, 19: 102-110, 2008.
- 7: Exploring the relationships between sense of hopelessness, worry, self-rated oral health status and behavior in a Romanian adult population. Dumitrescu A. L., Kawamura M.: *The Journal of*

*Contemporary Dental Practice*, (in press), 2008.

- 8: 養護教諭養成課程学生の「歯周状態判断力」向上のための歯科教育システム—コンピュータ・トレーニングソフト「ピカール」による成果—。梶原京子, 河村誠, 田中義人, 宮腰由紀子, 津島ひろ江: 学校保健研究, 50(3): 166-174, 2008.
- 9: Japanese Dental Trainees Perceptions of Educational Environment Measurement in Postgraduate Training. Taguchi N., Ogawa T., Sasahara H. : *Medical Teacher*, 30: e189-e193, 2008.
- 10: キャリアデザインからみた歯科医師臨床研修のアウトカム評価: 田口則宏, 小川哲次, 田中良治, 小原勝, 笹原妃佐子: 日本歯科医学教育学会雑誌, 24:182 - 189, 2008.

B) 総説

C) 著書

D) その他の出版物

- 1: 本学附属小学校における齲蝕罹患状態に関する実態調査. 岡田貢, 河村誠, 保田利恵, 國清あやか: 広島大学学部・附属学校共同研究紀要, 36: 503-505, 2008.
- 2: ひ素ミルク中毒から50年が経過した患者の歯科受診要因と口腔保健・医療ニーズ. 河村誠, 笹原妃佐子, 小川哲次: 平成18年度～平成19年度科学研究費補助金 基盤研究(C) 研究成果報告書, 1-64, 2008.
- 3: 広島経済大学における卒業に関する要因分析. 笹原英夫, 笹原妃佐子: 広島経済大学における卒業に関する要因分析, 1-10, 2008.
- 4: 広島経済大学における卒業に関する要因分析(2). 笹原英夫, 笹原妃佐子: 広島経済大学における卒業に関する要因分析, 11-18, 2008.

E) 学会発表

- 1: Health behaviours, metabolic control and periodontal status in medically treated Chinese subjects with type 2 diabetes mellitus. Leung W.K., Movva L.R.K., Wong M.C.M., Corbet E.F., Siu S.C., Kawamura M.: *Royal Australasian College of Dental Surgeons Meeting (Hong Kong)*, May, 2008.
- 2: キャリアデザインからみた必修化後の歯科医師臨床研修におけるアウトカム調査: 田口則宏, 小川哲次, 田中良治, 笹原妃佐子, 小原勝, 岡田貢: 第27回日本歯科医学教育学会総会・学術大会(東京), 7月, 2008.

(4) 科学研究費補助金等の受領状況

- 1: 科学研究費補助金(基盤研究C)新規: 河村誠(代表), 岡田貢, 田口則宏, 笹原妃佐子, 小

川 哲次. 学校歯科健康診断における GO, G の CAD 結果に基づく診断標準化システムの構築. 課題番号 20592455. 600 千円

- 2: 科学研究費補助金 (基盤研究 C) 継続: 田口則宏 (代表), 小川哲次, 田中良治, 河村誠, 笹原妃佐子. 有床義歯患者の行動科学的研究とその応用—患者の解釈モデルは理解できるか? —. 課題番号 19592240. 1,000 千円

(5) 学会賞等の受賞状況

(6) 特許

[目次へ戻る](#)

## 口腔健康発育歯科（障害者歯科）

### （１）職員並びに学生

准教授　　：岡田貢  
助教　　：林田浩一  
歯科診療医：青木美枝

### （２）主な研究活動

- 1: 障害者の齲蝕発生リスクに関する研究
- 2: 障害者の歯周病発症リスクに関する研究
- 3: 骨髄間葉系幹細胞を用いた歯周組織再生に関する研究
- 4: 発達障害者における歯科的協力度に関する研究
- 5: 障害者の歯科的問題における PBL 教育に関する研究
- 6: 歯内・歯周療法に関する臨床的研究

### （３）研究業績

#### A) 原著（症例報告を含む）

- 1: Teenagers' oral health attitudes and behavior in Japan: Kawamura M, Takase N, Sasahara H, Okada M: J Oral Sci: 50: 167-174, 2008.
- 2: Simultaneous interrelationship between the oral health behavior and oral health status of mothers and their children: Okada M, Kawamura M, Hayashi Y, Takase N, Kozai K: J Oral Sci 50: 447-452, 2008.
- 3: Irsogladine maleate abolishes the increase in interleukin-8 levels caused by outer membrane protein 29 from *Aggregatibacter (Actinobacillus) actinomycetemcomitans* through the ERK pathway in human gingival epithelial cells. Kishimoto A, Fujita T, Shiba H, Komatsuzawa H, Takeda K, Kajiya M, Hayashida K, Kawaguchi H, Kurihara H: J Periodont Res 43(5): 508-513, 2008.
- 4: 中学生における歯周疾患実態調査および歯周病原細菌の分布：林文子，保田利恵，中田啓子，鈴木淳司，岡田貢，河村誠，香西克之：広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要 37：275-278，2009.

#### B) 総説

#### C) 著書

#### D) その他の出版物

#### E) 学会発表

- 1: 本院障害者歯科における満足度調査:岡田貢, 林田浩一, 青木美枝, 時数智子, 林田哲子, 岩本めぐみ: 第 25 回 日本障害者歯科学会総会および学術大会 (東京), 2008
- 2: 除痛処置によって歯科的協力度が顕著に改善した一症例:林田浩一, 青木美枝, 時数智子, 林田哲子, 矢野加奈子, 岩本めぐみ, 岡田貢: 第 25 回日本障害者歯科学会総会および学術大会 (東京), 2008
- 3: PCR detection of *Streptococcus mutans* and *S. sobrinus* in schoolchildren: Okada M, Hayashida K, Yasuda R, Kurihara H: The 86th general session & exhibition of the IADR (Toronto), 2008
- 4: PCR assay for quantitative detection of *Porphyromonas gingivalis* in children: Hayashi F, Okada M, Suzuki J, Kozai K: The 86th general session & exhibition of the IADR (Toronto), 2008
- 5: マレイン酸イルソグラジンはラット歯周炎モデルにおいて炎症性細胞浸潤を抑制する: 岸本亮義, 藤田剛, 柴秀樹, 林田浩一, 内田雄士, 河口浩之, 栗原英見: 第 51 回日本歯周病学会春季学術大会 (大宮), 2008
- 6: 脳由来神経栄養因子(BDNF)と高分子ヒアルロン酸を用いた歯周組織再生療法の開発 -根面処理併用効果の検討-: 坂井宣之, 武田克浩, 柴秀樹, 林田浩一, 加治屋幹人, 藤田剛, 河口浩之, 橋本正道, 辻紘一郎, 栗原英見: 第 51 回日本歯周病学会春季学術大会 (大宮), 2008
- 7: 重度精神遅滞を有する患者に対して行った歯内療法症例: 林田浩一, 河口浩之, 日野孝宗, 武田克浩, 加治屋幹人, 永原隆吉, 柴秀樹, 栗原英見: 第 29 回日本歯内療法学会学術大会 (市川), 2008
- 8: マレイン酸イルソグラジンは *Aggregatibacter actinomycetemcomitans* によって惹起される歯肉上皮組織への炎症細胞浸潤を抑制する: 藤田剛, 林田浩一, 加治屋幹人, 柴秀樹, 安孫子宜光, 栗原英見: 第 50 回歯科基礎医学会学術大会 (東京), 200
- 9: 侵襲性歯周炎歯肉組織における、コルチゾールと細胞接着装置構成タンパクの局在: 林田浩一, 常国徳子, 加治屋幹人, 藤田剛, 柴秀樹, 内田雄志, 吉野宏, 河口浩之, 栗原英見: 第 129 回日本歯科保存学会秋季学術大会 (富山), 2008
- 10: マレイン酸イルソグラジンをを用いた歯周病予防法の開発に関する基礎的研究: 藤田剛, 柴秀樹, 岸本亮義, 内田雄士, 加治屋幹人, 武田克浩, 林田浩一, 松田真司, 河口浩之, 栗原英見: 第 21 回日本歯科医学会総会 (横浜), 2008
- 11:  $\beta$ -TCP による骨髄間葉系幹細胞 (MSC) の骨分化誘導を併用した歯周組織再生療法の開発: 永原隆吉, 河口浩之, 武田克浩, 林田浩一, 坂井宜之, 藤田剛, 辻紘一郎, 栗原英見: 第 21 回日本歯科医学会総会 (横浜), 2008

#### F) 学会シンポジウム, 特別講演

#### (4) 科学研究費補助金等の受領状況

1: 科学研究費補助金（若手研究(B)(2)）新規：林田浩一：骨髄間葉系幹細胞の分化誘導シグナルとなる担体の研究.（課題番号 19791613） 1,400 千円

(5) 学会賞等の受賞状況

(6) 特許

[目次へ戻る](#)

## 特殊歯科総合治療部

### (1) 職員並びに学生

部長 : 香西克之 (併任)  
助教 : 藤原百合 (3月まで)  
安原幸美 (4月から)

### (2) 主な研究活動

- 1: 口蓋裂言語の聴覚的評価法に関する研究
- 2: Electropalatography(EPG)を用いた訓練方法に関する研究
- 3: 構音障害改善に関する研究
- 4: 舌圧と嚥下・言語機能に関する研究

### (3) 研究業績

- A) 原著 (症例報告を含む)
- B) 総説
- C) 著書
- D) その他の出版物
- E) 学会発表

### (4) 科学研究費補助金等の受領状況

### (5) 学会賞等の受賞状況

### (6) 特許

[目次へ戻る](#)

## 口腔検査センター

### (1) 職員並びに学生

センター長：栗原英見（併任）

准教授：小川郁子（診療）

助教：新谷智章，北川雅恵

研修医：古庄寿子

技術補佐員：坂野敬子

### (2) 主な研究活動

- 1: 歯内・歯周療法に関する臨床的研究
- 2: 頭頸部病変の診断病理学的研究
- 3: 口腔扁平上皮癌の増殖・進展に関する分子病理学的研究
- 4: 唾液腺腫瘍の細胞分化に関する研究
- 5: VEGFR および EGFR をターゲットにした口腔癌の分子標的治療の研究
- 6: 味覚異常の治療法に関する開発研究
- 7: 金属アレルギーおよび口腔乾燥症に対する検査および治療に関する研究
- 8: セメント芽細胞特異的遺伝子の機能解析

### (3) 研究業績

#### A) 原著（症例報告を含む）

- 1: 著明な脂肪化を伴った頬部血管平滑筋腫の 1 例: 新谷智章, 虎谷茂昭, 宮内睦美, 林堂安貴, 越智康, 岡本哲治: 日本口腔外科学会誌 54(11), 621-625, 2008.
- 2: 広島大学病院歯科における歯科用金属アレルギー被疑患者を対象としたパッチテストおよび元素分析の動向—第一報 過去 10 年間の業績—: 北川雅恵, 古庄寿子, 新谷智章, 牧平清超, 二川浩樹, 小川郁子, 栗原英見: 広島大学歯学雑誌 40(2), 124-128, 2008.
- 3: Aberrant beta-catenin expression and adenomatous polyposis coli gene mutation in ameloblastoma and odontogenic carcinoma: Siriwardena BS, Kudo Y, Ogawa I, Tilakaratne WM, Takata T: Oral Oncol, 45, 103-108, 2008.
- 4: Effects of ultrasound on the proliferation and differentiation of cementoblast lineage cells: Inubushi T, Tanaka E, Rego EB, Kitagawa M, Kawazoe A, Ohta A, Okada H, Koolstra JH, Miyauchi M, Takata T, Tanne K: J Periodontol, 79, 1984-1990, 2008.
- 5: Brain-derived neurotrophic factor stimulates bone/cementum-related protein gene expression in cementoblasts: Kajiyama M, Shiba H, Fujita T, Ouhara K, Takeda K, Mizuno N, Kawaguchi H, Kitagawa M, Takata T, Tsuji K, Kurihara H: J Biol Chem, 283, 16259-16267, 2008.

- 6: IFITM1 promotes the invasion at the early stage of head and neck cancer progression: Hatano H, Kudo Y, Ogawa I, Tsunematsu T, Kikuchi A, Abiko Y, Takata T: Clin Cancer Res 14, 6097-6105, 2008.
- 7: Enamel matrix derivative exhibits anti-inflammation properties in monocytes: Sato S, Kitagawa M, Sakamoto K, Iizuka S, Kudo Y, Ogawa I, Miyauchi M, Foster BL, Somerman MJ, Takata T: J Periodontol, 79, 535-540, 2008.
- 8: Prostaglandin E2 inhibits mineralization and enhances matrix metallo proteinase -13 in mature cementoblasts mainly via the EP4 pathway: Oka H, Miyauchi M, Sakamoto K, Kitagawa M, Noguchi K, Somerman MJ, Takata T: Arch Oral Biol, 53, 243-249, 2008.
- 9: VEGF-C is associated with lymphatic status and invasion in oral cancer: Siriwardena BSMS, Kudo Y, Ogawa I, Udagama MNGPK, Tilakaratne WM, Takata T: J Clin Pathol, 61, 103-108, 2008.
- 10: 広島大学病院（歯科）総合診療室歯科治療ユニット水系の緑膿菌，レジオネラ属，メチシリン耐性黄色ブドウ球菌と一般細菌検査：小原勝，吉野宏，田口則宏，田中良治，田村裕子，小川郁子，菅井基行，小川哲次：広島大学歯学誌 40(2), 129-135, 2008.

#### B) 総説

#### C) 著書

- 1: 唾液腺腫瘍；新口腔病理学（下野正基，高田 隆編）：小川郁子，高田隆：医歯薬出版株式会社，東京，273-286，2008.
- 2: 各論 2.歯・顎骨；外科病理マニュアル（深山正久，梅村しのぶ，大橋健一，黒田誠，坂元亨字，森永正二郎編）：小川郁子，工藤保誠，宮内睦美，高田隆：病理と臨床 臨時増刊号，文光堂，東京，26:139-143, 2008.

#### D) その他の出版物

- 1: 口腔病変クローズアップ 舌下面に生じた粘液貯留嚢胞：安藤あずさ，佐々木晶浩，小川郁子，高田隆: DHstyle 2(14), 10-12, 2008.
- 2: 口腔病変クローズアップ ドライマウス（口腔乾燥症）：高木紀子，高橋正光，北川雅恵，小川郁子，高田隆: DHstyle 2(20), 10-12, 2008.
- 3: 口腔病変クローズアップ 左口蓋部にできた多形腺腫：高木和葉，小野田紀生，小川郁子，高田隆: DHstyle 2(21), 10-12, 2008.
- 4: 口腔病変クローズアップ 左上顎歯肉に発生した悪性黒色腫：高木和葉，小野田紀生，小川郁子，高田隆：DHstyle 2(24), 10-13, 2008.
- 5: 口腔病変クローズアップ 右側頬粘膜に生じた血管腫：高木和葉，小野田紀生，小川郁子，高田隆：DHstyle 2(26), 10-12, 2008.

#### E) 学会発表

- 1: 舌癌における PET-CT 診断評価と臨床病理学的評価との相関：米田進吾，宮内美和，西裕美，重石英生，小野重弘，島末洋，二宮嘉昭，太田耕司，東川晃一郎，武知正晃，小川郁子，高田 隆，鎌田伸之：第 26 回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会（別府市），2008.
- 2: 口腔癌における Emi1 の過剰発現とその意義：工藤保誠，常松貴明，大林真理子，小川郁子，北島正二郎，高田隆：第 97 回日本病理学会総会（金沢），2008.
- 3: 口腔癌における Runx3 の高発現とその役割（学生ポスター）：常松貴明，工藤保誠，小川郁子，高田隆：第 97 回日本病理学会総会（金沢），2008.
- 4: 耳下腺に発生した硬化性多嚢胞性腺症の(SPA)1 例：小川郁子，高田晋一，宮内睦美，松浦博夫，高田隆：第 97 回日本病理学会総会（金沢），2008.
- 5: 舌癌における FDG-PET-CT 評価と病理組織学的評価との相関：宮内美和，米田進吾，藤本伸一，瀧雅行，西裕美，重石英生，小野重弘，武知正晃，小川郁子，高田隆，鎌田伸之：第 37 回日本口腔外科学会 中・四国地方会（倉敷市），2008.
- 6: 口腔癌における Survivin と Aurora-B の過剰発現とその意義：齊広瑩，工藤保誠，小川郁子，サマダラニ・シリワルデナ，吉田真希，北島正二郎，宮内睦美，高田隆：第 90 回広島大学歯学会（広島市），2008.
- 7: Periostin plays a role in invasion and metastasis in oral cancer：Siriwardena BSMS, Kudo Y, Ogawa I, Kitajima S, Miyauchi M, Takata T：第 90 回広島大学歯学会（広島市），2008.
- 8:  $\gamma$ -グルタミルトランスペプチダーゼは、歯槽骨破壊のリスクファクターである：川添祐亮，宮内睦美，田口明，古庄寿子，飯塚新二，北川雅恵，田妻進，高田隆：第 90 回広島大学歯学会（広島市），2008.
- 9: 下顎骨腫瘍（odontogenic myxoma）：宮内睦美，古庄寿子，飯塚新二，重石英生，藤田實，小川郁子，高田隆：第 19 回日本臨床口腔病理学会総会・学術大会（東京），2008.
- 10: 耳下腺腫瘍（basal cell adenocarcinoma）：小川郁子，坂井田紀子，大江千里，植村芳子，高田隆：第 19 回日本臨床口腔病理学会総会・学術大会（東京），2008.
- 11: Periostin is involved in angiogenesis and lymphangiogenesis in oral cancer: Siriwardena BSMS, Kudo Y, Ogawa I, Yoshida M, Kitajima S, Udagama MNGPK, Tilakaratne WM, Takata T. 第 19 回日本臨床口腔病理学会総会・学術大会（東京），2008.
- 12: 広島大学病院歯科における歯科用金属アレルギー被疑患者を対象としたパッチテストおよび元素分析の過去 10 年間の集計：北川雅恵，古庄寿子，新谷智章，牧平清超，二川浩樹，小川郁子，栗原英見：第 1 回日本口腔検査学会（東京），2008.
- 13: 「広島大学病院口腔検査センター」のご紹介：小川郁子，新谷智章，北川雅恵，古庄寿子，栗原英見：第 1 回日本口腔検査学会（東京），2008.
- 14: オーラルクロマを用いた口臭外来患者の病態の検討：岩崎代利子，長谷川直彦，川村優人，小川文野，日野孝宗，河口浩之，栗原英見：第 1 回日本口腔検査学会学術大会（東京），2008.
- 15: 感染根管治療における根管内細菌嫌気培養検査：北本泰子，日野孝宗，小川文野，小川郁子，柴秀樹，河口浩之，栗原英見：第 1 回日本口腔検査学会学術大会（東京），2008.
- 16: 根管内細菌嫌気培養検査を用いた根管内の無菌化診断：小川文野，日野孝宗，北本泰子，小川郁子，柴秀樹，河口浩之，栗原英見：第 1 回日本口腔検査学会学術大会（東京），2008.
- 17: 歯周病関連細菌に対する血清抗体価検査：川村優人，日野孝宗，新谷智章，小川郁子，柴

- 秀樹, 河口浩之, 栗原英見: 第1回日本口腔検査学会学術大会(東京), 2008
- 18: 歯周炎患者における自己抗原の解析: 日野孝宗, 仁井谷幸, 水野智仁, 柴秀樹, 河口浩之, 栗原英見: 第1回日本口腔検査学会学術大会(東京), 2008
- 19: 胆汁うっ滞性肝疾患に伴う高  $\gamma$ -glutamyl transpeptidase 血症が骨破壊に及ぼす影響について: 川添祐亮, 宮内睦美, 田妻進, 北川雅恵, 鈴木恵子, 新飯田俊平, 高田隆: 第17回硬組織再生生物学会・学術大会(徳島市), 2008.
- 20: 膜貫通タンパクである IFITM1 および CD81 の口腔癌細胞の浸潤に対する影響: 吉田真希, 工藤保誠, 小川郁子, 高田 隆: 第50回歯科基礎医学会学術大会・総会(東京), 2008.
- 21: 口腔癌における CIP2A の高発現とその役割: 大林真理子, 工藤保誠, 小川郁子, 高田隆: 第50回歯科基礎医学会学術大会・総会(東京), 2008.
- 22: 口腔癌における Runx3 の癌遺伝子としての役割: 常松貴明, 工藤保誠, 小川郁子, 高田隆: 第50回歯科基礎医学会学術大会・総会(東京), 2008.
- 23: Abnormal regulation of Anaphase promoting complex dependent proteolysis by Emi1 dysregulation in cancer: Kudo Y, Tsunematsu T, Kitajima S, Ogawa I, Takata T: 第67回日本癌学会学術総会(名古屋市), 2008.
- 24: Runx3 has a oncogenic role in head and neck cancer: Tsunematsu T, Kudo Y, Ogawa I, Takata T: 第67回日本癌学会学術総会(名古屋市), 2008.
- 25: アメロブラスチン合成ペプチドを用いた骨再生療法に関する研究: 飯塚新二, 北川雅恵, 工藤保誠, 宮内睦美, 高田隆: 第21回日本歯科医学会総会(横浜), 2008.
- 26: 外科的治療を施行したビスフォスフォネート製剤関連顎骨壊死の3例: 木村祐紀, 新谷智章, 伊藤翼, 吉岡幸男, 谷亮治, 林堂安貴, 虎谷茂昭, 北島正二郎, 岡本哲治: 第56回 NPO 法人口腔科学会中四国地方部会(米子市), 2008.
- 27: 下顎歯肉に発生した inflammatory gingival hyperplasia with pseudomalignant change の一例: 伊藤翼, 吉岡幸男, 小川郁子, 北川雅恵, 谷亮治, 林堂安貴, 虎谷茂昭, 高田隆, 岡本哲治: 第56回 NPO 法人口腔科学会中四国地方部会(米子市), 2008.
- 28: 舌縁に生じた粘液脂肪腫(Myxolipoma)の1例: 奥井岳, 小野重弘, 三谷佳嗣, 小川郁子, 宮内美和, 高田隆, 鎌田伸之: 第56回 NPO 法人口腔科学会中四国地方部会(米子市), 2008.
- 29: 広範に篩状胞巣の形成を示した基底細胞癌の1症例: 小川郁子, 坂井田紀子, 大江千里, 植村芳子, 高田隆: 第53回日本唾液腺学会(東京), 2008.
- 30: Abnormal regulation of Anaphase promoting complex dependent proteolysis by Emi1 dysregulation in cancer: Kudo Y, Tsunematsu T, Kitajima S, Ogawa I, Takata T: 3<sup>rd</sup> International Workshop on Cell Regulations in Division and Arrest (沖縄), 2008.
- 31: IFITM1 promotes invasion of oral cancer: Takata T, Kudo Y, Hatano H, Ogawa I, Miyauchi M: The 14th International Congress of Oral Pathology and Medicine, San Francisco, USA, 2008.
- 32: Abnormal regulation of Anaphase promoting complex dependent proteolysis by Emi1 dysregulation in cancer: Kudo Y, Tsunematsu T, Kitajima S, Ogawa I, Takata T: The 14th International Congress of Oral Pathology and Medicine (San Francisco, USA), 2008.
- 33: 舌腫瘍(myxolipoma): 小川郁子, 飯塚新二, 三谷佳嗣, 高田隆: 第51回広島病理集談会(広島), 2008.

- 34: 下顎骨病変 (central giant cell granuloma) : 小川郁子, 谷亮治, 小泉浩一, 中元崇, 飯塚新二, 高田隆 : 日本病理学会中国四国支部第 95 回学術集会 (スライドカンファレンス) (広島), 2008.
- 35: 耳下腺腫瘍 (basal cell adenocarcinoma) : 小川郁子, 坂井田紀子, 大江千里, 植村芳子, 高田隆 : 日本病理学会中国四国支部第 96 回学術集会 (スライドカンファレンス) (米子), 2008.
- 36: 上顎歯肉腫瘍 (giant cell epulis) : 吉田真希, 工藤保誠, 谷亮治, 岡本康正, 末井良和, 小川郁子, 高田隆 : 日本病理学会中国四国支部第 97 回学術集会 (スライドカンファレンス) (広島), 2008.
- 37: 感染根管治療における根管内細菌嫌気培養検査の有効性: 北本泰子, 日野孝宗, 内田雄士, 柴秀樹, 河口浩之, 栗原英見 : 第 29 回日本歯内療法学会学術大会 (千葉), 2008.
- 38: 抗菌薬局所投与を応用した根尖性歯周炎治療症例 : 北本泰子, 日野孝宗, 内田雄士, 柴秀樹, 河口浩之, 栗原英見 : 第 128 回日本歯科保存学会春季学術大会 (新潟), 2008

#### F) 特別講演, シンポジウム, ワークショップ等

- 1: Overexpression of Aurora-A Caused by Constitutive Phosphorylation of Ser51: Kitajima S, Kudo Y, Ogawa I, Tatsuka M, Takashi T: Anglo-Japanese Symposium: Network for Internatioal Education and Research in Advanced Dental Sciences (東京), 2008.

#### G) 産学官連携事業およびフォーラム

#### H) その他 (社会貢献)

- 1: むし歯と検査 : 小川郁子, 北川雅恵, 古庄寿子 : 広島大学高校生公開講座 (広島), 2008.

#### (4) 科学研究費補助金等の受領状況

- 1: 科学研究費補助金 (基盤研究 (C)) 小川郁子 (代表, 新規), 唾液腺腫瘍の病理診断標準化のための組織学的ならびに分子生物学的研究. 課題番号 20592141, 1,300 千円.
- 2: 科学研究費補助金 (若手研究 (B)) 新谷智章 (代表, 新規), FGF 結合蛋白 FGFBP/HBp17 を標的にした口腔癌の分子標的治療の開発研究 (新谷智章) 課題番号 20791519, 2,100 千円.
- 3: 科学研究費補助金 (若手研究 (B)) 北川雅恵 (代表, 新規), スポンサーによる歯周組織再生応用への検討. 課題番号 20791339, 2,210 千円.

#### (5) 学会賞等の受賞状況

#### (6) 特許

[目次へ戻る](#)

## 歯科技工室

### (1) 職員並びに学生

歯科技工室長 : 二川浩樹 (併任)  
歯科技工士長 : 大倉啓孝  
主任歯科技工士 : 山本昌信, 埴生栄作, 大谷吉広, 山本明司, 加藤了嗣  
歯科技工士研修生 : 河村聡子, 小出華加

### (2) 主な研究活動

- 1: 義歯に埋入する患者データの方法の考案
- 2: 放射線治療補助装置 (スぺーサー) の製作法
- 3: インプラントの上部構造に関する研究
- 4: 各種前装歯冠補綴物における審美性の追及
- 5: 歯科鑄造物の適合性に関する研究
- 6: 歯科技工におけるコンピュータによる情報処理に関する研究

### (3) 研究業績

#### A) 原著

- 1: The pre-surgical modification of the provisional over-denture through 3-dimensional image analysis supports the mini dental implant treatment: A clinical report.: Seicho Makihira, Wataru Mizumachi, Kae Harada, Saiji Shimoe, Shinsuke Sadamori, Hiroki Nikawa. International Chinese Journal of Dentistry, 8, 39-41, 2008.
- 2: 三次元光造形モデルの口腔外科臨床への応用: 太田耕司, 南正彦, 武知正晃, 瀧雅行, 宮内美和, 東川晃一郎, 二宮嘉昭, 島末洋, 小野重弘, 重石英生, 西裕美, 牧平清超, 玉本光弘, 下江幸司, 野宗万喜, 村山長, 里田隆博, 二川浩樹, 鎌田伸之: 広大歯誌, 40,55-61,2008.

#### B) 総説

#### C) 著書

#### D) その他の出版物

#### E) 学会発表

- 1: 三次元光造形モデルの口腔外科手術臨床への応用: 南正彦, 太田耕司, 武知正晃, 宮内美和, 東川晃一郎, 島末洋, 小野重弘, 二宮嘉昭, 重石英生, 西裕美, 瀧雅行, 荒木結子, 首藤崇裕, 高橋愛里, 藤本佳那, 峯裕一, 三村純代, 牧平清超, 玉本光弘, 下江幸司, 村山長, 里田隆博, 二川浩樹, 鎌田伸之.: 第41回広島大学歯学会総会 (広島). 2008

2: 良き「教育者」をめざした卒前教育—「歯科臨床教育学」の口腔保健学科カリキュラムへの導入：竹本俊伸，小川哲次，田口則宏，仁井谷善恵，松本厚枝，原久美子，野宗万喜，杉山勝，天野秀昭，下江幸司，牧平清超，玉本光弘，村山長，里田隆博，二川浩樹.第 41 回広島大学歯学会総会（広島）、2008.

(4) 科学研究費補助金等の受領状況

(5) 学会賞等の受賞状況

(6) 特許

[目次へ戻る](#)

## 歯科衛生室

### (1) 職員並びに学生

歯科衛生室長 : 鎌田伸之 (併任)

歯科衛生士長 : 田村裕子

主任歯科衛生士 : 岩崎代利子, 中岡美由紀

歯科衛生士 : 河島明子, 米田美穂, 畠山知子, 梶谷佳世, 林田哲子, 宮川久美,  
時数智子, 松井加奈子, 矢野加奈子, 臺信花菜, 原奈緒美, 岡田美穂,  
沢理恵, 小内あゆみ, 高本愛, 河野いつか

歯科助手 : 大田有里, 玉元由香, 尾崎妃佐子, 矢田部まゆみ

### (2) 主な研究活動

- 1 : 歯科衛生士が行う口腔衛生に関する研究
- 2 : 歯科衛生士教育について
- 3 : 大学病院における歯科衛生士の役割について

### (3) 研究業績

A) 原著

B) 総説

C) 著書

D) その他の出版物

E) 学会発表

- 1: ホームホワイトニングにおいて歯科用分光光度計は効果的に使用された 1 症例 : 矢野加奈子, 富士谷盛興, 田村裕子 : 広島県歯科衛生士会学術発表 (広島), 2008
- 2: 小児歯科における歯周病原性細菌検出試薬パナペリオの有用性の評価 : 中岡美由紀, 光畑智恵子・林文子・鈴木淳司・香西克之 : 第 46 回日本小児歯科学会大会 (埼玉), 2008
- 3: 口腔ケアと肺炎予防 : 梶谷佳代 : 広島院内感染対策研究会 (広島), 2008
- 4: 歯科医学教育ワークショップ (歯科衛生士編) -カリキュラムデザイナーを開催して : 河島明子, 中岡美由紀, 岩崎代利子, 米田美穂, 田口則宏, 岡田貢, 田村裕子, 小川哲次 : 第 27 回日本歯科医学教育学会学術大会 (東京), 2008
- 5: 口臭診断における構成ガス分析の意義 : 岩崎代利子, 長谷川直彦, 川村優人, 小川文野,

日野孝宗，河口浩之，栗原英見：第1回日本口腔検査学会（東京），2008

- 6: ホームホワイトニングにおいて歯科用分光光度計は効果的に使用された1症例：矢野加奈子，富士谷盛興，柴田暁輝，白井憲一，田村裕子：第19回日本歯科審美学会（新潟），2008

## F) 講演

### （4）科学研究補助金等の受領状況

- 1: 奨励研究：時数智子，障害者のミュータンス連鎖球菌の分布様式と齲蝕発生リスクの解明について，課題番号20931007，510千円

### （5）学会賞等の受賞状況

### （6）特許

[目次へ戻る](#)

# 広島大学歯科診療所

## (1) 職員並びに学生

講師 : 吉野宏

助教 : 小原勝

## (2) 主な研究活動

- 1: 多剤耐性緑膿菌
- 2: HIV 診療体制構築

## (3) 研究業績

### A) 原著 (症例報告を含む)

- 1: 広島大学病院 (歯科) 総合診療室歯科治療ユニット水系の緑膿菌、レジオネラ属、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌と一般細菌検査: 小原勝, 吉野宏, 田口則宏, 田中良治, 田村裕子, 小川郁子, 菅井基行, 小川哲次: 広大歯誌, 40, 129-135, 2008.
- 2: Transcriptional promoter analysis on the nlpI gene expression in Escherichia coli K12. : Ohara M., Yoshino H., Ogawa T., Sugai M. : 広大歯誌, 40, 30-37, 2008.
- 3: Cytolethal distending toxin induces caspase-dependent and -independent cell death in MOLT-4 cells. : Ohara M., Hayashi T., Kusunoki Y., Nakachi K., Fujiwara T., Komatsuzawa H., Sugai M.: Infection Immunity, 76(10), 4783-4791, 2008

### B) 総説

### C) 著書

### D) その他の出版物

- 1: 栗原英見, 吉野宏, 中岡美由紀: 歯科医療における感染対策の実際: Infection control 17(6), 63-70, 2008

### E) 学会発表

## (4) 科学研究費補助金等の受領状況

- 1: 受託研究費: 中国・四国ブロックエイズ歯科医療システム構築に関する研究 3,000 千円

(5) 学会賞等の受賞状況

(6) 特許

[目次へ戻る](#)

## 医療情報室

### (1) 職員並びに学生

室長	: 香西克之 (併任)
教授	: 天野秀明 (兼任)
助手	: 大塚昌彦 (兼任), 田中武志
技官	: 柳田徳栄 (兼務)

### (2) 主な研究活動

- 1: 病院情報システムの開発と運営に関する研究
- 2: 医療情報学に関する研究

### (3) 研究業績

#### A) 原著 (症例報告を含む)

- 1: 地域 EHR と健康 IT カードを用いた災害－被災者情報システム：田中武志，石川澄，岩田則和，津久間秀彦，池内実，岩崎泰昌：日本医療・病院管理学会誌 Vol. 45 Suppl. pp. 120, 2008.
- 2: ハザードマップ情報を利用した災害－被災者情報システム構築に関する数値シミュレーション：田中武志，石川澄，津久間秀彦，岩田則和，池内実，岩崎泰昌，小西央郎：医療情報学 28 Suppl. pp. 737-740, 2008.
- 3: 地方における医療情報技師の研修に関する研究：岩本光実，若林信浩，岡田光典，藤井友広，守本京平，岩田則和，田中武志，池内実，津久間秀彦，石川澄：医療情報学 28 Suppl. pp. 342-344, 2008.
- 4: 病院情報システムにおける運用面での可用性に関する考察：岩田則和，田中武志，津久間秀彦，石川澄：医療情報学 28 Suppl. pp. 354-355, 2008.
- 5: 大規模災害も想定した救急医療情報システムの要件・・・関連多職種による非常時シミュレーションによる検討：石川澄，田中武志，津久間秀彦，岩田則和，岩崎泰昌，牛尾剛士，村井真，石黒満久，宝積泰史，益池寿子：医療情報学 28 Suppl. pp. 741-744, 2008.
- 6: 院外処方情報を軸とした地域連携システムの有用性：津久間秀彦，岩田則和，田中武志，池内実，岩崎泰昌，小西央郎，野村祐仁，石川澄：医療情報学 28 Suppl. pp. 1076-1077, 2008.
- 7: 医療安全向上の為に戦略ツールとしての電離医療記録－教育研修病院における臨床か低評価を目指した構造転換－：地域 EHR と健康 IT カードを用いた災害－被災者情報システム：石川澄，楠岡英雄，田中武志，津久間秀彦，松村泰志，河村明江，坂田香代，岩田則和，岩崎泰昌：日本医療・病院管理学会誌 Vol. 45 Suppl. pp. 91, 2008.

- 8: 医療情報のセキュリティを考慮した階層化：岩田則和，田中武志，津久間秀彦，石川澄：日本医療・病院管理学会誌 Vol. 45 Suppl. pp. 109, 2008.
- 9: The requirements for disaster-victim information system combined with regional EHR and health IT cards: T Tanaka, K Ishikawa, H Tsukuma, N Iwata, M Ikeuchi ,Y Iwasaki : Proceedings of the 10th China-Japan-Korea Joint Symposium on Medical Informatics, pp. 2-4. (Zhuhai, 2008).

B) 総説

C) 著書

D) その他の出版物

E) 学会発表

- 1: ハザードマップ情報を利用した災害－被災者情報システム構築に関するシミュレーション・モデル：田中武志，石川澄，津久間秀彦，岩田則和，池内実，岩崎泰昌，小西央郎：第 12 回日本医療情報学会春期学術大会（秋田）2008.
- 2: 地域 EHR と健康 IT カードを用いた災害－被災者情報システム：田中武志，石川澄，岩田則和，津久間秀彦，池内 実，岩崎泰昌：第 46 回日本病院管理学会学術総会（静岡）2008.
- 3: ハザードマップ情報を利用した災害－被災者情報システム構築に関する数値シミュレーション：田中武志，石川澄，津久間秀彦，岩田則和，池内実，岩崎泰昌，小西央郎：第 28 回医療情報学連合大会（横浜），2008.
- 4: 地方における医療情報技師の研修に関する研究：岩本光実，若林信浩，岡田光典，藤井友広，守本京平，岩田則和，田中武志，池内実，津久間秀彦，石川澄：第 28 回医療情報学連合大会（横浜），2008.
- 5: 病院情報システムにおける運用面での可用性に関する考察：岩田則和，田中武志，津久間秀彦，石川澄：第 28 回医療情報学連合大会（横浜），2008.
- 6: 大規模災害も想定した救急医療情報システムの要件・・・関連多職種による非常時シミュレーションによる検討：石川澄，田中武志，津久間秀彦，岩田則和，岩崎泰昌，牛尾剛士，村井真，石黒満久，宝積泰史，益池寿子：第 28 回医療情報学連合大会（横浜），2008.
- 7: 院外処方情報を軸とした地域連携システムの有用性：津久間秀彦，岩田則和，田中武志，池内実，岩崎泰昌，小西央郎，野村祐仁，石川澄：第 28 回医療情報学連合大会（横浜），2008.
- 8: 医療安全向上の為の戦略ツールとしての電離医療記録－教育研修病院における臨床か低評価を目指した構造転換－：地域 EHR と健康 IT カードを用いた災害－被災者情報システム：石川澄，楠岡英雄，田中武志，津久間秀彦，松村泰志，河村明江，坂田香代，岩田則和，岩崎泰昌：第 46 回日本病院管理学会学術総会（静岡）2008.
- 9: 医療情報のセキュリティを考慮した階層化：岩田則和，田中武志，津久間秀彦，石川澄：第 46 回日本病院管理学会学術総会（静岡）2008.
- 10: 次世代救急・災害支援情報システム－救急医療 Net in Hiroshima－広域対応を目途とするリ

アルタイム応需機能：石川澄，田中武志，津久間秀彦，岩崎泰昌，岩田則和，石黒満久，宝積泰史，益池寿子，村井真，坂上隆士：第12回日本医療情報学会春期学術大会（秋田）2008.

11: 次世代電子カルテシステムのセキュリティ要件 —叙述型データを中心に—：岩田則和，田中武志，池内実，津久間秀彦，石川澄：第12回日本医療情報学会春期学術大会（秋田）2008.

12: The requirements for disaster-victim information system combined with regional EHR and health IT cards : T. Tanaka, K. Ishikawa, H. Tsukuma, N. Iwata, M. Ikeuchi ,Y. Iwasaki : The 10<sup>th</sup> China-Japan-Korea Medical Informatics Symposium (Nov. 17-18, 2008, Zhuhai).

#### （4）科学研究費補助金等の受領状況

1: 2007年度大川情報通信基金研究助成（07-23）

#### （5）学会賞等の受賞状況

#### （6）特許

[目次へ戻る](#)